

六 事変をめぐる米国との関係

1 外交原則尊重に関する米国の諸声明

1297

昭和12年7月17日

在米国家齋藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

現下の国際情勢に対する米国家政府の一般方針

につき米国家國務長官が声明書発表について

別電

昭和十二年七月十七日發在米国家齋藤大使より

広田外務大臣宛第二六六号

右声明書

付記

昭和十二年七月十六日付

右声明書原文

ワシントン

7月17日後發

本

省

7月18日前着

第二六五號

(十六カ)

十七日夜米国家政府ハ「ハル」長官ノ名ヲ以テ現下ノ國際時局ニ對スル米国家政府ノ一般方針ニ關シ別電ノ如キ聲明書ヲ發表セルカ右ニ對スル各紙聞^(マ)「コメント」左ノ通り

「ハル」長官ハ「モア」參與官、「ホーレンベック」極

東部長、「ハックウオース」法律顧問、「デビス」、「マクマレイ」兩大使トノ間ニ數次會議ノ結果本聲明ヲ發表スルコトニ決シタルモノナルカ右ハ同日爲サレタル支那大使ノ「アツピール」及須磨參事官ノ長官訪問後ニ發表セラレタルモノナリ

二、聲明ノ内容ハ北支時局ニ言及スルコトヲ避クルト共ニ特殊國家ニ言及セス單ニ米ノ一般的外交方針ヲ公表スルニ止メ居ルモノニシテ又國際協定ノ遵守及條約ノ神聖ヲ強調シ居ルモノ九國條約及不戰條約ヲ引用シ居ラス尙新聞ハ右ニ關聯シ支那大使ハ十六日米国家政府ニ對シ覺書ヲ以テ支那ノ「アツピール」ヲ通達セル由ニテ右ハ現下ノ事態ヲ馴致セル各種ノ動機及日本軍ハ問題ノ地帶ニ於テ演習ヲ行フ權利ナキコト等ヲ繰返シ居ルモノト了解セラルル旨報道スルト共ニ支那ハ右ト同時ニ九國條約署名國及參加國立ニ獨、蘇政府ニ對シ同文覺書ヲ通達セルコトヲ附言シ居レリ

(紐育「タイムス」ノミ倫敦特電ニ基キ覺書「テスト」ヲ掲ケ居レリ)

英、紐育、桑港ニ轉報セリ

英ヨリ在歐各大使ニ轉報アリタシ

(別電)

ワシントン 7月17日夜発

本省 7月18日前着

第二六六號

世界各地ニ發生セル切迫緊張セル事態ハ一見單ニ隣接諸國ノミヲ渦中ニ捲込ムニ過キササルカ如キモ窮極ニ於テハ右ハ全世界ニ取り避ケ得ヘカラサル關心事ナリ武力ニ依ル敵對行爲若クハ其ノ脅威ヲ伴フカ如キ情勢ハ一切ノ國家ノ權利及利益ニ重大ナル影響又ハ其ノ脅威ヲ感セシムルモノナリ何レノ地域ニ於ケルヲ問ハス重大ナル敵對行爲ノ發生ニシテ何等カノ形ニ於テ米國ノ權益又ハ義務ニ影響セサルカ如キモノノ存在ハアリ得ス予ハ米カ深甚ノ關心ヲ有スルカ如キ國際問題及情勢ニ關スル米政府ノ立場ニ關シ聲明ヲ爲スニ付テ正當ノ理由ヲ有スルノミナラス事實上其ノ義務アリ

ト思考ス米ハ平常ニ平和維持ヲ強調シツツアリ吾人ハ(一)國家的及國際の時勢^(目前勢)(二)一切ノ國家カ政策遂行ノ爲ニスル武力行使又ハ他國ニ對スル内政干涉ノ回避(三)平和的協定ニ依ル國際諸問題ノ調整

(四)國際協定ノ忠實ナル遵守ヲ主張セリ吾人ハ(五)條約神聖ノ原則ヲ遵守スルト共ニ條約修正ノ必要アル時ハ相互扶助及和解ノ精神ヲ以テ實行セラルヘキ秩序アル手續ニ依リ之カ修正ヲ爲シ得ルコト(六)一切ノ國家ニ依ル他國ノ權利ノ尊重及既存義務ノ履行(七)國際法ノ復活及強化ヲ信ス吾人ハ(八)國際經濟安定ノ増進ニ對スル諸方策(九)國際貿易障壁ノ輕減又ハ排除(十)商業上ノ機會均等及一切ノ國家ニ對シ平等待遇ノ原則ノ勸奨等ヲ主張ス又(十一)軍備ノ制限及維持ハ必要ナルヲ信シ他ノ諸國ノ行フ軍備縮少又ハ擴張ニ順應シテ米自身ノ武力ヲ縮少又ハ擴張スルノ用意アリ更ニ吾人ハ他國トノ同盟又ハ米國ヲ紛爭ノ渦中ニ投スルカ如キ約束(entangling commitments)ヲ避クルモノナルモ平和的且實際的方法ニ依リ前記諸原則擁護ノ爲協調的努力ヲ爲シ居ルコトヲ信スルモノナリ

(中 語)

STATEMENT BY THE SECRETARY OF STATE

(欄外記入)
I have been receiving from many sources inquiries and suggestions arising out of disturbed situations in various

parts of the world.

Unquestionably there are in a number of regions tensions and strains which on their face involve only countries that are near neighbors but which in ultimate analysis are of inevitable concern to the whole world. Any situation in which armed hostilities are in progress or are threatened is a situation wherein rights and interests of all nations either are or may be seriously affected. There can be no serious hostilities anywhere in the world which will not one way or another affect interests or rights or obligations of this country. I therefore feel warranted in making — in fact, I feel it a duty to make — a statement of this Government's position in regard to international problems and situations with respect to which this country feels deep concern.

1 外交原則尊重に関する米国の諸声明

This country constantly and consistently advocates maintenance of peace. We advocate national and international self-restraint. We advocate abstinence by all nations from use of force in pursuit of policy and further interference in the internal affairs of other nations. We advocate adjustment of problems in international relations by processes of peaceful negotiation and agreement. We advocate faithful observance of international agreements. Upholding the principle of the sanctity of treaties, we believe in modification of provisions of treaties, when need therefor arises, by orderly processes carried out in a spirit of mutual helpfulness and accommodation. We believe in respect by all nations for the rights of others and performance by all nations of established obligations. We stand for revitalizing and strengthening of international law. We advocate steps toward promotion of economic security and stability the world over. We advocate lowering or removing of excessive barriers in international trade. We seek effective equality of commercial

opportunity and we urge upon all nations application of the principle of equality of treatment. We believe in limitation and reduction of armament. Realizing the necessity for maintaining armed forces adequate for national security, we are prepared to reduce or to increase our own armed forces in proportion to reductions or increases made by other countries. We avoid entering into alliance or entangling commitments but we believe in cooperative effort by peaceful and practicable means in support of the principles hereinbefore stated.

(欄外記入)

八月十四日在京米國大使館「クロッカー」書記官米洲局長ヲ來訪七月十六日國務長官ノ發表セル「ステートメント」接到セルニ付キ寫一通御目ニカクベシトテ手交シタルモノ

~~~~~

1298

昭和12年 7月21日

在米國齋藤大使より  
広田外務大臣宛(電報)

米國國務長官の求めに應じて会談したところ

同長官は中國問題での日本の自制を求め和平  
仲介の意向を表明について

ワシントン 7月21日後発  
本 省 7月22日前着

第二七七號

往電第二五三號ニ關シ

二十一日求メニ依リ國務長官ヲ往訪セル處大統領ニ報告ノ爲ラシク其ノ後ノ狀況ヲ尋ネタルニ依リ累次貴電ニ依ル情報殊ニ二十日支那側ヨリ再ヒ不法ナル砲撃アリ我方モ已ムヲ得ス砲兵ノミヲ以テ之ニ應戰セル次第ヲ説明セリ長官ハ更ニ今後ノ見透シ如何ニ付質問シタルヲ以テ我方事件不擴大ノ方針ヲ繰返シ説明シタル上右日本ノ態度ニモ不拘支那側カ不法射撃ヲ止メス蔣介石亦内政的立場ヨリ強硬態度ヲ執リ引續キ中央軍ヲ北上セシムル等ノコトアリテハ如何ニ進展スルヤ豫測シ難シト述ヘ置ケリ

然ルニ長官ハ日本ノ如キ強國ト支那ノ如キ大國トカ干戈ヲ交ヘル等ノコトアリテハ影響スル所少カラスト考ヘラレ憂慮ニ堪エス米國トシテハ歐洲ニモ種々ノ困難ナル問題ヲ存スル此ノ際世界ノ平和ヲ顧念スルコト切ナルモノアリ從テ

# 1 外交原則尊重に関する米国の諸声明

此ノ上トモ日本側カ自制的態度ヲ以テ事件ヲ解決セラレン  
コトヲ切望スル次第ナルカ又其ノ爲若シ米國トシテ日本側  
ナリ支那ナリノ爲何カ御役ニ立ツコトアラハ喜ンテ致度キ  
ニ付腹藏ナク御申立テ願度シト述ヘ同席ノ「ホーンベツ  
ク」ハ長官ハ右様申述ヘラルルモ何等特別ノ「フオーミユ  
ラ」ヲ有スル譯ニアラスト説明シ長官更ニ之ヲ敷衍シテ  
Mediation ニ至ラサル程度ニテ(Short of mediate)平和維持  
ノ爲米國トシテ爲シ得ルコトニテモアラハ何ナリトモ致度  
シトノ考ナルカ右趣旨ハ「グルー」大使ニモ訓令シ外務省  
ニ申出テシムルコトトセリ尙新聞ノ報道ニテハ先般ノ自分  
ノ聲明(往電第二二六六號)ハ日本ニテ評判好シカリシ趣ナル  
ニ付何トカ右ノ如キ精神ニテ平和ヲ維持スル方法ナキヤト  
思ヒ居レリト述ヘタルニ付本使ハ不取敢長官ノ配慮ヲ謝ス  
ルト同時ニ帝國政府ハ今回ノ事件ハ日支間丈ケニテ解決シ  
得又解決スヘキモノト考ヘ居レリ但シ御趣旨ハ能ク分リタ  
ルニ付本使ヨリモ本國政府ニ之ヲ傳フヘキ旨答ヘ置ケリ  
英ヘ轉電シ紐育、桑港ヘ暗送セリ  
英ヨリ在歐各大使(土ヲ除ク)ヘ轉報アリタシ

1299

昭和12年7月31日

在米國齋藤大使より  
広田外務大臣宛(電報)

日中紛争に対し米國大統領が戦争状態存在の  
宣言を行わない意味を米國上院外交委員長が  
声明について

ワシントン 発

本省 7月31日着

第三〇三號

北支事變ニ對スル中立法發動問題ニ關シ二十九日上院外交  
委員長「ピットマン」ハ大統領カ何故ニ日支紛争ニ對シ戰  
争状態存在ノ宣言ヲ躊躇シ居ルヤノ批評ニ答フル意味ヲ以  
テ聲明ヲ發表セリ尙諸新聞ハ本聲明ハ米國中立法ハ合衆國  
ノ安全ヲ増進スルコトヲ目的トスルモノニシテ交戰國ノ行  
動ヲ援助又ハ妨害スルコトヲ目的トスルモノニアラサル次  
第ヲ表示セントシタルモノナルコト「ピットマン」ハ上院  
ニ於ケル本聲明討議ニ際シ「ルーズベルト」大統領カ本件  
ニ關シ自重シ居ルハ中立法發動ニ依テ誘發セラルヘキ實際  
的紛糾以外ニモ種々ナル理由アルモノナリトノ印象ヲ與フ  
ル如キ説明ヲ爲セル外若シ米國政府カ日支間ニ戦争状態ノ

存在ヲ宣言スル場合ハ日本ニ對シテ宣戰ノ布告ナクシテ支那海港封鎖ノ口實ヲ與フルコトトナルヘシト述ヘタルコト及議院ハ其ノ場合米國ヲ米國以外ノ列國ノ極東ニ對スル通商其ノ他ノ關係ニ及ホスヘキ影響ニ付テモ責任ヲ負フコトトナルヘシトノ意見ヲ述ヘタルコト等ヲ報シ居レリ

1300

昭和12年7月31日  
在米國齋藤大使より  
広田外務大臣宛(電報)

## 米國中立法の日中紛争への適用問題に関する

### 米國紙論調報告

ワシントン 7月31日後發

本 省 8月1日前着

### 第三〇九號

米國現行中立法ニ付テハ制定當時ヨリ種々議論アリ就中中立法制定ノ精神ハ外國間ノ紛争ニ捲込マレサラントスルニアルヘキモ外國間ニ戰爭勃發スル場合ニハ米國ハ結局經濟的、社會的ニ多大ノ影響ヲ免レサルヘク中立法制定當時ヨリ寧ろ戰爭ヲ防止スルニ如カストカ或ハ中立法ハ歐洲ニ於ケル戰爭ニ限り可ナランモ極東ニ於ケル戰爭ニ付テハ結局

日本ノ侵略ヲ援助スルコトトナルヘク其ノ儘適用シ得サルヘシ等ノ議論アリタルカ今次北支事變勃發以來中立法適用問題ハ現實ノ問題トナリ各方面ニ於テ盛ニ論議セラルルニ至リタル爲政府筋ニ於テハ往電第三〇三號「ピットマン」聲明ニ依リ其態度ヲ明カニセリ之ニ對シ三十一日紐育「タイムス」社説ノ如キハ此ノ際中立法ノ適用カ米國ノ利益ヲ危殆ニ瀕セシムルモノトセハ中立法ハ結局實施不可能トナルヘキノミナラス支那ノ領土保全及門戶開放ヲ骨子トスル米國ノ傳統的極東政策ニ鑑ミ外國間ノ紛争ヨリ完全ニ超然タラントスル中立法ハ右政策ニ反スヘシトナシ又同日華盛頓「ポスト」紙上同紙有力記者「トーパー」ハ「ピ」聲明ノ趣旨ヲ敷衍セハ結局中立法適用ニ付テハ大統領ニ完全ナル行動ノ自由ヲ與ヘ必要アラハ中立法ヲ完全ニ無視スル迄ノ權限ヲ與フルノ要アルコトトナルヘシ又日支兩國何レカ宣戰ヲ布告スル場合ニハ米國ノ好ムト好マサルトニ拘ラス中立法ハ當然ニ適用セラレ米國政策ノ決定カ日支兩國ニ依リ爲サルルカ如キ矛盾アリト論シ居リ一方西班牙、「エチオピア」ニ適用シタルニ拘ラス北支事變ニ適用シ得サルカ如キ中立法ハ修正ノ要アリトノ議論モアル處國務省方面ニ

1 外交原則尊重に関する米国の諸声明

於テハ此ノ際中立法ノ修正ハ日本ニ對スル非友誼的行爲ト見ラルルヲ惧レ種々考慮ヲ繞ラシ居ルカ如シ  
紐育ヘ暗送セリ

1301

昭和12年8月9日

在米國齋藤大使より  
広田外務大臣宛(電報)

米國國務長官の七月十六日付声明に對し多数の國より賛意表示の回答がなされた旨米國政府公表について

別電

昭和十二年八月九日發在米國齋藤大使より広

田外務大臣宛第三三七号

主要国回答要領

ワシントン 8月9日後發

本省 8月10日前着

第三三六號

往電第二六五號ニ關シ

國務省ハ過般ノ「ハル」聲明ヲ在外使臣ヲシテ各任國政府ニ通達セシメタルニ對シ日、獨、伊、支那、西班牙等數箇國ヲ除ク四十數個國外務大臣ヨリ口頭又ハ文書ヲ以テ賛意

表示ノ回答アリタル趣ヲ以テ七日右内容ヲ公表セルカ(内容要領別電ノ通り)右ニ對シ八日各紙ハ左記要領ノ報道ヲ爲セリ

一、國務省ハ本件發表ニ際シ説明ヲ避ケ居ル處右カ政府外交政策ノ道程トシテ重大ナル意義ヲ有スルモノナルコトハ勿論ニシテ殊ニ政府カ外交方針ニ付テ列國ニ呼掛ケ其ノ意見ヲ求メタルハ未タ前例ナキ所ナリ(「ポスト」)

二、日、獨、伊三國ヨリハ未タ回答ナキ處「ハル」聲明ハ具體的事項ヲ舉ケ居ラサルニ拘ラス右カ西班牙及支那ノ事態ヲ目標トスルモノト解釋セラレタリトセハ極メテ興味アル次第ナリ此ノ外支那、西班牙及羅馬尼ヨリモ同様回答ナキ處羅馬尼ハ目下「ダニユープ」問題ノ主役タル關係上回答ヲ控ヘ居ルモノナラン(「タイムス」)

別電ト共二英、在米各領事ニ轉報セリ

英ヨリ在歐各大使ニ轉報アリタシ

(別電)

ワシントン 8月9日後發

本省 8月10日前着



第三三三號

主要國回答要領<sup>(1)</sup>

一、英國

「ハル」長官ノ國際問題及政治經濟上ノ情勢ニ關スル意見ニ對シ滿幅ノ贊意ヲ表ス

一、佛蘭西

世界列國間ノ連帶責任及武力ニ訴フル惧アル總テノ事態ニ對スル油斷ナキ注意ヲ要スルコト今日ノ如ク甚タシキヲ見ス佛ハ軍備制限ニ贊同スルト共ニ軍備制限ヲ目的トスル活動ニ都合好キ條件ニ對スル保障ト正義トノ實現ヲ希望ス

二、蘇聯<sup>(二、カ)</sup>

蘇聯邦ハ既二十年以前ニ於テ完全ナル全般的軍備撤廢及部分的軍備撤廢案ヲ提議セルト共ニ「ハル」長官ノ指摘シタル協調實現ヲ目的トスル永久的平和會議組織ヲ提案セリ

各大陸到ル所世界ノ全般的平和ニ對スル脅威ニ依ツテ滿タサレ居ル現下ノ國際情勢ハ地方的相互援助條約ノ如キ有力ナル中和作用ノ發動ヲ要求シツツアリ蘇政府ハ國際

平和樹立ノ重要過程ニ對シ多少ナリトモ貢獻シ得ヘキ「マニフェステイション」ニ對シテハ何時ニテモ參加ノ用意アリ

一、洪牙利

洪牙利ハ平和條約ニ基ク「ダニユーブ」流域ノ地位ハ最終的ノモノニアラスト思考スルト共ニ既ニシテ軍備撤廢會議カ失敗ニ歸シ全世界カ大規模再軍備計畫ヲ進メツツアル今日「フリーハンド」ヲ執ル必要ヲ感シツツアリ

1302

昭和12年8月11日  
広田外務大臣より  
在米國齋藤大使宛(電報)

米國國務長官の声明書に対する各国の賛意表明を米國政府が公表したことに關し事實關係および対処方針案回示方訓令

第二二五號

貴電第三三六號ニ關シ

貴電第二七七號ニヨレバ米國側ガ何カ爲シ得ルコトアラバ何ナリト致スベシトノ趣旨ヲ申出テタルノミニテ帝國政府

本省 8月11日後9時10分発

1 外交原則尊重に関する米国の諸声明

ノ意見表明方要求シ居ラサル如ク又七月二十二日「ゲル」大使本大臣來訪ノ際モ往電第一九六號ノ通り同様ノ趣旨ヲ述ヘタルノミニテ其際實ハ差上タベキ筋合ニハ非ルモ爲念ト稱シ殘シ去レル英文「メモ」ニモ國務長官ハ十六日聲明ノ「プリンシプル」ニ對シ各國ノ好意的意向表示ヲ希望シ居ルト(hoping for favourable expression of their views)竝ニ帝國政府ガ右長官ノ「プロگرام」ノ實現ニ協力スルコトトモナラバ同長官ノ頗ル欣快トスル所ナル趣旨ヲ貴大使ニ述ベラレタル旨ヲ記シアルモ同大使ヨリ本大臣ニ對シ此ノ點ニ關スル帝國政府ノ意向表明方特ニ要求スルカ如キ話ハナカリシ次第ナリ然ルニ冒頭貴電ニヨレバ恰モ帝國政府ハ米國ノ要求アリタルニ拘ラズ回答セザルガ如キ印象ヲ一般ニ與ヘコレニ基キ米國其他諸國ノ新聞ハ我方カ何カ後メタキコトアリテ回答セザルモノノ如キ論議ヲ爲シ居ルハ意外ニ堪エズ帝國政府トシテハ東亞特殊ノ事態ヲ充分考量ニ入ルル限り長官聲明ノ趣旨ニ同意ヲ表スルモノナルモ今日トナリテ態々回答ヲ發スルコトハ時期ヲ失シタルヤノ觀モアリ相當考究ノ要アリト存セラルル處二十一日會談ノ際長官ヨリ前顯「ゲル」ノ「メモ」ノ如キ申出ア

リタル次第ナリヤ又冒頭貴電ノ如キ處置ニ出デタルニ付テハ何等魂膽アリテノ次第ナルベキヤ差當リ本件措置振リニ關スル貴見ト共ニ回電アリ度シ

~~~~~

1303

昭和12年8月11日

在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

米國國務長官声明書への各國贊意表明を公表
したことに關し國務省極東部長が事情内話に
ついて

ワシントン 8月11日後發

本省 8月12日後着

第三四九號

貴電第二二五號ニ關シ「ハル」國務長官聲明ニ關スル各國
意嚮表明ニ關スル件)

十一日須磨情報供給ノ爲「ホーンベック」往訪ノ際夫レト
ナク「ハル」聲明ニ言及シ新聞ニ依レハ同聲明ニ對シ意見
ヲ表示シタル國ハ或ハ四十箇國トアリ或ハ三十七箇國トア
リテ一致セサルモ全部ノ意見表示ヲ待タスシテ之ヲ發表セ
ルハ如何ナル理由ニ出ツルヤト試ニ尋ネタル處「ホ」ハ實

ハ此ノ點ハ昨日長官ヨリモ話アリタル次第ナルカ米政府トシテハ一先ツ手許ニ集マリタル分ヲ第一回分トシテ公表セル迄ニシテ現ニ續々接到シツツアル殘餘ノ分ハ何レ集マリ次第又公表スル心組ナル處右第一回ノ發表力種々ノ誤解ヲ生シ新聞等ニテ特ニ日獨等ヨリハ回答ナシ等勝手ナ早合點ヲ爲シ時節柄不快ナル論評ヲ加ヘタルハ米國トシテモ頗ル迷惑ニ感シ居ル所ナリト述ヘタル趣ニテ國內關係ヲ考慮セルハ別トシ米側ニ於テ右公表ニ付特別ノ魂膽アリタルモノトモ思考セラレス又其ノ際ノ「ホ」ノ口吻ヨリ察スルモ米側ニ於テハ我方ヨリモ何等意思ノ表示アルモノト期待シ居ルカ如ク且二十一日ノ會談經過ハ往電第二七七號申進ノ通りニシテ其ノ際長官ヨリ聲明其ノモノニ對スル我方ノ回答等ヲ求メタルカ如キコトナキモ長官トシテハ同會談ノ際特ニ本件聲明ヲ本使ニ示シツツ篤ト其ノ重要性ヲ印象セシムルニ努メタル後(同電末段)(脱?)アリタル事實ニモ鑑ミ同會談ヲ通シ暗々裡ニ我方ノ意思表示ヲ希望シタル積リナリシヤニモ思考セラル旁々往電第三二八號ノ如キ米側ノ態度ヲモ考慮シ此ノ際帝國政府ニ於テモ當リ障リノナキ回答ヲ發セラルルコト極メテ適當ナルヤニ存セラル前記「ホ」ノ言

ニ徴スルモ未タ時機ヲ失セルモノトハ思考セラレス(現ニ獨逸側ノ回答ハ一兩日前接到セル由)

~~~~~

1304

昭和12年8月13日

広田外務大臣より  
在米國齋藤大使宛(電報)

米國國務長官聲明書に對するわが方意向を米  
國政府に伝達方訓令

別電 昭和十二年八月十三日發広田外務大臣ヨリ在

米國齋藤大使宛第二二九號

右わが方意向

本省 8月13日後8時50分發

第二二八號(至急)

貴電第三四九號ニ關シ

當方トシテハ意向表明方求メラレ居ルモノトハ解セサリシ爲回答セサリシ次第第二時期稍々遅レタルモ何等反對ノ意向ヲ有シタル譯ニ非ルコトヲ説明セラレ度ク貴電第三二八號ノ米側ノ態度ヲモ考慮シ別電第二二九號ノ帝國政府ノ意向表明スルコトトセルニ付出來得レバ貴電第三五一號ノ期限ニ間ニ合フ様先方ヘ可然傳達セラレ度シ

(別電)

第二二九號(至急)

本省 8月13日後8時50分發

帝國政府ハ七月十六日ノ國務長官聲明中ニ掲ケラレタル諸原則ニ對シテ贊意ヲ表スルモノナリ、但シ此等諸原則ヲ東亞ニ於テ適用スルニ當リテハ現ニ同方面ニ存スル特殊事態ヲ充分認識シ實際的ナル考量ヲ加ヘタル上ニテコレヲ爲スコト右諸原則所期ノ目的ヲ達成スル所以ナリト信ス

1305

昭和12年8月13日

在米國齋藤大使より  
廣田外務大臣宛(電報)

米國國務長官聲明書に對するわが方回答を國  
務長官へ手交について

別電 昭和十二年八月十三日發在米國齋藤大使より

廣田外務大臣宛第三五六號

右回答

ワシントン 8月13日後發

本省 8月14日前着

第三五五號

貴電第二二八號ニ關シ

十三日午前國務長官往訪別電第三五六號英譯文ヲ手交シニ十一日會談ノ際長官ヨリ帝國政府ノ意思表示ヲ求メララル旨ノ御言葉モナカリシ様記憶セラルルノミナラス「グルー」大使ヨリモ廣田大臣ニ別段意嚮表示ヲ求メラレサリシ爲帝國政府ヨリノ回答稍遲レタル次第ナリト説明セル處長官ハ米政府トシテハ何レノ國ニ對シテモ回答ヲ求メタルコトナク唯自分ノ聲明ニ對シ何等「コンメント」又ハ案モアラハ快ク喜ンテ承知シ度シト思ヒ居タルニ過キス然ルニ其ノ後各國ヨリ續々意嚮ノ表示アリタルニ付一應之ヲ取纏メ公表シタルニ外ナラスト釋明シ我方意嚮表明ニ對シテ謝意ヲ述ヘタリ尙其ノ際貴電合第九三七號其ノ他ニ基キ上海ノ最近ノ情勢ヲ簡單ニ説明シ目下情報電報到着シツツアルニ付何レ後刻須臾ヲシテ「ホーンベック」ニ詳細説明セシムヘキモ帝國政府トシテハ外國人ノ生命財産ノ保護ニ關シテハ從來通り萬全ノ策ヲ講シツツアルニ付御安心ヲ請フト述ヘタルニ對シ長官ハ支那各地ニ於ケル米國留民中ニハ無分別ノ者モアリ何等事件ヲ惹起スルコトナキヤヲ惧レ米政府

トシテモ右嚴戒方ニ關シ各地領事ニ訓電シアル次第ナレハ  
右ニ付テハ日本政府ニ於テモ此ノ上トモ御協力ヲ願フ次第  
ナリ又今次上海ノ事態ニ付テモ米政府トシテハ能フ限り日  
支間ノ衝突ノ發生セサルコトヲ希望シ其ノ趣旨ニテ双方ニ  
モ申入ヲ爲シ來リタル次第ナルモ遂ニ不幸ナル事態ニ立至  
ラントシツツアルハ頗ル遺憾ナルカ此ノ上ハ之力擴大セサ  
ルコトヲ切望スト述ヘタリ

英ニ轉電セリ

英ヨリ在歐各大使ニ轉報アリタシ

(別電)

ワシントン 8月13日後発  
本省 8月14日前着

第三五六號

Japanese Government wishes to express its concurrence with principles contained in statement made by Secretary of State Hull on 16th instant concerning maintenance of world peace. It is belief of Japanese Government that objectives of those principles will only be

attained, in their application to the Far Eastern situation, by a full recognition and practical consideration of actual particular circumstances of that region.

~~~~~

1306

昭和12年8月16日

在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

中立法適用問題など日中紛争への米國政府対
応方針に関する國務長官および上院外交委員
長の談話報道報告

ワシントン 8月16日後発
本省 8月17日後着

第三六四號

新聞報ニ依レハ

「ハル」長官ハ十四日新聞記者會見ニ於テ上海ヲ軍事行
動ノ基地トナラサル様折角日支兩國政府ニ申入レツツア
ルコト、日支紛争ノ爲被害カ米人ニ及ヒツツアルハ悲ム
ヘキコトナルコト、米政府ハ假令其ノ爲米人ノ生命カ失
ハルコトアリトスルモ紛争ニ捲込マルル意思ナキコト、
米政府ハ海軍ヲシテ支那ニ於ケル危險地帯ヨリ米國居留

民ノ總引揚方ニ付萬全ノ準備ヲ爲サシメツツアリ即チ命令一下支那ニ在ル艦船ヲ以テ三千ノ米國民ノ引揚ヲ全クシ得ヘキコト及引揚ノ決定ハ現地關係機關ノ裁量ニ一任シアルコト等ヲ述ヘ

二、同日外交委員長「ピットマン」ハ支那ノ新事態ハ明カニ戰爭ト認メラルルモ未タ當事國ノ何レヨリモ實際ニ宣戰ノ布告ヲ爲ササル以上戰爭狀態ノ有無ニ關スル裁量ハ大統領ノ權限ニ屬スルモノニシテ大統領ハ月曜又ハ火曜迄ニ何等カ本件ニ關スル聲明ヲ爲スモノト期待シツツアリト述ヘ上院議員(共和黨)「ナイ」ハ極東ノ事態ハ中立法ノ延遷ヲ許サス米國人ノ足ノ先ヲ踏ミタル如キ些細ナル事件ト雖米國ヲ紛爭ニ捲込ム可能性アルヲ以テ政府ハ速ニ居留民及守備兵並ニ艦隊ノ撤退ヲ行フヘシト主張シ又「ボラー」ハ此ノ際米ノ採ルヘキ政策ハ紛爭ノ圈外ニ立ツ以外ニナシ今ヤ世界ハ戰爭ト軍備ト税金ニ依ツテ自殺ヲ行ヒツツアリ吾人ハ戰爭ニ捲込マレサルコトニ依リ我等ノ文明ヲ最モ永ク維持シ得ヘシト述ヘタル趣ナリ

1307

昭和12年8月16日

在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

米國國務長官声明書に対する日独中などの回答を國務省が第二回分として公表した旨および中国政府の回答要旨につき報告

ワシントン 8月16日後発

本省 8月17日後着

第三六五號

十五日國務省ハ七月十六日ノ長官聲明ニ對スル我方及獨逸、支那等二十一箇國ノ回答ヲ第二回分トシテ公表セリ支那回答ノ要旨ハ支那政府ハ常ニ國際紛爭ヲ國際法上及條約上ノ平和的處理方法ニ依リ解決スルニ努メツツアルヲ以テ同國ノ政策ハ「ハル」長官ノ聲明ト全ク一致スルモノナリ日本トノ今次紛爭ニ關シテハ同國政府ノ態度ハ七月十六日米政府ニ提出セル覺書中ニ明カニシ置キタル所ト何等變更ナシト言フニアリ

1308

昭和12年8月19日

在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

米國政府が上海の事態に対して未だ中立法を
適用すべき事態に達していないとの方針を決
定した背景につき観測報告

ワシントン 8月19日後発
本 省 8月20日前着

第三七四號

往電第三二八號ニ關シ

一、其ノ後日支時局進展シ當國カ重大ナル利害關係ヲ有スル
上海方面ニ於テ大規模ノ戰鬪カ行ハレ在支米人ノ生命財
産危殆ニ瀕スルニ及ヒ當國政府トシテモ何等「ステツ
プ」ヲ執ルノ必要ニ迫ラレ居タルカ十七日ニ至リ往電第
三七〇號ノ通り

(イ)未タ中立法ヲ適用スヘキ事態ニ達セサルコト及

(ロ)在支米人ノ生命財産保護ノ爲海兵ヲ派遣スルコト

ヲ決定シタリ

二、右政府ノ方針決定ニ至レル經緯ヲ察スルニ當國一般ノ趨
向ハ冒頭往電、ノ通りナル處所謂孤立政策論者中ニハ直
ニ中立法ヲ適用スルノミナラス更ニ進ンテ在支米國權益
ヲ引揚ケ軍隊モ撤退スヘキコトヲ主張スル者アリ然ルニ

中立法ノ適用ニ付テハ

(イ)日支兩國ニ對スル貿易ニ甚大ナル影響アルコト

(ロ)結局日本ニ對シ有利ニシテ支那ニ不利ナルコト

(ハ)現ニ日本ハ米ヨリ武器類ヲ購入スルコト少ク支那ハ中
立法ノ適用ナクトモ日本海軍力ニ妨ケラレ米ヨリノ購
入困難トナルヘク從テ中立法ヲ適用スルモ餘リ效果ナ
カルヘキコト

(ニ)中立法ヲ適用スルモ米カ支那ニ駐屯セシメ居ル陸海兵
力ヲ撤退セサル限り米カ紛爭ニ捲込マルルノ惧アルコ
ト

(ホ)現時日本ノ行動ニ對シ戰爭行爲ナリトノ極印ヲ捺スモ
ノニシテ日本ヲ刺戟シ事態ヲ惡化スルコト

(ヘ)在支米人ノ生命財産ヲ保護スル所以ニアラサル
等ノ反駁論アリ況ンヤ在支米國權益ヲ引揚ケ軍隊ヲ撤退
スルカ如キハ諸列(強)ニ對シ米ハ卑怯者ナリトノ感ヲ與
ヘ世界各國ニ於ケル米ノ權益ニ迄重大ナル惡影響ヲ及ホ
スモノナリトノ意見有力トナリ茲ニ右決定ヲ見ルニ至レ
ルカ今後モ當國獨自ノ見地ヨリ大体右「ライン」ニ依リ
大ナル「デビエイション」ハナカルヘキヤニ認メラル

英へ轉電シ紐育、桑港、市俄古、羅府へ暗送セリ
英ヨリ土ヲ除ク在歐各大使、壽府へ轉報アリタシ

~~~~~

1309  
昭和12年8月23日

日中紛争を平和的に解決する上で米國政府が  
依拠する諸原則には九國條約や不戰條約が含  
まれるこの同國國務長官聲明

付記 右和文要約

Statement of Secretary Hull, Aug. 23rd, 1937

At the press conference of August 17th the Secretary of State announced, (1) legislative action to make available funds for the purpose of emergency relief necessitated by the situation in the Far East had been asked, (2) this Government had given orders for the Regiment of Marines to prepare to proceed to Shanghai. The Secretary then discussed at some length the principles of policy on which this Government was proceeding.

The situation at Shanghai is in many respects unique.

Shanghai is a great cosmopolitan center with a population of over three millions; a port which has been developed by nationals of many countries and there have prevailed mutually advantageous contacts of all types and varieties between and among Chinese and the people of almost all other countries of the world. At Shanghai there exists multiplicity of rights and interests which are of inevitable concern to many countries including the United States.

In the present situation the American Government is engaged in facilitating, in every way possible, orderly and safe removal of American citizens from areas where there is a special danger. Further it is the policy of the American Government to afford its nationals appropriate protection primarily against mobs or other uncontrolled elements. For that purpose, it has for many years maintained small detachments of armed forces in China, and for that purpose, it is sending the present small reinforcement. These armed forces there have no mission of aggression. It is their function to be of assistance toward the maintenance



of order and security. It has been the desire and intention of the American Government to remove these forces when the performance of their function of protection is no longer called for, and such remains its desire and expectation.

Issues and problems which are of concern to this Government in the present situation in the Pacific area go far beyond merely an immediate question of the protection of nationals and interests of the United States. Conditions which prevail in that area are intimately connected with, and have direct and fundamental relationship, to the general principles of policy to which attention was called in the statement of July 16th, which statement has evoked expressions of approval from more than fifty Governments. This Government is firmly of the opinion that the principles summarized in that statement should effectively govern the international relationship.

When there unfortunately arises in any part of the world the threat or existence of serious hostilities, the matter is of a concern to all nations. Without attempt to

pass judgment regarding merits of the controversy, we appeal to the parties to refrain from resort to war. We urge that they settle their differences in accordance with the principles which, in opinion not alone of our people but of most peoples of the world, should govern in the international relationships. We consider applicable, throughout the world, in the Pacific area as elsewhere, the principles set forth in the statement of July 16th. That statement of principles is comprehensive and basic. It embraces the principles embodied in many treaties including the Washington Conference Treaties and the Kellogg Briand Pact of Paris.

From the beginning of the present controversy in the Far East, we have been urging upon both Chinese and Japanese Governments the importance of refraining from hostilities and of maintaining peace. We have been participating constantly in consultation with the interested Governments directed toward peaceful adjustment. This Government does not believe in political alliances or

engagement, nor does it believe in extreme isolation. It does believe in international co-operation for the purpose of seeking, through a pacific method, the achievement of those objectives set forth in the statement of July 16th. In the light of our well defined attitude and policies, and within the range thereof, this Government is giving the most solicitous attention to every phase of the Far Eastern situation toward safeguarding lives and welfare of our people, and making effective policies in which this country believes and to which it is committed. This Government is endeavoring to see kept alive, strengthened, and revitalized, in reference to the Pacific area and to all the world, these fundamental principles.

(付記)

「ハル」聲明(昭和十二年八月二十三日)

(1) 極東ノ事態ニ基ク緊急救済ノ爲必要ナル資金捻出方ノ立法手段ヲ執ラレタリ。

(2) 政府ハ海軍陸戦兵ノ一聯隊ニ對シ上海向出發準備ヲ命セ

り。

次テ長官ハ現政府ノ依據スル政策ノ原則ニ關シ次ノ如ク若干説明ヲ加ヘタリ。

上海ニ於ケル事態ハ凡ユル意味ニ於テ特異ナルモノナリ上海ハ人口三百萬ヲ越ユル大國際都市諸國民力其ノ發展ニ寄與セル港ニシテ其處ニ集マル支那人及各國民ノ間ニ種々ノ相互ニ利益ヲ及ホス探觸<sup>(接触)</sup>ヲ生シタリ上海ニハ多様ナル權利ト利益存在シ之カ必然的ニ米國ヲ含ム多數ノ國家ノ關心事タル理ナリ。

現在ノ狀態ニ於テハ米國政府ハ特別ノ危險ノ存スル地域ヨリ米國國民ヲ安全ニ引揚クルヘク萬全策ヲ講シ居レリ更ニ主トシテ暴民或ハ他ノ不統制分子ニ對處スル爲我國民ニ適當ナル保護ヲ與ルハ米國政府ノ方針ナリ其ノ目的ノ爲永年ニ亘リ米國政府ハ支那ニ少數ノ駐屯軍ヲ維持セルカ今回モ其ノ同シ目的ノ爲少數ノ増派部隊ヲ派遣セル理ナリ此等兵力ハ何等侵略ノ意圖ヲ有セス秩序ト安全ノ維持ノ爲援助スル事カ其ノ目的ナリ而シテ此ノ保護ヲ必要トセサル狀態トナレル時ハ此等兵力ヲ撤退セシムルコトハ米國政府力從來希望シ、意圖シ、來リタルモノニシテ今モ右ニ變化ナシ。

太平洋區域ノ現事態ニ關シ現政府ノ意願ヲ離レサル問題ハ米國國民及其ノ利益ノ保護ナル直接ノ問題以上ノモノアリ同區域ニ現存スル事態ハ五十餘ノ政府ノ贊意ヲ得タル彼ノ七月十六日聲明ニ於テ注意ヲ喚起セル政策ノ要則ニ直接根本的ノ關係ヲ有スルモノナリ我政府ハ右聲明ニ要約セラレタル諸原則カ國際關係ヲ有效ニ規律スヘキヲ確信スルモノナリ。

世界ノ何處ニ於テモ戰鬪ノ脅威アルカ若シクハ現ニ戰鬪狀態カ存スル時ハ之ハ總テノ國家ノ關心事ナリ紛争ノ是非善惡ニ關スル判斷ヲ下サス先ツ我々ハ双方ニ對シ戰争手段ヲ避クヘキヲ訴フ我々ハ當事者双方カ我國民ノミナラス世界大多數ノ國民カ國際關係ヲ處理スヘキ原則トナストコロノモノニ從ヒ相互ノ紛争ヲ解決スヘキヲ勸說スル七月十六日ノ聲明ニ於テ明ラカニセル原則ハ太平洋區域ニ於テモ他ノ何處ニ於テモ要スルニ世界ヲ通シ適用セラレルヘキモノト吾人ハ思考ス右原則ノ聲明ハ包括的且根本的ナリ夫レハ華府條約及「ケロツグ・ブリアン・パクト」ヲ含ム多數ノ條約ニ盛ラレタル諸原則ヲ包含スルモノナリ。

極東ニ於ケル現紛争ノ當初ヨリ吾人ハ日支双方ニ對シ戰鬪

行爲ノ中止ト平和維持ノ重要性トヲ勸說シ來レリ吾人ハ平和的調整ノ目標ニ向ヒ關係諸國政府ト當ニ接觸ヲ保テリ。本政府ハ政治的同盟又ハ協約ヲ斥クルモ極端ナル孤立モ亦其ノ避クルトコロナリ本政府ノ信條ハ七月十六日ノ聲明ニ規定セラレタル諸目的達成ヲ平和的方法ヲ以テ計ルヘク國際的ニ協調スルニアリ此ノ明白ニセラレタル我態度ト政策ニ從ヒ而シテ其ノ範圍内ニ於テ現政府ハ目下我國民ノ生命安全ヲ衛リ我國カ其ノ信條トシ且ツ現ニ「コミット」セル諸政策ヲ有效ニ作用セシムル爲極東事態ノ諸相ニ深甚ノ注意ヲ拂ヒツツアリ本政府ハ之等根本原則カ太平洋區域及世界各地ニ於テ活用サレ強化サレ復活セラルヘク當ニ努力シ居ルモノナリ。

1310

昭和12年8月26日 在ニューヨーク若杉總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

米国务務長官の八月二十三日付声明に関する

米国紙論說報告

ニューヨーク 発

本 省 8月26日後着

特情紐育第一五七號

二十五日ノ「ニューヨーク・タイムス」ハ「米國ノ極東政策」ト題スル論說ヲ掲ケ次ノ如ク述ヘテ居ル

今回ノ「ハル」國務長官ノ聲明ハ中立法ノ規定スル精神即チ米國カ外國ノ紛爭ニ捲込マレルヲ避ケル爲出來ル丈ケ早ク米國人ヲ危險地帶カラ引揚ケル政策ニ一歩進メ否反對ニ方向ヲ轉換シテ今回ノ紛爭力不戰條約、九國條約ヲ含ム一般政策ニ關スル問題ヲ含ム旨ヲ指摘シテ居ル點ニ注意スヘキテアル尤モ聲明中ノ字句ハ頗ル注意深く使用サレ「ハル」長官ノ政策カ從前ノ米國極東政策トハ異ルモノナルコトヲ示シテ居ル

最後ニ「ハル」長官ハ日支兩國カ今カラテモ戰爭回避ノ手段ヲ發見スルコトヲ希望シ米國政府ハ從來他ノ利害關係國ト平和解決ノ爲協力シテ來タカ將來モ此ノ努力ヲ續ケル旨ヲ確言シテ居ル

1311

昭和12年9月13日

在ニューヨーク若杉總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

日中紛争に関連して米国内で屑鉄の輸出

制限問題が重大化しつつあるとの観測報告

ニューヨーク 9月13日後発

本省 9月14日前者

商第一六三號

屑鐵輸出制限問題ハ最近東洋及歐洲ニ於ケル需要激増ニ刺戟セラレ擡頭シ來リ九月八日下院外交委員長「マク、レイノルド」ハ來議會ニ於ケル右法案支持方ヲ聲明シ次テ十一日上院軍事委員會ハ屑鐵輸出増加ノ影響ニ關スル議會ノ調査強化方ヲ慫慂シ陸海軍當局モ商務及内務兩當局ト共ニ右調査ニ協力センコトヲ期シ從來餘リ氣乗セサリシ國務長官亦之カ支持ニ傾キタル旨傳ヘラレ居ル處日支事變ニ關聯大問題トナリツツアル中立法ノ發動如何ニ拘ラス屑鐵ノ輸出制限問題ハ早晩實現セラルルモノト觀測スル向アリ殊ニ本年内ニ特別議會ノ召集アルヤノ噂モアリ、本問題ハ益々重大視セラルルニ至レリ屑鐵輸出ハ商務省統計ニ依レハ本年一月ヨリ七月ニ至ル累計二百六十萬噸此ノ金額五千百九十五萬弗昨年同期ニ比シ數量ニ於テ一〇五%ノ激増ヲ示シ右ノ内對日輸出ハ百五十二萬噸ニシテ第一位ヲ占メ昨年同期ニ比シ二倍以上ノ増加ナリ

而シテ本品ノ米國供給量ハ商品ノ性質上正確ナル見込付カサルモ一箇月約二、三〇〇萬噸ニ過キサルヲ以テ其ノ内今迄ノ輸出货量一箇月最高四、〇五〇萬噸<sup>編輯</sup>ト見テモ今後日本、英國、伊國等ヘノ輸出激増シ米國消費亦増加スルノ傾向ニ對シ米國側力警戒シツツアルハ無理ナラサル次第ナルヘシ本問題ヲ本邦側ヨリ觀レハ本邦消費量一箇月十六萬噸トシ米國ヨリノ輸入ヲ十五萬噸トシテモ之カ輸送ニハ日本定期船ニ頼ル能ハス歐洲船ニ頼ラントスルモ船腹ハ次第ニ缺乏シ來リ備船ニハ手續ニ二、三週間ヲ要スヘク又一艘ノ滿船量七千噸トシテモ十五萬噸ニ對シテハ二十艘餘ヲ要スルノミナラス積取ニハ一船一箇所ニテモ二、三週間ヲ要スル處最近C・I・O所屬ノ労働者ハ日本向貨物ノ荷役ヲ停止セントスルノ運動モ起リツツアル由ニテ今後ノ情勢ハ懸念スヘキモノ多キニ付當地本邦商社ハ買付ヲ急カントスルモ三、四箇月ノ先物契約ニテ相當ノ資金(噸當リC・I・F三十三弗五十仙トシ一箇月十五萬噸ニ對シ約五百萬弗)ヲ要スルカ爲替管理ノ爲資金難ニ陥リ目下買付停頓ノ體ナリ右ノ次第ニ付今後本邦ニ於ケル屑鐵需要増加カ必然ナルニ於テハ本品思惑取引ヲ誘致スル惧アル場合ノ對策ハ別個ニ

考慮スルコトトシ此ノ際當地買付ノ時機ヲ失セサル様爲替管理等ニ付テモ特ニ考慮ヲ拂フコト急務ナリト存セラル米ヘ暗送セリ

編注 「最高四、〇五〇萬噸」の部分は、「最高四、五十萬噸」と後日訂正された。

~~~~~

1312

昭和12年9月15日
在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

米國政府所有船による日中双方への軍事物資
輸送を禁止する旨米國政府声明について

ワシントン 9月15日前発
本 省 9月15日後着

第四五九號

十四日米國政府ハ左記趣旨ヲ聲明シタリ

一、政府所有ノ商船ハ今後更ニ通告スル迄本年五月一日大統領布告(西班牙内亂ニ中立法ヲ適用シタルモノ)ニ掲ケタル武器彈藥其ノ他ノ戰爭要具ヲ支那又ハ日本ニ運搬スルコトヲ許可セサルコト

三、政府所有以外ノ米國商船ニシテ前記ノ武器類ヲ支那又ハ日本ニ運搬セントスルモノハ今後更ニ通告スル迄自己ノ危険ニ於テ爲スモノナルコト

三、中立法適用ノ問題ハ現狀ノ通りナルコト

英ヨリ在歐各大使及壽府へ轉電アリタシ

英へ轉電セリ



1313

昭和12年9月15日

在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

日中紛争の局外に立つべしとの米国内の論調

とその米國政府に及ぼすべき影響について

ワシントン 9月15日後発

本省 9月16日前着

第四六三號

米國政府ニ於テハ屢次往電ノ通り今次日支事變ニ捲込マルルヲ避クヘシトノ意見一般ヲ風靡シ居リ殊ニ平和團體及議會方面ヨリハ中立法ヲ適用シテ完全ニ今次事變ノ局外ニ立ツヘシトノ意見有力ニ主張セラレ居ルニ鑑ミ(一)先ツ事件ニ捲込マルル原因トナル惧アル在支米國居留民ニ付テハ極力

引揚ケシムル様努力シ特ニ大統領ハ過般在支米國居留民ニシテ引揚ヲセサル者ハ自己ノ危険ニ於テ留マル旨ヲ聲明シテ在支米國居留民ノ引揚ヲ強ク勸告スル所アリ(二)日本帝國海軍ノ支那沿岸封鎖ノコトアルヤ米國船舶ノ封鎖區域航行就中支那向ケ武器類ヲ搭載シテ航行スルコトハ日本側ノ態度ニ鑑ミ何時日本側トノ間ニ悶着ヲ惹起シ事件ニ捲込マルルコトナルヤ測ラレサルヲ以テ曩ニハ米國船舶ノ支那沿岸方面航行ニ對シ警告ヲ發シ(地中海ニ於ケル海賊潜水艦横行ニ關聯シ同方面ニ於ケル米國船舶航行ニ對シ警告シタルモ外國ノ紛争ニ捲込マレサラントスル米國政府ノ方針ニ出ツ)更ニ往電第四六二號聲明ニ依リ中立法ノ適用ニ依ラスシテ事實上米國船舶ニ依リ日支兩國向ケ武器輸送ヲ阻止スルコトトシ又(三)大統領ハ去ル十一日紐育州「ハイドパーク」ニ於テ米國カ今次事件ニ捲込マレサル爲有ユル努力ヲ爲シツツアルコトヲ明ニスル等ノ措置ニ出テタルモノト認メラル

要スルニ今次事件ニ對スル當國政府ノ態度ハ完全ニ事件ノ局外ニ立ツコトヲ趣旨トスル所謂孤立主義ト世界平和乃至極東問題ニ關スル米國從來ノ方針ノ行懸上米國カ今次事件

ノ處理ニ乗出スコトヲ趣旨トスル所謂集團保障主義ニ付中間ヲ歩ミ來リタルモノナルカ漸次輿論ニ押サレ孤立主義ノ方向ニ傾キツツアルモノト認メラル
英、紐育、桑港、市俄古へ轉電セリ
英ヨリ在歐各大使、壽府へ轉報アリタシ

1314 昭和12年9月18日 在米國斎藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

政府所有船による日中兩國向け武器輸出を禁
じた米國政府の措置に対し中国が王正廷大使
を通じて抗議した旨報告

ワシントン 9月18日後発
本省 9月19日後着

第四七一號

往電第四五九號ニ關シ

王正廷ハ十七日日本國政府ノ訓令ニ基キ國務長官ニ對シ口頭
ヲ以テ今回ノ武器輸送禁止ニ關スル聲明ハ實際上支那ニ對
スル武器ノ輸送ヲ封スト共ニ制海權ヲ握リツツアル日本
ニ對シ有利ナル結果ヲ生スルコトナル次第ニテ支那ニ對

シ好マシカラサル印象ヲ與ヘツツアリトノ趣旨ヲ申入レタル趣ナルカ右會見後長官ハ新聞記者會見ニ於テ記者ノ質問ニ答ヘ聲明ニ明示セラレ居ル以外何等附加スル必要ヲ認メスト答ヘタル趣ニテ「タイムス」ハ長官ノ口吻ニ依レハ右抗議ハ既定方針ニ影響ヲ及ホスカ如キコトナカルヘシト傳ヘ居レリ

英、紐育ニ轉報セリ
英ヨリ在歐各大使、壽府ニ轉報アリタシ

1315 昭和12年10月5日

米國大統領のシカゴにおける演説

PRESIDENT ROOSEVELT'S ADDRESS AT CHICAGO,

October 5, 1937.

I am glad to come once again to Chicago and especially to have the opportunity of taking part in the dedication of this important project of civil betterment.

On my trip across the continent and back I have been shown many evidences of the result of common-sense

cooperation between municipalities and the Federal Government and I have been greeted by tens of thousands of Americans who have told me in every look and word that their material and spiritual well being has made great strides forward in the past few years.

And yet as I have seen with my own eyes the prosperous firms, the thriving factories, and the busy railroads, — as I have seen the happiness and security and peace which covers our wide land, almost inevitably I have been compelled to contrast our peace with very different scenes being enacted in other parts of the world. It is because the people of the United States under modern conditions must for the sake of their own future give thought to the rest of the world that I, as the responsible executive head of the nation, have chosen this great inland city and this gala occasion to speak to you on a subject of definite national importance.

The political situation in the world, which of late has been growing progressively worse, is such as to cause

grave concern and anxiety to all the peoples and nations who wish to live in peace and amity with their neighbors.

Some fifteen years ago the hopes of mankind for a continuous era of international peace were raised to great heights when more than sixty nations solemnly pledged themselves not to resort to arms in furtherance of their national aims and policies. The high aspirations expressed in the Briand-Kellogg Peace Pact and the hopes for peace thus raised have of late given way to a hastening^(?) fear of calamity. The present reign of terror and international lawlessness began a few years ago.

It began through unjustified interference in the internal affairs of other nations or the invasion of alien territory in violation of treaties, and has now reached a stage where the very foundations of civilization are seriously threatened. The landmarks and traditions which have marked the progress of civilization toward a condition of law, order and justice are being wiped away. Without a declaration of war and without warning or justification of

any kind civilians including women and children are being ruthlessly murdered with bombs from the air. In times of

so-called peace ships are being attacked and sunk by submarines without cause or notice.

Nations are ^(fomenting ?)forming and taking sides in civil warfare in nations that have never done them any harm. Nations claiming freedom for themselves deny it to others.

Innocent peoples and nations are being ^(sacrificed ?)cruelly sacrificed to a greed for power and supremacy which is devoid of all sense of justice and humane consideration.

To paraphrase a recent author, 'Perhaps we foresee a time when men, exultant in the technique of homicide, will rage so hotly over the world that every precious thing will be in danger; every book and picture and harmony ^(every x ?)treasure garnered through two ^(millenniums ?)millenniums, that small, the delicate, the defenseless — all will be lost or wrecked or utterly destroyed.'

If those things come to pass in other parts of the world let no one imagine that America will escape, that it may

expect no mercy, that this Western Hemisphere will not be attacked and that it will continue tranquilly and peacefully to carry on the ethics and the arts of civilization.

If those days come 'there will be no safety by arms, no help from authority, no answer in science. The storm will rage till every flower of culture is trampled and all human beings are leveled in a vast chaos.'

If those days are not to come to pass, if we are to have a world in which we can breathe freely and live in amity without fear — the peace-loving nations must make a concerted effort to uphold laws and principles on which alone peace can rest secure. The peace-loving nations must make a concerted effort in opposition to those violations of treaties and those ^(instances ?)ignoring of humane instances which today are creating a state of international anarchy and instability from which there is no escape through mere isolation or neutrality.

Those who cherish their freedom and recognize and respect the equal rights of their neighbors to be free and

live in peace must work together for the triumph of law and moral principles in order that peace, justice, and confidence may prevail in the world. There must be a return to a belief in the pledged word in the value of a signed treaty. There must be a recognition of the fact that national morality is as vital as private morality.

A bishop wrote me the other day, 'It seems to me that something greatly needs to be said in behalf of ordinary humanity against the present practice of carrying the horrors of war to helpless civilians especially women and children. It may be that such a protest might be regarded by many who claim to be realists as futile but may it not be that the heart of mankind so filled with horror ^(horror #) at the present needless suffering that force could be mobilized in sufficient volume to lessen such cruelty in the days ahead. Even though it may take twenty years, which God forbid, for civilization to make effective its corporate protest against this barbarism surely strong voices may hasten the day.'

There is a solidarity and an interdependence about the modern world both technically and morally which makes it impossible for any nation completely to isolate itself from economic and political upheavals in the rest of the world, especially when such upheavals appear to be spreading and not declining. There can be no stability for peace either ^(or #) within nations between nations except under laws and moral standards adhered to by all.

International anarchy destroys every foundation for peace. It jeopardizes either the immediate or the future security of every nation, large or small. It is therefore a matter of vital interest and concern to the people of the United States that the sanctity of international treaties and the maintenance of international morality be restored.

The overwhelming majority of the peoples and nations of the world today want to live in peace. They seek the removal of barriers against trade. They want to exert themselves in industry, in agriculture and in business that they may increase their wealth through the production of

wealth producing goods and must find some way to make their will prevail. (以下 prevail を「勝つ」カ)

In those nations of the world which seem to be piling armament on armament for purposes of aggression and those other nations which fear acts or aggression against them and their security, a very high proportion of their national income is being spent directly for armaments. It runs from thirty to as high as fifty per cent.

The proportion that we in the United States spend is far less — eleven or twelve per cent.

How happy we are that the circumstances of the moment permit us to put our money into bridges and boulevards, dams and reforestation, the conservation of our soil, many other kinds of useful works rather than into huge standing armies and machine guns and cannon for destruction of human lives and useful property. (以下 property を「財産」カ) (以下 砲台を「カ」)

The situation is definitely of universal concern. The questions involved relate not merely to violations of specific provisions of particular treaties, they are questions

of war and of peace, of international law and, especially, of principles of humanity. It is true that they involve definite violations of agreements and especially of the Covenant of the League of Nations, the Briand-Kellogg Pact and the Nine-Power Treaty. But they also involve problems of world economy, world security and world humanity.

It is true that the moral consciousness of the world must recognize the importance of removing injustices and well founded grievances, but at the same time it must be (aroused to) around to the cardinal necessity of honoring sanctity of treaties, of respecting the rights and liberties of others, and of putting an end to acts of international aggression.

It seems to be unfortunately true that the epidemic of world lawlessness is spreading.

When an epidemic of physical disease starts to spread the community approves and joins in a quarantine of the patients in order to protect the health of the community against the spread of the disease.

It is my determination to pursue a policy of peace and

to adopt every practicable measure to avoid involvement in war. It ought the be inconceivable that in this modern era ⁽¹⁰²⁾ in the fact of experience any nation could be so foolish and ruthless as to run the risk of plunging the whole world into war by invading and violating, in contravention of solemn treaties, the territory of other nations that have done them no real harm and which are too weak to protect themselves adequately. Yet the peace of the world and welfare and security of every nation is today being threatened by that very thing.

No nation which refuses to exercise forbearance and to respect the freedom and rights of others can long remain strong and retain the confidence and respect of other nations. No nation ever loses its dignity or good standing by conciliating its differences and by exercising great patience with and consideration for the rights of other nations.

War is a contagion whether it be declared or undeclared. It can engulf states and peoples remote from the original scene of hostilities.

We are determined to keep out of war yet we cannot insure ourselves against the disastrous effects of war and the dangers of involvement. We are adopting such measures as will minimize our risk of involvement but we cannot have complete protection in a world of disorder in which confidence and security have broken down.

If civilization is to survive the principles of peace must be restored. Shattered trust between nations must be revived.

Most important of all, the will for peace on the part of peace loving nations must express itself to the end that nations that may be tempted to violate their agreements and the rights of others will desist from such a cause. There must be positive endeavors to preserve peace.

America hates war. America hopes for peace. Therefore, America actively engages in the search for peace.

編 注 本文書は昭和十五年二月、亜米利加局第一課作成「對

米外交關係主要資料集」より抜粋。本文書には誤字、脱字が見られるが原文のまま採録した。

1316 昭和12年10月6日

米大統領のシカゴ演説に反駁した情報部長談話

情報部長談(十月六日)

世界ハ人類ノタメニ與ヘラレタモノテアル。正直ニシテ勤勉ナル國民ハコノ地上イカナル所ニ於イテモ幸福ニ生存シ、生活ヲ享受シ得ル資格カアル筈テアル。然ルニ怠惰ニシテ過去ノ蓄積ニ依ツテ幸福ニ生活シテ居ルモノカアル一方正直ニシテ勤勉ナル國民カ生存ヲ拒マレタシタナラハコレ程ノ不公平カアルテアロウカ。榮根譚ニ「物平ヲ得サレハ鳴ル」ト云フ言葉カアル、政治ノ要諦ハ不平者ヲシテ鳴ラシメサルコトテアル。コレハ國內政治ニツイテ然ルノミナラス國際政治ニ於テモ同様テアル。

日本ハ五十年間二人口ハ倍加シタ。然ルニ狭小ナル島國外ニ發展ノ地ヲ求メントスレハ各地テ拒マレテキル。「アメリカ」合衆國カ我カ移民ヲ阻止シテキルコトハ人類ノ自然

ノ法則ニ反スル。日本國民ノ尤モ遺憾トスルコロコトアル。然シ又世界ハ現ニ「持テル國」ト「持タナイ國」トノ争カアル。資源原料分配ノ不公平ノ聲カ甚シク騒キ立テラレテキル。若シコノ不公平カ是正サレナイトスレハ、「持テル國」カ「持タナイ國」ニ對シ既得權利ノ讓歩ヲ拒ンタナラハ、コレヲ解決スル途ハ戦争ニヨルノ外ハナイテハナイカ。シカシ我國民ハ權利トシテ要求ヲナスモノテハナイ。西洋流ノ權利ノ觀念ハ東洋人ノ氣持ニ反スル。勤勉ニシテ正直ナル日本國民ハ人類ニ與ヘラレタル世界ニ於テ幸福ナル生活ヲ享受シ得ル十分ノ資格ヲ有スルコトヲ要求スルノテアル。

「アメリカ」大統領ノ演説カ支那事變ヲ念頭ニ置イテナサレタトスルナラハ、茲ニ東洋ニ起リツツアル現下ノ問題ニツイテモ前述ノ所説ヲ適用スルコトカ出來ル。日本カ大陸ニ對シテ平和的發展ヲ行ハントスルノハ日本人ノ幸福ヲ求ムル爲メノミナス支那人ニモ亦同様ニ幸福ヲ與ヘントスルモノテアル。日本ハ支那人ニ平和の提携ヲ求メテキルノテアル。然ルニ支那カ武力テコレヲ拒ム故ニ今日ノ事變カ起ツタノテアル。ケレトモ支那ノ識者ハ必スヤ日本ノ眞意

ヲ諒解シテ世界平和ノタメニ共存共榮ノ途ニ進ムニ至ルコトヲ信シテ疑ハナイ。



1317
昭和12年10月6日

中国における日本の軍事行動を九国条約および

不戦条約違反とする米国外務省の声明

付記 右和訳文

SINO-JAPANESE SITUATION:

CONCLUSION REGARDING ACTION OF JAPAN

(Released October 6)

The Department of State has been informed by the American Minister to Switzerland of the text of the report adopted by the Advisory Committee of the League of Nations setting forth the Advisory Committee's examination of the facts of the present situation in China and the treaty obligations of Japan. The Minister has further informed the Department that this report was adopted and approved by the Assembly of the League of

Nations today, October 6.

Since the beginning of the present controversy in the Far East, the Government of the United States has urged upon both the Chinese and the Japanese Governments that they refrain from hostilities and has offered to be of assistance in an effort to find some means, acceptable to both parties to the conflict, of composing by pacific methods the situation in the Far East.

The Secretary of State, in statements made public on July 16 and August 23, made clear the position of the Government of the United States in regard to international problems and international relationships throughout the world and as applied specifically to the hostilities which are at present unfortunately going on between China and Japan. Among the principles which in the opinion of the Government of the United States should govern international relationships, if peace is to be maintained, are abstinence by all nations from the use of force in the pursuit of policy and from interference in the internal

affairs of other nations; adjustment of problems in international relations by process of peaceful negotiation and agreement; respect by all nations for the rights of others and observance by all nations of established obligations; and the upholding of the principle of the sanctity of treaties.

On October 5 at Chicago the President elaborated these principles, emphasizing their importance, and in a discussion of the world situation pointed out that there can be no stability or peace either within nations or between nations except under laws and moral standards adhered to by all; that international anarchy destroys every foundation for peace; that it jeopardizes either the immediate or the future security of every nation, large or small; and that it is therefore of vital interest and concern to the people of the United States that respect for treaties and international morality be restored.

In the light of the unfolding developments in the Far East, the Government of the United States has been forced

to the conclusion that the action of Japan in China is inconsistent with the principles which should govern the relationships between nations and is contrary to the provisions of the Nine Power Treaty of February 6, 1922, regarding principles and policies to be followed in matters concerning China, and to those of the Kellogg-Briand Pact of August 27, 1928. Thus the conclusions of this Government with respect to the foregoing are in general accord with those of the Assembly of the League of Nations.

(付記)

米國務省ノ聲明(十月六日)

國務省ハ「スキス」駐劄「アメリカ」公使ヨリ二十三ヶ國諮問委員會テ可決サレタ支那ニ於ケル現在ノ狀勢竝ニ日本ノ條約上ノ義務ニ關スル報告書ノ成文ヲ接受シタカ公使ハ同時ニ十月六日聯盟總會カ右報告書ヲ採擇承認シタ旨ヲ報告シテ來タ。

極東ニ現在ノ紛争力起ツタ當初ヨリ米國政府ハ日支兩國政

1 外交原則尊重に関する米国の諸声明

府ニ對シ戰闘中止ヲ勸告シ平和的手段ニ依リ紛爭當事國ノ双方ニトツテ受諾シ得ヘキ何等カノ和協手段ノ發見ニ助力スルコトヲ申出タ、國務長官ハ去ル七月十六日ト八月二十三日ニ聲明書ヲ發表シ、國際問題及ヒ全世界ヲ通シテノ國際關係ニ對スル米國政府ノ見解ヲ闡明シタ是等ノ聲明ハ特ニ戰闘行爲ニ適用サルヘキモノテアルカ、不幸ニシテ目下日支兩國間ニ此ノ戰闘行爲力行ハレツツアル米國政府力平和維持ノタメ國際關係ヲ支配スヘキ諸原則ト信スルモノノ内ニハ

一、政策遂行ノタメノ武力行使竝ニ他國ノ内政干渉ヲ排除スル。

一、國際關係諸問題ノ調整ニハ平和的商議及ヒ協定ニヨル。

一、各國民カ他國民ノ權利ヲ尊重シ且ソノ義務ヲ遵守スル。

一、條約神聖ノ原則ヲ保持スル。

「ルーズベルト」大統領ハ十月五日「シカゴ」ニ於テ之等ノ原則ヲ闡明シ、ソノ重要性ヲ強調シタ、更ニ大統領ハ世界ノ情勢ヲ檢討スルニ當ツテ

一、各國力遵守スル法律ト道德律ノ下ニ於ケルニ非サレハ一國內ニモ國際間ニモ安定ト平和ノ存シ得サルコト。

一、國際的無政府狀態ハ平和ノ基礎ソノモノヲ破壊スルモノナルコト。

一、而シテ之カ直ニ若クハ將來ニ於テ大小ヲ問ハス各國ノ安定ヲ危殆ニ陥レルコト。

一、從ツテ條約竝ニ國際道德尊重ノ精神カ恢復サレルコトハ米國民ノ最大關心事テアルコトヲ指摘シタ。

米國政府ハ極東ニ於ケル事態ノ推移ヲ觀察セル結果支那ニ於ケル日本ノ行動ハ國際關係ヲ律スヘキ諸原則ト矛盾シ且一九二二年六月二日締結サレタ支那ニ關スル九ヶ國條約及一九二八年八月七日締結サレタ不戰條約ノ規定ニ違反スルトノ結論ニ到達セサルヲ得サルニ至ツタ如上、米國政府ノ到達シタ結論ハ國際聯盟總會ノ採擇シタ結論ト一般的ニ一致スルモノテアル。

編 注 本付記は、昭和十二年十月、情報部作成「支那事變關

係公表集(第一號)」から抜粋。

~~~~~

1318

昭和12年10月8日

在米國齋藤大使より  
広田外務大臣宛(電報)



米大統領のシカゴ演説および十月六日付國務省声明をめぐる國務長官との意見交換について

ワシントン 10月8日前発

本省 10月8日夜着

第五二三號(極秘)

七日本使國務長官ヲ往訪(「ホーンベック」同席)先ツ本使ヨリ本日ハ本國政府ヨリノ訓令ニ依ルニアラス自分ノ思付ニテ訪問シタル次第ニテ今次市俄古ニ於ケル大統領ノ演説、國務省聲明アリ米政府ニ於テ今次日支事件ニ付如何ニ考慮シ居ルヤ其ノ眞意ヲ伺ヒ又日本側ニ對シ何等注文アラハ之ヲ伺ヒ度シト思ヒ御伺ヒシタル旨ヲ述ヘタル上米大統領及國務省聲明ヲ見ルニ米政府力極東ニ於ケル一般的状态乃至其ノ他ニ付初メテ積極的ニ一般的批判ヲ加ヘタルモノト認メラルカ此ノ際右演説乃至聲明ヲ爲シタルハ何等特別ノ理由アル次第ナリヤト問ヒタルニ長官ハ豫テヨリ御話シタル通り米政府ハ其ノ平和ニ對スル重大關心ヨリ日支兩國ノ爲ニ御役ニ立ツコトアラハ何ナリトモ盡力致度ク思ヒ居タルカ右方針ニハ何等變更ナシ唯聯盟ニ於テ五十箇國モ集リ日本ノ態度ニ付決議シタルニ依リ米トシテモ平和維持ノ見

地ヨリ聯盟ト同様ノ見解ヲ有スルコトヲ表明セサルヲ得サリシ次第ナリ日本ノ行動カ條約違反ナリト言明セルモ聯盟ニ於テ同主義ノ決議ヲ爲シタルニ依ルモノナリト答ヘタルニ付本使ハ元來聯盟ナルモノハ不合理ニシテ自分モ滿洲事變當時聯盟ノ討議ノ模様ヲ目ノ邊リ見タルカ中南米ノ諸國ノ代表者カ事態ニ關スル充分ノ認識モナク「アカデミツク」ニ日本ノ態度ヲ非難シ投票シテ決議ヲ爲シタル様ノ仕末ニシテ決議ニ參加シタル國ノ數ハ多クトモ斯ル實際ノ事態ニ即セサル決定ハ日本トシテ承服スルヲ得サリシ譯ナリ米カ獨自ノ立場ヨリ聯盟同様ノ見解ヲ表明セラレタルハ已ムヲ得ストスルモ遺憾ニ存スル次第ナリト述ヘ更ニ今後ノ米政府ノ行動ニ關シ餘リ早マリタル質問ニテ或ハ御伺ヒスヘキ筋合ニアラサルカトモ思考スルモ米政府トシテハ九箇國條約關係國ノ會議參加ヲ考慮ニ置カルルヤト問ヒタルニ長官<sup>(2)</sup>ハ本問題ニ付テハ新聞記者ニハ聯盟ノ決議及我聲明ニ示サレタル通りト話シ置キタルカ今次ノ國務省聲明以上ニハ申上クルコトヲ得スト答ヘタリ

次テ本使ヨリ日本ハ今次事變ヲ以テ條約違反ト認メ居ラス今次ノ行動ハ戰爭ニアラス又日本ハ何等支那ニ領土的野心

# 1 外交原則尊重に関する米国の諸声明

ヲ有セス支那ノ領土的、行政的保全ヲ犯サス從テ條約違反ナリトノ非難ハ日本トシテ受入レルヲ得ス日本ハ平和ヲ愛好スルモ支那カ共產黨ト提携シテ排日政策ニ邁進シ來リタル爲日本ハ自衛ノ爲已ムヲ得ス劍ヲ以テ立チタルモノニシテ若シ日本カ中途ニテ手ヲ引ケハ支那ハ之ヲ弱味ト考ヘ益事態ヲ惡化スルノミナリ今次事變ニ關シ米國カ折角公正中立ノ態度ヲ取り居ラルルニ顧ミ之ニ累ヲ及ホスコトヲ惧レ今日迄本使トシテハ外部ニ對シ國務省ヲ蔑ニシ直接國民ニ對シ意見ヲ表明スルコトヲ差控ヘ來リタルカ米政府ニ於テ日本ノ行動ヲ以テ條約違反ナリト聲明シタルニモ鑑ミ今後ハ日本ノ態度ニ付一般民衆ノ了解ヲ深ムル必要モアリ新聞等ヨリ問合セアリタル場合ニハ右ノ趣旨ニテ應答スルコト已ムヲ得サルニ至レリト述ヘ

更ニ日米關係ハ本事件以來一見改善セラレタルヤニ認メラレ日本側ニ於テハ一般ニ米國ハ支那問題ノ爲ニ戰爭ヲ賭スルモノニアラサルコトヲ漸次了得シ米國側ニ於テモ一般民衆ノ間ニ支那ニハ戰爭シテ迄擁護スル程度ノ緊切ノ利益ナシト認識スルニ至リ右風潮ハ頗ル結構ト存スル次第ニシテ本件落着後ハ更ニ一層日米關係改善ノ望ミアリト思考スル

處今次大統領演說等カ右改善ノ機運ニ累ヲ及ホスヘシトハ思ハサルモ日本ノ輿論ニ面白カラサル影響ヲ及ホシタル事實ナリ

又外國ヨリ日本ニ道德的壓迫ヲ加フレハ折角日本政府ニ於テハ速ニ本事件ノ結末ヲ附ケント努力シ居ルモ國論硬化ノ爲右努力カ頗ル困難トナルヘキコトヲ惧ル又支那カ「エンカレッツジ」セラルレハ外國ノ援助ニ頼リ益事件ヲ長引カシメ却テ米國側ノ希望スル所ト反對ノ結果ヲ來スヘキコトヲ憂フ就テハ今後米國ニ於テ何等措置ニ出ツル場合ニハ右ノ點ヲ充分考慮ニ入レラレンコトヲ望ムト述ヘタルニ長官ハ良ク了解セリト述ヘタリ

次ニ「ホーンベック」ヨリ日本ハ本事件ヲ速ニ終了シ度シト言ハレタル處如何ナル事態ニ達スレハ終了ト考ヘラルル儀ナリヤト問ヒタルニ付本使ハ支那側カ軍事行動ヲ斷念シ根本的ニ反省シテ誠意ヲ以テ日支提携ニ關スル日本ノ要望ヲ受入ルル迄ニ到ラサレハ終了セサルヘシト答ヘタルニ「ホ」ハ然ラハ軍事行動カ終了セサレハ事件ハ終了セサルヤト問ヒタルニ付本使ハ今日ノ狀態ニテハ其ノ通りナリト答ヘタリ

終リニ長官ヨリ重ネテ米國トシテハ日支双方ノ同意シ得ル  
カ如キ解決ヲ爲ス爲ニ御役ニ立ツコトアラハ何ナリトモ致  
スヘシト述ヘタルニ付本使ハ日本政府トシテハ今日ノ狀態  
ニ於テハ米國其ノ他第三國ノ干涉ハ事態ヲ益惡化スルモノ  
ト信シ居レリト述ヘ置ケリ  
紐育、桑港ニ託送セリ  
英ニ轉電セリ

1319

昭和12年10月8日

在米國斎藤大使より  
広田外務大臣宛(電報)

米國大統領のシカゴ演説および十月六日付国  
務省声明の背景に関する觀測報告

ワシントン 10月8日後発

本 省 10月9日前着

第五二七號

今次市俄古ニ於ケル大統領演説及國務省聲明ノ重點ハ要ス  
ルニ今次日支戰鬭者間ニ捲込マレサルコト及其ノ範圍ニ於  
テハ國際協力ニ依リ平和確保ノ爲協力スルコトノ二點ニ在  
リ從テ從來ノ米政府ノ態度ニ根本精神ニ於テ變更有リト認

ムルコトヲ得サル處對内的ニハ上院議員「ブラツク」ノ大  
審院判事任命問題等ニ關連スル陰鬱ナル空氣ノ轉換ノ必要  
及日支事變ニ關スル輿論ノ壓迫強キモノ有リ一方對外的ニ  
ハ聯盟其ノ他諸外國方面ニ於テ日支事變ニ關シ米ノ協力ヲ  
要望スルモノ切ナルモノ有リ旁從來ノ消極的態度ヨリ一步  
ヲ進メ國際協力ニ依ル平和確立ノ方面ヲ強調シタルモノト  
認メラル

英、紐育、桑港ヘ轉電セリ

英ヨリ在歐各大使、壽府ヘ轉報アリタシ

1320

昭和12年10月12日

在仏國杉村大使より  
広田外務大臣宛(電報)

英米の対日態度硬化に対しては上海共同防衛  
や海關制度の強化などにつき協定の用意を明  
示して安心感を与えるべき旨意見具申

パリ 10月12日後発

本 省 10月13日前着

第六〇〇號

英米ノ我ニ對スル態度最近急ニ硬化シ始メタルハ空爆ニ對

スル反感ヨリモ支那ニ有スル莫大ノ權益ヲ擁護セントノ現實の念慮ニ出ツルモノ多シト認メラルル處我方ニ於テ列國ノ權益尊重ニ付累次聲明セラレタルモ戰鬪及封鎖ニ依ル貿易及海關收入ノ激減殊ニ戰禍ニ對スル賠償ノ責任ヲ拒否セラレタル結果之ヲ支那ニ求メントスルモ支那ノ支拂能力ハ戰敗ニ依リ益々減殺セラレ他面戰鬪ニ依ル破壊ハ愈大ナラントスル事實ニ徴シ一日モ早ク有效ナル自衛ノ策ヲ講ゼントスルニ至レルモノニシテ此ノ際我ヨリ進ンテ右權益ノ保全ニ付何等カ具體的意思表示ヲ爲シ以テ多少ナリトモ安心ヲ與ヘラルルコト緊切ナリト思考セラル例ヘハ上海ノ共同防衛及海關ノ問題ノ如キハ從來モ列強間ノ特殊協定ニ屬シ九國條約第七條ノ適用トハ獨立ニ關係列強トノ間ニ話合ヲ遂ケ得ル性質ノモノナレハ聯盟ノ決議ニ基ク會議參加ヲ拒絶セラルルモ右ニ付テハ別個ニ了解ヲ着ケ得ル餘地存スルヲ以テ此ノ際早キニ及ンテ上海ノ安全及海關制度ノ強化ニ付列強ト協定スルノ用意アル旨ヲ明示セラレ以テ英米ニ安心ヲ與ヘラルルコト機宜ノ措置ト存セラル英ノ銀行家力戰鬪ノ終熄ヲ熱望スルノ餘リ我ニ對スル信用ノ拒絶ニ付昨今眞面目ニ考慮シツツアリトノ國際決濟銀行筋ヨリノ聞込モ

アリ右取急キ卑見申進ス

米、在歐各大使(土ヲ除ク)、壽府へ轉電セリ

~~~~~

1321

昭和12年10月13日

在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

対日經濟制裁の方法や影響に関する米國紙論

説報告

ワシントン 発

本 省 10月13日前着

特情華府第一二號

十日「ニューヨーク、タイムズ」

「米國ハ何處迄乗出スカ」ト題スル「エドウィン、ジェームス」論評左ノ通り

「聯盟竝ニ米國政府カ日本ニ加ヘタ糾弾カ夫レノミテ日本今後ノ「プログラム」ヲ變更セシメルニ何等決定的效果ヲ奏シ得ナイコトハ明白テ關係各國カ口頭ノ非難攻撃以上ニ何ヲナセハヨイカト言フコトハ關係各國ノ直面シツツアル重大問題テアル

三、九國條約ハ何レノ國カ會議ヲ招集スルカ又ハ如何ナル會

議ヲ招集スヘキカト言フコトヲ規定シテ居ナイノミナラス同條約違反國ニ對スル制裁手段ヲ規定シテ居ナイカ制裁問題ハ會議ト重大關係カアル

三、凡ソ經濟制裁ノ方法ニハ政府ノ手ニ依ル「ボイコット」ト民間ノ「ボイコット」ノ二ツカアリ前者ハ「エチオピア」戰爭ニ際シ伊太利ニ實施セラレントシタカ失敗ニ終リ後者ハ獨逸ニ對シテ行ハレントシテ同様效果カナカタ日本ニ對シ政府ノ命令ニ依ル「ボイコット」ヲ行ハントシテモ恐ラク所期ノ目的ヲ達シ得ナイト思ハレル日本ノ輸出ノ大半ヲ占メルモノハ絹タカ其ノ半分ハ生糸デアリ其ノ加工ハ日本カラ輸入スル國テ行ハレ且其ノ加工品ハ其ノ國テ賣捌カレルノテアルカラ果シテ日本ノ絹ヲ「ボイコット」シ得ルカ否カハ甚タ疑問タ

四、一方鐵、石油ノ輸出禁止ハ日本ニ非常ナ打撃ヲ與ヘルコトハ勿論タカ之ハ各國間ノ協力ヲ要シ且政府ノ行動ヲ必要トスル然シ政府ノ行動ニ基ツク限り政治家ハ慎重ヲ期セネハナラナイ即チ石油ハ對伊太利經濟制裁ニ際シテ問題ニナツタカ米國ニ漁夫ノ利ヲ占メラレルコトヲ恐レタ爲ト伊太利カ石油ノ制裁ハ伊太利ニ對スル挑戰ヲ意味ス

ルモノタト英國ヲ脅喝シタ爲ニ遂ニ實施サレナカツタ兎モアレ列國ハ日本ノ報復ヲ豫期セスシテ經濟制裁ヲ斷行スルコトハ不可能タ若シ英、米、蘭三國カ石油輸出禁止ノ舉ニ出テンカ日本ハ精々九箇月乃至一箇年分ノ石油貯藏ヲ有シテ居ルニ過キナイカラ相當ノ危機ニ曝サレルコトニナラウカ日本カ海軍力ヲ以テ輸出禁止ヲ打破セントスル可能性カ考ヘラレル

五、日本ノ報復ノ目標ハ香港ニ向ケラレルモノト思ハレルカ現ニ英國ハ香港ニ輕巡洋艦四隻ヲ有スルノミテアリ又英國ハ獨伊兩國ニ備エル必要上本國艦隊ヲ極東ニ廻スコトハ困難ナ立場ニアル然ルニ他方米國海軍ハ事實上太平洋ニ集中サレテ居ルカラ日本ニ壓迫ヲ加ヘル必要アル場合米國カ如何ナル態度ヲ採ルカカ問題トナル一九三一年「スチムソン」長官ノ提議ニ對シ英國ハ米海軍カ「スチムソン」ノ意ノ儘ニ動かカ何ウカト疑ツタソウタカ此ノ關係ハ現在ニ於テモ同様テアル

六、世界ハ一九一四年以來根本的ニハ變ツテ居ナイ依然武力ノ行使、武力ノ脅威カ世界政局ノ決定的要素トナツテ居ル我等ハ日本ト戰フ用意アリヤ然ラサレハ自重セヨト言

ヒタイ

1322

昭和12年10月13日

在米国家斎藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

九国条約締約国の協調や相互関係における基
本原則の尊重を高唱した米国家大統領のラジオ
演説報告

ワシントン

発

本 省 10月13日後着

特情華府第一三號

十二日夜「ルーズヴェルト」大統領カ「ラヂオ」ヲ通シテ
行ツタ「爐邊談話」中外交問題ニ關スル部分左ノ通り
我々ハ生活水準ノ向上ヲ企圖スル米國ノ計畫カ目下世界ニ
發生シツツアル諸事件ニ依テ重大ナ支障ヲ受クヘキコトヲ
承知シテ居ル萬一米國以外ノ各國カ戰爭ノ混沌狀態ニ陥ル
ナラハ世界通商ハ完全ニ阻害サレ協定ニ依テ世界通商ヲ促
進セントスル企圖ハ凡テ無効ニ終ルテアラウ米國ハ全世界
ニ亘ル文化的價值ノ破壊行為ニ對シ無關心タリ得ナイ我々
ノ世代ノミナラス子孫ノ平和ヲモ希求スル

現下ノ情勢ニ於テ余カ「デモクラシー」ニ望ムモノハ戰爭
カラノ超然態度ハ決シテ戰爭ニ對スル無頓着カラ來ルモノ
テナイ所以ヲ承知シテ欲シイコトテアル相互猜疑ノ世界ナ
レハコソ確乎トシテ平和ヲ樹立セネハナラスノタ平和ハ單
ニ希望スル丈ケテ達セラレルモノテナイ又手ヲ束ネテ到來
ヲ待ツヘキモノテモナイ

米國ハ九國條約國會議ニ參加ノ意圖ヲ明白ニシタ同會議ノ
目的ハ協約ニ依テ支那ノ現事態解決ヲ圖ルコトテアルカ此
ノ解決策發見ニ當ツテ日支以下九國條約國印國ト協力スル
ト云フノカ米國ノ同會議ニ參加スル理由テアルスル協調コ
ソ延イテハ將來全世界平和達成ニ導ク有力ナル一方策ノ前
例トナルテアラウ人類文明發展ノ基礎ハ個人力相互關係ニ
於テ或程度ノ基本的禮儀ヲ遵守スルコトニ在ル世界平和發
展ノ基礎モ亦同様ノ意味ニ於テ各國力相互關係ニ於ケル基
本的禮儀ヲ尊重スルコトニ存スル要スルニ余ノ希望スル所
ハ上海ノ如キ行動原理ノ違反ニ世界各國民ノ安寧ヲ害ネル
ト云フ事實ヲ各國力は認シテ呉レルコトテアル

一九一三年カラ一九二一年迄余ハ世界ノ諸問題ニ親シク携
ハリ其ノ間幾多ノ爲スヘキコトト爲スヘカラサルコトヲ學

ンタ米國ノ智性タル常識ハ「米國ハ戰爭ヲ嫌惡スル米國ハ平和ヲ欲スル夫レ故ニ米國ハ積極的ニ平和ノ探究ニ乗出スノテアル」トノ余ノ聲明ト一致スルモノテアル

1323

昭和12年10月13日
在ソ連邦重光大使より
広田外務大臣宛(電報)

在ソ連邦米國大使に対して事變の経緯および
わが方立場を説明し意見交換について

モスクワ 10月13日後発
本省 10月14日後着

第一〇〇八號(極秘)

「ル」⁽¹⁾大統領ニ近キ當地米大使「デービス」數箇月ノ歐洲各地視察(自用「ヨット」使用)ノ上最近當地ニ歸リ更ニ近々歸米ノ由ニ付九日會見時局ニ付二時間ニ亘リ私的意見ノ交換ヲ爲セリ要領左ノ通り報告ス

事變ノ經緯ニ付テハ本使ヨリ詳細説明ヲ爲シ聯盟ノ決議及「ハル」長官ノ聲明ハ事件ノ真相及日本政府ノ意嚮ヲ無視シタル宣傳の報道ニ基ク立論ニシテ誠ニ遺憾ナル旨ヲ委細ヲ盡シテ述ヘタルニ米大使ハ御説明ハ自分ニハ能ク了解セ

ラルモ現ニ軍事行動ノ進行シ空爆ノ行ハレ居ル今日右ノ事情ヲ感情的世論ニ了解セシムルコトハ困難ト思ハルルニ付右日本政府ノ眞意ナルモノヲ如實ニ示ス方法ヲ世界ニ示サル様希望ニ堪エストノコトナリシカ本使ハ進ンテ支那ノ赤化セラレ抗日戦線ハ今日ニ於テハ露支共通ノモノト化シ蘇聯ハ國際聯盟ヲ自己ノ政策實現ニ利用シツツアリ

即チ此ノ機會ニ豫テヨリ敵視セル日本ノ地位ニ對シ打撃ヲ加ヘ進ンテ東亞ノ赤化ヲ實現スヘク凡ユル策動ヲ爲シツツアル經路ヲ具體的ニ詳述シ尙日本國情ノ容易ナラサル所以即チ資源ニ開サレタル孤島ニ於テ急迫セル人口問題ニ悩マサレ然モ人ト物トノ自由輸出ヲ阻止セラレ居ル今日ノ世界ニ於テ米國ニ依リ開國セシ後七十年赤化ノ危險ニ直面スルニ至レル日本ノ情況ヲ指摘シ赤化ノ手ハ支那、滿洲、蒙古ノミナラス日本ニ對シテモ伸ヘラレ今日ハ日本カ此ノ赤化勢力ニ對シテ防禦ニ成功スルカ否カノ岐路ニ立チ居ル次第ニシテ餘リニ重大複雑ナル事態ニ付米國ノ感情論ヨリ觀ハ日本ノ行動ノ部分部分ニ付了解ニ苦シムコトアランモ米國要路ハ日本ノ困難ナル此ノ根本的立場ニ付テ少クトモ理解スヘク努力ヲ試ムルノ雅量ヲ示サルルコトハ米國ノ正義感

ヨリモ必要ナルヘシ

自分ハ更ニ一言シ度キハ日本ハ右赤化勢力ノ防止ハ如何ナル事情アルモ之ヲ國外即チ東亞大陸ニ於テ行ハサルヘカサル事情ニアルコトナリ若シ日本カ赤化勢力ノ防禦戰ヲ國內ニ於テ戰ハサルヘカラサルコトナラハ日本自身ニ對スル危險餘リニ大ナルコトトナレハナリ以上ハ日本今日ノ「ストラツグル」(死闘)ノ要點ナリ若シ外國カ強ヒテ自ラ目ヲ覆ヒ此ノ事情ヲ理解スルコトヲ欲セストスルモ日本ハ此ノ「ストラツグル」ヲ續行スルノ外ニ殘サレタル途ハナシ何トナレハ何國モ日本ヲシテ覆没ノ途ヲ擇ハシムルノ權利ナケレハナリト力説シタル處「デビス」ハ熱心ニ傾聽シタル後自分ハ一週後出發歸米ス大統領ニハ早速面會スヘキニ付前回ノ通り(本使發米宛第一號(往電合第三三號)前回同大使歸米ノ際日本ノ對支、對露其ノ他一般政策ヲ耳ニ入レタルコトアリ)充分大統領ニモ傳フヘキモ何分輿論ノ惡化ハ憂フヘキニ付日本ヲ左右シ居ル責任者ニ於テ常ニ其ノ指導ニ有效ナル現實的措置ニ出テラレンコトヲ切望スト述ヘタリ尙「ヘンダーソン」代理大使ニハ常ニ聯絡ヲ執リ居ルカ特ニ八日西參事官ヨリ蘇側ノ意圖竝ニ我方ノ立場ヲ説

明シ充分了解セシメ置キタリ

米ヘ轉電シ在歐各大使(土ヲ除ク)ヘ暗送セリ

~~~~~

1324

昭和12年10月29日

在米國齋藤大使ヨリ  
広田外務大臣宛(電報)

日中直接交渉開始や休戰実施の可能性に関する  
前駐日大使キャッスルと須磨參事官との意

見交換報告

ワシントン 10月29日後発

本省 10月30日前着

第五七一號(極秘)

二十八日須磨前約ニ依リ前駐日大使「カッスル」ヲ往訪シタルニ「カッスル」ハ米國勞働總同盟幹部「ゲーナー」ノ話ニ依レハ今次事件ニ關スル日本ノ立場説明ノ爲鈴木文治來月二十日着米ノ豫定ナルカ右ハ當國勞働者方面ノ反日空氣ニモ鑑ミ鈴木自身ノ爲ノミナラス日本ノ爲ニモ面白カラサルヘシトノコトナリト述ヘタル上去ル十一日頃在本邦「グルー」大使ヨリ書信接到從來日支事變ニ對スル國務省ノ態度ハ賢明ナリシモ市俄古ニ於ケル大統領ノ演説ハ之ニ



暗影ヲ與ヘタル旨申シ來レリ自分モ Quarantine トカ或ハ日本カ第三國ノ介入ヲ極力排斥シ居ル今日日支間ニ仲介ヲ爲スト言フカ如キコトハ不適當ト考フ自分カ國務省内ノ知人ニ尋ネタルニ大統領ノ演説ハ全ク突然ノコトニシテ國務省トシテハ唯之ニ追隨スル外ナカリシトノコトナリ又武府會議ニ付テハ自分モ適當ナラスト考ヘ居ル處國務省ニ於テモ「デービス」出發前ヨリ「バンゼーランド」内閣ノ崩壞豫見セラレ居リ從ツテ會議延期セラルル内ニ事件片付キ日支間ニ直接交渉開始セラレ會議開催ノ必要ナキニ至ルヤモ知レスト認メ居タル模様ナリ就テハ右ノ如キ事態ニ立到ル見込ナキヤト問ヒタルニ付須磨ヨリ何時ニテモ支那カ兩手ヲ擧ケテ我方ノ要望ニ聽從スルニ於テハ事件ハ片付ク譯ナルカ第三國ノ介入ハ事態ヲ紛糾セシムルノミニシテ不可ナリ尤モ支那カ日本ト直接交渉ニ入り日本ノ言ニ聽從スル様外國ヨリ支那ヲ説得セラルルコトハ結構ナリト述ヘタルニ「カツスル」ハ右ノ如ク支那ヲ説得スルコトニ付テハ「ジョンソン」大使カ適任ト認メララルモ例ノ同大使南京大使館引揚事件ニ依リ支那側ニ面白カラサル印象ヲ與ヘ又當國輿論ノ反對ヲ受ケタル次第第二ニ「カツスル」ハ右南京引揚

ハ「ハル」長官、「ウエルズ」次官出張中長官代理「ムーア」顧問カ之ヲ命シ「ハル」歸還後引返ヲ命シタル次第第二ニ「ジョンソン」ニ對シテハ頗ル氣ノ毒ナル旨述ヘタリ（適當ナラス或ハ「グルー」大使邊ニ爲サシムルモ一案カトモ思ハル右ハ兎ニ角一九三二年上海事件ノ際ノ例モアリ此ノ際一應休戦シ後始末ハ後ニ考慮スルコト出來サルヤ斯クセハ武府會議モ自然消滅トナルヘシト述ヘタルニ付須磨ハ此ノ際休戦ノミヲ爲スコトハ不可ナリ日本トシテハ今次ノ如キ事件カ將來再ヒ起ラサル様スルコト必要ナレハナリト述ヘタルニ「カツスル」ハ若シ事件カ長引ケハ事態ハ紛糾シ蘇聯邦カ之ニ介入スルノ危険ナキニシモアラス自分ハ蘇聯邦カ今次事件ニ手ヲ出ササルコトニ付重光大使ト蘇聯邦側トノ間ニ話合成立シ居ルモノカトモ考ヘ居タルカ國務省方面ノ話ニ依レハ右ハ事實ニアラスシテ蘇聯邦介入ノ危険アリトノコトナレハ速ニ休戦ヲ爲スコト如何カト考フト述ヘタルニ付須磨ヨリ蘇聯邦トノ間ニ御話ノ如キ話合ナシ然シ日本側ハ支那カ反省シ日本側ト提携スル迄手ヲ引ク譯ニ行カス蘇聯邦介入ノ危険ニ依リ支那ニ對スル關係ニ手加減ヲ加フルコトヲ得サル次第ナリト述ヘタル趣ナリ

1 外交原則尊重に関する米国の諸声明

更ニ「カッスル」ハ今次事件ニ對スル米國ノ態度ハ安心シテ可ナリ日本ニ對スル official boycott ニ迄行カス「ハル」長官ハ自己ノ平和政策ヲ確信シ居リ大統領カ之ヨリ外レルコトアルモ之ヲ止メルヘシト述ヘタル由尙「カッスル」ノ立場モアリ本件絕對極祕ニ願度シ

紐育ニ托送ノ答

英ヘ轉電セリ

英ヨリ在歐各大使、壽府ヘ轉報アリタシ

1325

昭和12年11月22日

在米國齋藤大使より  
広田外務大臣宛(電報)

米國上院外交委員長が九國條約關係国会議の  
失敗に言及し米國中立法との関連性はないと  
弁明について

ワシントン 11月22日後発

本省 11月23日前着

第六二一號

上院外交委員長「ピットマン」ハ二十日國務長官ト打合ヲ行ヒタル後新聞記者ニ對シ日支問題ニ關シ「米政府ハ武府

會議ニ對シ之以上期待ヲ懸ケ居ラス米トシテハ今後モ能フ限り他國ト協力スヘキモ今後極東ノ平和ヲ回復スル爲ノ行動ハ全然獨自且自己ノ責任ニ於テ爲サルヘシ列國ハ會議失敗ノ責任ヲ中立法ノ存在ニ歸シ居ルモ右ハ馬鹿ラシキ非難ニシテ列國政府ヨリ何等具體的提案ナキニ先立チ議會トシテ中立法ノ變更ヲ考慮スル理由ナシ」ト語レルカ同時ニ「トリビューン」華府通信ハ何人モ武府會議ノ失敗ヲ認め居ルモ外交問題ニ直接關係シツツアル「スポークスマン」カ之ヲ認メタルハ右ヲ以テ最初トスト評シ居レリ

紐育ニ轉報セリ

1326

昭和13年1月12日

在米國齋藤大使より  
広田外務大臣宛(電報)

中國政府に提示したわが方和平条件を米國政  
府にも内報しわが方立場を明確化すべき旨意  
見具申

ワシントン 1月12日後発

本省 1月13日前着

第二一號(極祕、館長符號拔)

貴電合第九八號ニ關シ(支那事變處理根本方針決定ノ件)

今次事變收拾策御決定ノ上ハ前廣ニ米國政府其ノ他重要ナル諸國政府ニ内報シ帝國ノ公正ナル態度ヲ徹底セシムルコト事變收拾ノ大局ヨリ見テ有意義ト存セラルルコト客年往電第五〇一號申進ノ通りナル處事變收拾策ノ大綱ニ付テハ既ニ在支獨大使ヨリ支那側ニ内報セラレ居リ自然支那側ヨリ米國等ニモ通報セラレ居ルモノト認メラレ又獨大使ノ斡旋方策モ效果ヲ奏セサルコト一應明カトナリタルヤニ傳ヘラレ獨逸側ニ對スル遠慮モ其ノ必要ナキニ至リタルヤニ認メラルルノミナラス客年往電第六六五號ノ通り大統領ニ於テモ今次事變收拾ニ關シ關心ヲ有シ居ルモノト認メラレ又支那側ヨリ米國側ニ對シ事變收拾ニ關シ斡旋ヲ希望シタルヤニ傳ヘラルル今日ニモアリ旁々此ノ際本件講和條件ノ大綱ナリトモ早キニ及ンテ米國政府ニ内報シテ帝國心事ノ公正ナルコトヲ示シ置クコト今次事變(脱?)上時宜ニ適スルノ策カト認メラルルニ付テハ貴電合第一〇九號ノ次第ハアルモ右様措置方差支ナキヤ何分ノ儀至急御回電ヲ請フ

1327

昭和13年1月21日

在ニューヨーク若杉總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

「國民政府ヲ對手トセズ」声明に対する米國

紙論說報告

ニューヨーク

發

本

省 1月21日前着

特情紐育第二三號

廿日ノ「ヘラルド・トリビューン」ハ日本政府ノ蔣政府否認聲明ニ關シ次ノ如ク論シテ居ル

日本外務省ハ今迄世界ニ認メラレテ居タ支那政府ヲ日本カ法律上抹殺シタノハ國際法ニ新判例ヲ作ルモノタト言ツテ居ル勿論國際法ハ日本ノ「スポークスマン」ノ言フ如ク判決例ノ集積タカ夫ハ國際的ニ認メラレタ判決例ノ集積テ今迄ノ判例ヲ全部無茶ニ取消ス様ナモノテハナイ

日支事變ハ一年前支那國民カ一致シテ蔣介石政權ノ指導的地位ヲ認メタノヲ機トシテ起ツタノタカ日本ハ此ノ蔣介石政權ニ抵抗シテ二十年前既ニ國民ノ信望ヲ失ツタ軍閥ノ古手ヲ推シ立テルヨリ他ニ仕様カナカツタノタ日本カ支那ニ新政府ヲ樹テル爲ニ此ノ様ナ變節者ヲ買收シタコトヲ以テ

國際法ニ貢獻スルモノタト言フノハ全ク笑イタクトモ笑ヘ  
ナイコトタ

1328

昭和13年1月24日

在米國齋藤大使より  
広田外務大臣宛(電報)

広田外相の議會演説を批判する米國紙論説報告

第四〇號

ワシントン 1月24日後発  
本省 1月25日前着

閣下ノ議會演説ニ對シテハ「タイムス」カ全文ヲ掲ケタル  
外當方面各紙共要領ヲ報道スルト共ニ、三論評ヲ加ヘタ  
ルモノアル處「ポスト」ハ支那カ軍事的敗北ト廣大ナル領  
土ノ喪失トニ拘ラス尙且戰爭ヲ續クル所以ハ日本ノ對支最  
少限度ノ要求ヲ發表セル廣田外相ノ議會演説ヲ一讀スレハ  
明カニシテ日本ノ要求條件ハ具體的ニ言ヘハ支那政府ヲ完  
全ニ日本ノ傀儡タラシムルコトヲ意味スルモノナリ廣田ハ  
日本ニ領土的野心ナキコト及外國在支權益ヲ尊重スヘキコ  
トヲ誓ヒタルモ日本カ支那ヲ支配下ニ置キタル曉其ノ約束  
ヲ棄テテ顧ミサルヘキコトハ從來ノ經驗ニ徴スルモ想像ニ

難カラサル所ニシテ將來日本カ支那ノ門戸開放ヲ認ムルコ  
トアリトセハ夫レハ條約ニ忠實ナランカ爲ニアラスシテ今  
次戰爭ノ結果財政窮乏ニ陥リ支那ノ資源開發ニ外國資本ノ  
援助ヲ必要トスルカ爲ナルヘシト説キ「ボルチモアサン」  
ハ外相ノ演説ハ何等新味ナク日本ハ支那ノ反日運動ノ責任  
ヲ蔣介石ニ歸セント努力シツツアルモ右ハ日本ノ欺瞞政策  
ノ一ニ外ナラス支那國民ハ蔣介石ニ依ツテ戰爭ニ仕向ケラ  
レ居ルヨリモ寧ロ支那國民カ蔣ヲ驅ツテ戰爭ヲ行ハシメツ  
ツアル實情ナルヲ以テ對日抵抗ハ支那國民ノ意思ニ反スト  
ノ宣傳ハ不成功ニ終ルヘキノミナラス日本國內ニ於テモ政  
府ノ檢閲及煽動政策ニ拘ラス真相ハ漸次國民ノ間ニ明カト  
ナルヘシト論シ居レリ  
紐育ニ轉報セリ

編注 本書第199文書。

1329

昭和13年1月29日

在米國齋藤大使より  
広田外務大臣宛(電報)

米國の対日感情はパネー号事件以来釈然とし

ないものがあるため南京での米国外交官殴打

事件の急速解決方意見具申

ワシントン 1月29日後発

本 省 1月30日前着

第五〇號(極秘)

在南京米国大使館書記官「アリソン」ノ日本兵ニ依ル殴打事件ハ當方面ニモ大袈裟ニ傳ヘラレ居ル處事件ノ真相ハ當方ニ於テハ判明セサルモ「パ」號事件以來何トナク釋然タラサル感情カ一般輿論ノ底ニ流レ居ルコトハ既電ノ通りナルノミナラス對支武器供給ニ關シ英、佛、蘇ヨリ米國ニ協力ヲ求メツツアル旨報セラレ又往電第四五號當國ノ大海軍擴張案議會ニ提出セラレ居ル折柄ニモアリ旁此ノ際當國輿論ノ動向ハ特ニ深甚ノ注意ヲ要スル儀ナルニ付既ニ御氣付ノコトト拜察スルモ事件ノ急速解決方此ノ上トモ御配慮相成様致度シ

英、紐育へ轉電セリ



1330

昭和13年3月17日

在米國齋藤大使より  
広田外務大臣宛(電報)

米國國務長官のナシヨナル・プレス・クラブ

での演説につき報告

ワシントン 發

本 省 3月17日後着

特情華府第六號

「ハル」國務長官ハ十七日正午「ナシヨナル・プレス、クラブ」ノ午餐會ニ臨ミ「米國ノ外交政策」ナル題下ニ一場ノ演説ヲ試ミタ右演説ハ「ラヂオ」ヲ通シテ全米ハ勿論數箇國語ニ翻譯サレテ全世界ニ中繼放送サレタカ「ハル」長官ハ同演説ニ於テ國防問題ヲ始メ對極東政策其ノ他米國ノ當面スル各般ノ問題ヲ拉シ來ツテ之ニ對スル米國政府ノ方針ヲ闡明シ昨年七月十六日ノ「ハル」聲明ニ次ク重大演説トシテ注目サレタ「ハル」長官ハ冒頭先ツ昨年七月十六日、八月十七日及八月廿三日ノ三回ニ亘ツテ行ハレタ「ハル」長官ノ公式聲明ノ趣旨ヲ再強調シタ後米國傳統的の政策ハ他國ノ權益ヲ尊重スルト共ニ他國ニ對シテハ米國權益ノ尊重ヲ要求スルニ在ル旨述ヘ次テ國防問題ニ移リ次ノ如ク演説シタ

「力ニ代リ法カ未タ世界ヲ支配スルニ至ラヌ今日自國ノ防

# 1 外交原則尊重に関する米国の諸声明

衛ニ充分ナル軍備ヲ保有スルコトハ大國家ニ課セラレタ明  
白ナル義務テアル國際無秩序カ跳梁シテ居ル時主要國家カ  
適當ナル軍備ヲ持タヌ位恐ロシイコトハアルマイ余ハ世界  
ノ現狀ヲ慎重ニ判斷シタ結果現在提案サレテ居ル軍擴案カ  
完全ニ實現サレナイ曉米國ハ想像モ出來ナイ様ナ非常ナ危  
險ニ曝サレルテアラウトノ結論ニ達シタ」  
次テ米國ノ極東政策ニ移リ

「極東ニ於ケル危局ニ際會シ米國ハ終始他ノ諸國ト協力シ  
來ツタ但シ此ノ協力ニハ同盟ト言ハルヘキ性質ノモノハ全  
ク介入セス又米國ハ總ユル意味ニ於テ紛爭ニ捲込マレルコ  
トハ之ヲ回避シテ居ル米國ノ傳統的政策ハ他國トノ間ニ同  
盟ヲ結ハス又他國ノ問題ニ介入シナイト言フ點ニアルカ我  
國ハ現在迄慎重ナル態度ヲ以テ此ノ方針ヲ取り來リ又今後  
モ此ノ方針ニ依ツテ政策ヲ進メテ行クテアラウ米國ハ今回  
ノ紛爭ニ對シ中立法ヲ發動シナカツタカ事實中立法ノ發動  
ハ同法ノ目指ス目的其ノモノヲ却ツテ破壊シ去ル危險カ多  
分ニアツタノタ政府ハ不干渉方針ヲ堅持シ世界警備ノ爲米  
國ノ武力ヲ行使スルト言フカ如キ意圖ハ未タ曾ツテ抱イタ  
コトナク又現在モ抱イテ居ナイ然シ同時ニ政府ハ過去一世

紀半ニ亘ル米國ノ傳統ニ逆行シテ法ニ依ツテ支配サレル國  
際秩序カ世界各地ニ打チ樹テラレルコトヲ希ヒ且ニ深甚ナ  
關心ヲ有スルトノ政策ヲ放棄シヨウトスルモノテモナイ完  
全ナル孤立主義者ノ提唱スル所ノ米國ハ太平洋ノ主要部分  
ヲ構成スル極東カラ手ヲ引ケト言フ如キ案ハ平和維持ノ見  
地カラ危險極マルモノテアル

不幸ニモ多數ノ米國民ハ極東ノ事態ニ對スル米國政府ノ政  
策ヲ誤解シテ居ル或者ハ米支間ノ貿易、投資關係ノミニ或  
ハ支那ニ於ケル米國ノ精神的、文化的權益ノミニ注意ヲ引  
カレテ居ル更ニ或者ハ在支米國人ヲ暴動乃至同種ノ混亂ニ  
依ル危險カラ防ク爲設定サレテ居ル治外法權或ハ駐兵權ト  
言フ様ナ特殊ナ事實ノミニ其ノ關心ヲ集中シテ居ル然シ乍  
ラ支那ニ於ケル異常ナ狀態カ消滅スルヤ即刻此ノ特殊權益  
ヲ放棄シ又在支兵力ヲ撤收スルコトコソ我々ノ政策ナノタ  
米國ノ權益及關心ノ程度ハ單ニ居留米國人ノ數乃至ハ投資  
及貿易額ノミヲ以テ計量スルコトハ出來ナイ米國ノ利害關  
係ハ更ニヨリ廣汎テアリヨリ根本的ナモノテアル最近數箇  
年ニ於ケル世界情勢ノ憂フヘキ大轉換、更ニ又茲數週間ニ  
於ケル驚クヘキ事件(歐洲ノ情勢ヲ指ス)ノ發生ハ條約蹂躪

或ハ武力ニ依ル暴行ト言フ災禍カ世界ノ一地方カラ他ノ地方ヘト如何ニ急速ニ蔓延スルカト言フ悲惨ナル事實ヲ我々ノ眼前ニ示シタルモノテアル

我々ハ世界ニ於ケル各般ノ事件カラ手ヲ引クコトハ希望シ得ヨウ然シ世界其ノモノカラ離レルコトハ出来ナイ孤立政策ハ安全ノ保障ニアラスシテ却ツテ不安全ヲ招來スルモノテアル

我々ハ世界秩序ノ基調ヲ成ス根本的の原則支持ノ政策ヲ續行スルテアラウ我々ハ互惠通商政策其ノ他ノ經濟政策ノ遂行ニ依リ世界各國間ニ於ケル正常ナル貿易手段ヲ復活シ且其ノ貿易額ヲ増大セシメルニ努メルテアラウ更ニ我々ハ經濟的安全竝ヒニ其ノ繁榮ヲ通シテ世界平和ノ増進ニ努力ヲ續ケヨウ我々ハ科學、技術其ノ他ノ國際會議ニハ従前同様參加スルテアラウ米國ハ「ルーズヴェルト」大統領ノ所謂「平和探究ニハ積極的ニ參加スル」モノテアル

1331

昭和13年3月21日

在米國齋藤大使より  
広田外務大臣宛(電報)

中立法を廢止し米國の外交政策上の制約を除

去せんとする与野党議員の合同運動が具体化  
しつつあるとの報道報告

ワシントン 3月21日後発

本省 3月22日前着

第一六四號

十七日「プレス・クラブ」ニ於ケル國務長官ノ演説等ニ刺戟セラレタル爲カ中立法ヲ廢止シ政府ノ外交政策ニ對スル束縛ヲ除去セントスル民主共和兩黨所屬議員ノ合同運動具體化シタル旨及大統領及國務長官ハ同法ノ廢止ヲ希望スル如クナルモ政府ヨリ之ヲ提案スル場合ニハ國際關係機微ナル今日議會ニ於テ論議沸騰スルコトナリ面白カラサルヲ以テ政府ノ外交方針支持者ニ於テ右運動ヲ開始スルコトナリ先ツ下院外交委員會ニ於テ右問題ヲ取上クルコトナリタル旨報セラレ居レリ尙「ニユーヨーク、タイムス」二十日、二十一日社説ニ於テ中立法ノ廢止ヲ強調シ居レリ  
英ニ轉電セリ

英ヨリ在歐各大公使ニ郵送アリタシ



1 外交原則尊重に関する米国の諸声明

1332

昭和13年6月22日  
在米國齋藤大使より  
宇垣外務大臣宛(電報)

米國上院外交委員長が中立法修正に関する研究を開始する旨を発表し國務長官も賛意表明

について

ワシントン 6月22日後発

本 省 6月23日前着

第三三七號

十八日上院外交委員長「ピットマン」ハ次期議會ニ於テ中立法「ピットマン」ハ中立法ハ西班牙及支那ニ於ケル事態ニ關聯シ種々ノ非難ヲ受ケ居リ次期議會ニ於テ改訂セラルヘキハ疑ナシト言明シタル由(其ノ他米國外交政策ノ改變行ハルヘキヲ豫期シ同委員會ハ明年一月次期議會開會ニ至ル迄ノ期間ニ於テ外交政策ニ關スル根本的研究ヲ爲スコトニ打合セタル旨發表シタルカ同日國務長官ハ新聞記者會見ニ於テ此ノ種外交政策ノ研究ハ國務省トシテ最モ歡迎スル所ニシテ獨リ議會關係者ノミナラス言論機關其ノ他一般國民ニ於テモ外交問題ニ對シ一層注意ヲ拂フコトヲ希望スル旨述ヘタル由ナリ尙國務省ニ於テハ國民ノ外交知識ヲ涵養

シ政府ノ重要外交政策決定ニ資セシムルコトヲ考慮シ右ニ關スル「キヤンペイン」ヲ開始シタル旨報セラル  
英、獨、佛、伊、蘇ニ郵送セリ

1333

昭和13年10月4日  
在米國齋藤大使より  
近衛外務大臣宛(電報)

欧州政情の影響に鑑み米國中立法が緩和される見込みは乏しく日中紛争に適用されること  
もほぼないとの観測報告

ワシントン 10月4日後発  
本 省 10月5日後着

第四六五號(至急、極秘)

貴電第三〇一號ニ關シ(米國中立法改正見透シニ關スル件)<sup>(1)</sup>  
「今次「チエツコ」問題重大化以前ニ於テハ中立法ヲ廢止乃至修正シテ大統領ノ外交政策ニ對スル掣肘ヲ緩和シ以テ侵略國ノミニ對スル武器類ノ輸出禁止等ノ方法ニ依リ必要ニ應シ侵略國ニ對シ壓力ヲ加ヘ得ル素地ヲ作り置クヘシトノ意見一部ニ唱道セラレ居タルハ屢次往電ニ依リ御承知ノ通りナルカ往電第四六四號ノ通り「チエツコ」



問題ノ反響トシテ所謂戰爭回避ノ思想ハ更ニ拍車ヲ掛ケ  
ラレ中立法ノ如キモ寧ロ之ヲ強化シ大統領ノ自由裁量ノ  
範圍ヲ局限スヘシ(例ヘハ武器類製造用ノ原料品ノ如キ  
モ武器類ト同様大統領ノ戰爭狀態存在ノ認定ト同時ニ所  
謂「キヤツシユ・キヤリー」條項ニ依ル場合ヲ除キ輸出  
禁止品トスルコト等)トノ意見一般ニ有力トナリ來リ  
(「ギヤロツプ」ノ輿論投票ノ結果ニ依ルモ同法強化ニ贊  
成ナルモノ六九「パーセント」、大統領ノ自由裁量擴大  
ニ贊成ナルモノ三一「パーセント」ナル趣ナリ)右ハ內  
政問題トモ絡ンテ政府ニ壓力ヲ加ヘ居リ(共和黨ハ上院  
議員「ナイ」ヲ先頭トシ中立法強化運動ヲ開始シタリ)  
旁今日迄ノ情勢ニ於テ判斷スレハ次期議會ニ於テ中立法  
ノ改正アリトスルモ之カ緩和ヲ見ルカ如キコトナカルヘ  
シト認メラル

一、<sup>(2)</sup>中立法ノ改正ヲ見ルト否トニ拘ラス日支事變勃發以來ノ  
情勢ニ鑑ミルニ事態ニ重大ナル變化ナキ限り今後共右事  
變ニ中立法ヲ適用スルカ如キコト大體ナカルヘシト認メ  
ラル

一、石油、鐵、銅等ノ武器類製造用原料品ニ付平時ノ輸出額

以上ノ輸出ヲ禁止スヘシトノ案カ客年一月下院外交委員  
長ニ依リ提議セラレ實現ヲ見ルニ至ラサリシハ既ニ御承  
知ノ通りナルカ其ノ後右ノ如キ意見有力ニ唱ヘラレ居ル  
ヲ聞カス

一、所謂「キヤツシユ・キヤリー」條項ハ明年五月一日以後  
效力ヲ失フコトナリ居ル處本條項適用ニ關スル大統領  
ノ自由裁量ノ範圍ハ兎モ角トシ他ノ部分ハ其ノ儘效力ヲ  
存續スル様次期議會ニ於テ立法ヲ見ルヘシト豫想セラル  
一、第三國經由輸入方法ニ付過般「ペルー」ヨリ多數ノ爆撃  
機ノ注文アリ右ハ結局日本ニ輸送セラルルニアラスヤト  
ノ印象ヲ一部ニ與ヘタルコトアルハ注意ヲ要スヘシ  
紐育ニ轉報セリ

1334

昭和13年10月6日 在本邦グルー米國大使より  
近衛外務大臣宛

中国における米國權益の擁護に関する米國政  
府の対日通牒

付記 右和訳文

EMBASSY OF THE

UNITED STATES OF AMERICA.

Tokyo, October 6, 1938.

No. 1076

Excellency.

On the occasion of the interview which Your Excellency accorded me on October 3, when I had the honor to convey orally the views and desires of my Government with regard to conditions in China being brought about by agencies or representatives of the Japanese Government, which are violative of or prejudicial to American rights and interests in China, I undertook to set forth and to extend those views and desires in a note to be presented shortly thereafter. In fulfillment of that undertaking and under instruction from my Government, I now have the honor to address Your Excellency as follows:

The Government of the United States has had frequent occasion to make representations to Your Excellency's Government in regard to action taken and policies carried out in China under Japanese to which the

Government of the United States takes exception as being, in its opinion, in contravention of the principle and the condition of equality of opportunity or the "open door" in China. In response to these representations, and in other connections, both public and private, the Japanese Government has given categorical assurances that equality of opportunity or the open door in China will be maintained. The Government of the United States is constrained to observe, however, that notwithstanding the assurances of the Japanese Government in this regard violation by Japanese agencies of American rights and interests has persisted.

As having by way of illustration a bearing on the situation to which the Government of the United States desires to invite the attention of the Japanese Government, it is recalled that at the time of the Japanese occupation of Manchuria the Japanese Government gave assurances that the open door in Manchuria would be maintained. However, the principal economic activities in that area

have been taken over by special companies which are controlled by Japanese nationals and which are established under special charters according them a preferred or exclusive position. A large part of American enterprise which formerly operated in Manchuria has been forced to withdraw from that territory as a result of the preferences in force there. Arrangements between Japan and the regime now functioning in Manchuria allow the free movement of goods and funds between Manchuria and Japan while restricting rigidly the movement of goods and funds between Manchuria and countries other than Japan.

This channeling of the movement of goods is effected primarily by means of exchange control exercised under the authority of regulations issued under an enabling law which provide expressly that for the purposes of the law Japan shall not be considered a foreign country nor the Japanese yen a foreign currency. In the opinion of my Government equality of opportunity or open door has virtually ceased to exist in Manchuria notwithstanding the

assurances of the Japanese Government that it would be maintained in that area.

The Government of the United States is now apprehensive lest there develop in other areas of China which have been occupied by Japanese military forces since the beginning of the present hostilities a situation similar in its adverse effect upon the competitive position of American business to that which now exists in Manchuria.

On April 12, 1938 I had occasion to invite the attention of Your Excellency's predecessor to reports which had reached the Government of the United States indicating that discrimination in favor of Japanese trade with North China was likewise to be by means of exchange control and to ask for assurances that the Japanese Government would not support or countenance financial measures discriminating against American interest. Although the Minister for Foreign Affairs stated then that the Japanese Government would continue to support the principle of equal opportunity or open door in China no specific reply

has yet been made by the Japanese Government on the subject of these representations.

The Government of the United States now learns that the Japanese authorities at Tientsin have in effect established an exchange control, that they are exercising a discretionary authority to prohibit exports unless export bills are sold to the Yokohama Specie Bank, and that the Bank refuses to purchase export bills except at an arbitrary rate far lower than the open market rate prevailing at Tientsin and Shanghai. A somewhat similar situation apparently prevails at Chefoo. Furthermore, reports continue to reach the American Government that a comprehensive system of exchange control will soon be established throughout North China. Control of foreign exchange transactions gives control of trade and commercial enterprise, and the exacting, either directly or indirectly, by the Japanese authorities of control of exchange in North China would place those authorities in position to thwart equality of opportunity or free

competition between Japan and the United States in that area. In such a situation, imports from and exports to the United States, as well as the choice of dealers in North China, would be entirely subjected to the dispensation of the Japanese authorities. Notwithstanding the short time that exchange control has been enforced in Tientsin, two cases of discrimination have already been brought to the attention of the Government of the United States. In one instance an American dealer in a staple commodity has been unable to export to the United States because Japanese authorities there have insisted that his export bills be sold to a Japanese bank at a price so far below the current rate of exchange of the Chinese currency in the open market that such transaction would involve a loss rather than a profit; but a Japanese competitor recently completed a large shipment invoiced at a price in United States dollars which was equivalent to the local market price calculated at the current open market rate. In the other instance, an American firm was prevented from

purchasing tobacco in Shantung unless it should purchase so-called Federal Reserve notes or yen currency with foreign money and at an arbitrary and low rate of exchange, conditions not imposed upon the company's Japanese or Chinese competitors.

The Government of the United States has already painted out to the Japanese Government that alterations of the Chinese customs tariff by the regimes functioning in those portions of China occupied by Japanese armed forces and for which the Japanese Government has formally assured its support are arbitrary and illegal assumptions of authority for which the Japanese Government has an inescapable responsibility. It is hardly necessary to add that there can be no equality of opportunity or open door in China so long as the ultimate authority to regulate, tax, or prohibit trade is exercised, whether directly or indirectly, by the authorities of one "foreign" power in furtherance of the interests of that power. It would appear to be self-evident that a fundamental prerequisite of a condition of

equality of opportunity or open door in China is the absence in the economic life of that country of preferences or monopolistic rights operating directly or indirectly in favor of any foreign country or its nationals. On July 4 I spoke to General Ugaki of the desire of the American Government that there be avoided such restrictions and obstacles to American trade and other enterprises as might result from the setting up of special companies and monopolies in China. The Minister was so good as to state that the open door in China would be maintained and that the Government of the United States might rest assured that the Japanese Government would fully respect the principle of equal opportunity.

Notwithstanding these assurances, the Provisional régime in Peiping announced on July 30th the inauguration as of the following day of the China Telephone and Telegraph Company, the reported purpose of this organization being to control and to have exclusive operation of telephone and telegraph communications in

North China. There was organized in Shanghai on July 31st the Central China Telecommunications Company, and the Special Service Section of the Japanese army has informed foreign cable and telegraph companies that the new company proposes to control all the telecommunications in Central China. According to a semiofficial Japanese press report, there was organized at Shanghai on July 28 the Shanghai Inland Navigation Steamship Company to be controlled by Japanese the reported object of which is to control water transportation in the Shanghai delta area. According to information which has reached my Government, a Japanese company has been organized to take over and operate the wharves at T'singtao which have hitherto been publicly owned and operated. Should such a development occur, all shipping of whatever nationality would become dependent upon a Japanese agency for allotments of space and stoving facilities. The wool trade in North China is now reported to be a Japanese monopoly and a tobacco monopoly in that area is reported

to be in process of formation. Moreover, according to numerous reports which have been reaching my Government, the Japanese Government is proceeding with the organization of two special promotion companies which it has chartered and which it will control with the object of investing in, unifying, and regulating the administration of certain large sectors of economic enterprise in China.

The developments of which I have made mention are illustrative of the apparent trend of Japanese policy in China and indicate clearly that the Japanese authorities are seeking to establish in areas which have come under Japanese military occupation general preferences for, and superiority of, Japanese interests, an inevitable effect of which will be to frustrate the practical application of the principle of the open door and deprive American nationals of equal opportunity.

I desire also to call Your Excellency's attention to the fact that unwarranted restrictions placed by the Japanese military authorities upon American nationals in China —

notwithstanding the existence of American treaty rights in China and the repeated assurances of the Japanese Government that steps had been taken which would insure that American nationals, interests and property would not be subject to unlawful interference by Japanese authorities — further subject American interests to continuing serious inconvenience and hardships. Reference is made especially to the restrictions placed by the Japanese military upon American nationals who desire to reenter and reoccupy properties from which they have been driven by the hostilities and of which the Japanese military have been or still are in occupation. Mention may also be made of the Japanese censorship of and interference with American mail and telegrams at Shanghai and of restrictions upon freedom of trade, residence and travel by Americans, including the use of railways, shipping, and other facilities. While Japanese merchant vessels are carrying Japanese merchandise between Shanghai and Nanking, those vessels decline to carry merchandise of other countries, and

American and other non-Japanese shipping is excluded from the lower Yangtze on the grounds of military necessity. Applications by American nationals for passes which would allow them to return to certain areas in the lower Yangtze valley have been denied by the Japanese authorities on the ground that peace and order have not been sufficiently restored, although many Japanese merchants and their families are known to be in those areas.

American nationals and their interests have suffered serious losses in the Far East arising from causes directly attributable to the present conflict between Japan and China, and even under the most favorable conditions an early rehabilitation of American trade with China cannot be expected. The American Government, therefore, finds it all the more difficult to reconcile itself to a situation in which American nationals must contend with continuing unwarranted interference with their rights at the hands of the Japanese authorities in China and with Japanese

actions and policies which operate to deprive American trade and enterprise of equality of opportunity in China.

It is also pertinent to mention that in Japan, too, American trade and other interests are undergoing severe hardships as a result of the industrial, trade, exchange and other controls which the Japanese Government has imposed incident to its military operations in China.

While American interests in the Far East have been thus treated at the hands of the Japanese authorities, the Government of the United States has not sought either in its own territory or in the territory of third countries to establish or influence the establishment of embargoes, import prohibitions, exchange controls, preferential restrictions, monopolies or special companies — designed to eliminate or having the effect of eliminating Japanese trade and enterprise. In its treatment of Japanese nationals and their trade and enterprise, the American Government has been guided not only by the letter and spirit of the Japanese American Commercial Treaty of 1911 but by

those fundamental principles of international law and order which have formed the basis of its policy in regard to all peoples and their interests: and Japanese commerce and enterprise have continued to enjoy in the United States equality of opportunity.

Your Excellency cannot fail to recognize the existence of a great and growing disparity between the treatment accorded American nationals and their trade and enterprise by Japanese authorities in China and Japan and the treatment accorded Japanese nationals and their trade and enterprise by the Government of the United States in areas within its jurisdiction.

In the light of the situation herein reviewed the Government of the United States asks that the Japanese Government implement its assurances already given with regard to the maintenance of the open door and to non-interference with American rights by taking prompt and effective measures of cause,

- (1) The discontinuance of discriminatory exchange



control and of other measures imposed in areas in China under Japanese control which operate either directly or indirectly to discriminate against American trade and enterprise;

(2) The discontinuance of any monopoly or of any preference which would deprive American nationals of the right of undertaking any legitimate trade or industry in China or of any arrangement which might purport to establish in favor of Japanese interests any general superiority of rights with regard to commercial or economic development in any region of China; and

(3) The discontinuance of interference by Japanese authorities in China with American property and other rights including such forms of interference as censorship of American mail and telegrams and restrictions upon residence and travel by Americans and upon American trade and shipping.

The Government of the United States believes that in the interest of relations between the United States and

Japan an early reply would be helpful.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency the assurances of my highest consideration.

Signed: Joseph C. Grew.

His Excellency

Prince Fuminaro Konoë.

His Imperial Japanese Majesty's

Minister for Foreign Affairs.

(付記)

昭和十三年十月六日ノ支那ニ於ケル門戸開放機會均等主義ノ擁護ニ關聯セシメタル在支米國權益確保ノ申入  
十月六日附在京米國大使來翰第一〇七六號(假譯)

去ル十月三日閣下カ本使ニ會見ノ機會ヲ與ヘラレタル折ニ  
本使ハ口頭ヲ以テ日本政府ノ出先官憲ニ依リテ齎ラサレタル所ノ在支米國權益ヲ蹂躪乃至危殆ナラシムルカ如キ事態  
ニ關スル本國政府ノ見解竝希望ヲ申述ヘ候處右ノ折本使ハ  
更ニ追ツテ提出セラルヘキ公文ニ於テ右見解及希望ヲ明記  
及敷衍致スヘキ所存ヲ申述置候、右所存實現ノ爲及本國政

# 1 外交原則尊重に関する米国の諸声明

府ヨリノ命令ニ基キ本使ハ茲ニ閣下ニ對シ左記ヲ申述フルノ光榮ヲ有シ候

米國政府ハ帝國政府ニ對シ日本軍占領下ノ支那ニ於テ日本側ノ執ラレタル行動及其ノ遂行セラレツツアル政策ニ關シ累次申入ヲ爲シタル處米國政府ハ右行動竝ニ政策ヲ以テ支那ニ於ケル機會均等門戸開放ノ主義竝ニ狀態ニ背馳スルモノナリトノ見解ノ下ニ右ニ對シ反對ノ意ヲ表明致候右累次ノ申入ニ對シ亦其他ノ公私ノ機會ニ於テ日本政府ハ支那ニ於ケル機會均等乃至門戸開放ハ維持セラルヘシトノ明確ナル保證ヲ與ヘラレ候、然シナカラ米國政府ハ右日本政府ノ保障ニモ拘ラス日本官憲ニ依ル米國ノ權益蹂躪カ引續キ存シ居リタル事ヲ認メサルヲ得サルモノニ有之候

説明ノ都合上米國政府カ帝國政府ノ注意ヲ喚起セント欲スル事態ト關係ヲ有スルヲ以テ茲ニ日本軍ノ滿洲占領當時日本政府カ滿洲ニ於ケル門戸開放ハ維持セラルヘシトノ保證ヲ與ヘラレタルコトヲ指摘致候然シ乍ラ同地ニ於ケル主要經濟活動ハ日本人ニ依ル管理ノ下ニ特惠の乃至ハ排他的的地位ヲ與フル特許ヲ以テ設立セラレタル特殊會社ニ依リテ接收セラレ候滿洲ニ於テ右以前ニ活動シ居リタル米國企業ノ

大部分ハ該地ニ行ハレタル右特惠ノ結果トシテ該地域ヨリ撤退ヲ餘儀ナカラシメラレ候滿洲ニ於テ現在活動シ居ル政權ト日本トノ間ノ取極メニヨリテ日滿間ニハ物資ノ自由ナル流通カ許サレ居ル處一方滿洲ト日本以外ノ國トノ間ニ於ケル物資ノ流通ハ嚴重ナル制限ヲ受ケ居リ候

右日滿間ノ物資流通ノ途ハ主トシテ日本ヲ外國ト見做サス且日本圓ヲ外貨ト見做ササル様明確ニ規定スルコトヲ可能ナラシムル法律ノ下ニ發セラレタル規定ニ依リテ行ハレタル爲替管理ノ方法ニヨリテ開カレタルモノニ候

米國政府ノ見解ニ於テハ滿洲ニ於ケル其ノ維持カ日本政府ニヨリテ保證セラレタルニモ拘ラス滿洲ニ於テハ最早事實上機會均等乃至門戸開放ハ存在セサルモノトナスモノニ有之候

米國政府ハ現下ノ事變ノ發生以來日本軍ノ占領下ニ在リタル支那諸地方ニ於テ米國人ノ商賣ノ競爭的地位ニ不利益ヲ齎ス可キ點ニ於テ滿洲ニ於ケル事態ト同様ナルヘキ事態ノ發生セン事ヲ危惧スルモノニ有之候

本年四月十二日本使ハ閣下ノ前任者ニ對シ米國政府ノ得タル情報カ右滿洲ニ於ケルト同様ノ爲替管理ノ方法ヲ以テ日

本ノ對北支通商ノミヲ利益スルカ如キ差別待遇ノ存スル旨報シ居ル件ニ關シ注意ヲ喚起スルト共ニ米國權益ニ對シ差別の待遇ヲ與フルカ如キ財政の措置ヲ日本政府ニ於テ援助乃至容認セサル保證ヲ與ヘラレン事ヲ要請致候處外務大臣閣下ハ日本政府ハ支那ニ於ケル機會均等門戶開放主義ノ尊重ヲ繼續スヘシト述ヘラレタルモ未タ日本政府ハ右申入ニ對スル個別的ノ回答ヲ與ヘラレ居ラサル次第二候

米國政府ハ今ヤ在青島日本官憲ハ事實上爲替管理ヲ行ヒ輸出形力横濱正金銀行ニ對シテ賣却セラレサル限り輸出ヲ禁止スルカ如キ恣意的權力ヲ行使シツツアリ且右銀行ハ天津及上海ニ於テ行ハレツツアル公開市場率ヨリモ遙カニ低キ專斷的ナル率ヲ以テセサル限り該輸出手形ノ購賣ヲ拒絕シ居ル旨ノ報道ニ接シ候、右ト略同様ノ事態ハ芝罘ニ於テモ明ラカニ存在致居候、更ニ其後米國政府ノ入手セル情報ニ依レハ廣汎ナル爲替管理ノ制度カ間モナク北支全体ヲ通シテ樹立セラルヘキ趣ニ候外國爲替管理ハ貿易及商業の企業ヲ管理セシメ得ルモノニシテ直接乃至間接ニ日本官憲ニ依リテ北支ニ於テ爲替管理ヲ施行スルコトハ日本官憲ヲシテ北支ニ於ケル機會均等乃至日米間ノ自由競争ヲ妨害シ得

ル地位ニ立タシムルモノニ候、斯カル事態ニ於テハ米國トノ輸出入貿易及北支ニ於ケル商人ノ選擇ハ全ク日本官憲ノ處置ニ依存スルモノニ有之候青島ニ於テ爲替管理ノ行ハレタルハ未タ短期間ナルニモ拘ラス既ニシテ差別待遇ヲ蒙レル二件ニ付テ米國政府ノ注意喚起セラレ候一例ニ於テ在青島日本官憲カ其輸出手形カ日本ノ銀行ニ對シテ公開市場ニ於ケル支那通貨ノ一般換算率ヨリ餘リニモ低キ率ヲ以テ賣却セラルヘキ事ヲ強要セルヲ以テ斯カル取引ハ利益ヨリハ寧口損失トナル爲同地方ノ主要物產取引ニ從事シ居ル一米人商人ハ米國向輸出ヲ爲スヲ得サリシ事例存スル處日本ノ競争者ハ最近現在ノ公開市場率ヲ以テ換算セラレタル地方市價ト等價ノ米弗建値ヲ以テ多量ノ輸出取極メヲ完成セル次第二候他ノ事例ニ於テハ一米國商社カ山東ニ於テ外貨ヲ以テ所謂聯銀券乃至ハ圓通貨ヲ專斷的ニ定メラレタル低率ヲ以テ購買セサル限り煙草ノ買付ヲ許サレサリシ事例存スル處右ノ如キ條件ハ同會社ノ日本及支那人ノ競争者ニ對シテハ課セラレサルモノニ候

米國政府ハ既ニ日本軍占領下ノ支那諸地域ニ於テ治政ノ任ニ當リ居リ且其ニ對スル日本政府ノ援助カ公式ニ保證セラ

# 1 外交原則尊重に関する米国の諸声明

レタル新政權ニ依リテ爲サレタル支那關稅ノ改正ハ專斷的ニシテ且權力ノ不法ナル僭稱ニシテ右ニ對スル日本政府ノ責任ハ免レ得サルモノナルコトヲ指摘致シ置キ候統制及課稅竝ニ貿易禁止ヲ爲ス最高權力カ直接ニセヨ間接ニセヨ一外國ノ官憲ニ依リテ右外國ノ利益伸張ノ爲メニ行使セラルル限り支那ニ於ケル機會均等乃至門戶開放ノ存シ得サルヘキコトハ殆ント贅言ヲ要セサルヘク候、支那ニ於ケル機會均等乃至門戶開放ノ基礎的要件ハ支那ニ於ケル經濟活動ニ關シ直接ニセヨ間接ニセヨ一外國乃至其國民ノミヲ利益スルカ如キ特惠乃至獨占的權利ノ存在セサルヘキ事ナル事ハ自明ノ理ナルヘク候七月四日日本使ハ宇垣大將ニ對シ支那ニ於テ特殊會社及獨占事業ノ設立ノ結果生スヘキ米國ノ貿易及其他ノ企業ニ對スル制限乃至障礙ヲ回避セラレンコトヲ希望スル米國政府ノ要望ヲ申述ヘ候宇垣大臣ハ支那ニ於ケル門戶開放ハ維持セラルヘク米國政府ハ日本政府カ機會均等主義ヲ充分尊重スヘキコトニ付キ安ンシテ可ナル可シト申述ラレ候

右諸保證ニモ拘ハラス七月三十日北平臨時政府ハ翌日附ヲ以テ支那電信電話會社ノ設立セラルヘキ事ヲ聲明セル處右

設立ノ目的トシテ報セラルル所ハ北支ニ於ケル電信電話通信ノ管理竝獨占的經營ニ在ル趣ニ候、七月三十一日上海ニ於テ中支電氣通信會社カ設立セラレ日本陸軍特務機關ハ外國電線電信ノ諸會社ニ對シ右新設會社ハ中支ニ於ケル電氣通信ノ總テヲ管理スヘキ事ヲ通告致候半官的ノ日本新聞報道ニ依レハ七月二十八日上海ニ於テ日本側ニヨリテ統制セラルヘキ内河航行汽船會社カ設立セラレタル趣ナル處右設立ノ目的トシテ報セラルル處ハ上海三角洲地域ニ於ケル水運ノ統制ニアル趣ニ候亦本國政府ノ有スル情報ニ依レハ從來一般的ニ所有及經營セラレ居リタル青島埠頭ヲ接收及經營スヘク日本會社カ設立セラレタル趣ニ候若シ右ノ如キ事態ニシテ發生センカ如何ナル國ノ船舶毛場所ノ割當及貨物積卸ノ便宜ニ關シ日本管理人ニ依存セサルヘカラサルモノト相成ルヘク候、北支ニ於ケル羊毛ノ取引ハ今や日本ノ獨占業ニシテ又同地域ニ於ケル煙草專賣モ形成ノ過程ニアル旨報セラレ居リ候更ニ本國政府ノ有スル數多ノ情報ニ依レハ日本政府ハ二個ノ特殊開發會社ノ設立ヲ圖リツツアリ右會社ニ對シテハ日本政府カ特許ヲ與ヘ且支那ニ於ケル經濟活動ノ或ル大部分ノ經營ニ對シ投資及統一竝ニ管理ヲ爲ス

目的ヲ以テ日本政府カ統制ヲナスモノナル趣ニ有之候本使ノ申述ヘタル右諸事態ハ支那ニ於ケル日本ノ政策ノ明瞭ナル傾向ヲ示シ且日本軍占領下ノ地域ニ於テ日本官憲カ日本ノ利益ノ爲ニ特惠及優越權ヲ確立スヘク努力シ居リ其必然の結果トシテ門戸開放主義ノ實際的適用ヲ破壞シ且米國市民ヨリ機會均等ヲ剝奪スルモノナルコトヲ明瞭ニ物語ルモノニ有之候

更ニ亦支那ニ於テハ米國ハ條約上ノ權利ヲ有シ且日本政府カ累次米國市民及其權益ハ日本官憲ニ依リテ不法ナル干涉ヲ受ケサルヘキ措置ノ講セラレタル事ヲ保障セラレタルニモ拘ハラス在支米國市民ニ對シテ日本軍憲ニ依リテ課セラレタル不當ノ制限ハ更ニ米國ノ權益ヲ繼續ノ重大ナル不便及困難ニ置クモノニシテ右事實ニ對シ本使ハ閣下ノ注意ヲ喚起セント欲スルモノニ有之候、戰鬭行爲ノ爲其レヨリ立退カシメラレ且日本軍力嘗テ占領シ又ハ今尙占領中ナル財産ニ復歸シ且其ヲ回復セント欲スル米國市民ニ對シ日本軍ニ依リテ課セラレタル制限ニ付特ニ申述ヘ度ク候、更ニ又上海ニ於テ日本側ニヨリテ爲サルル米國ノ郵便及電信ニ對スル檢閲及干涉竝鐵道船舶其他ノ便宜ノ利用ヲ包含セル

米國人ノ貿易居住往來ノ自由ニ對シテ課セラレタル制限ニツキテモ亦申述度候、日本ノ商船ハ上海南京間ニテ日本ノ商品ヲ運搬シ居ル處右商船ハ他國ノ商品ヲ運搬ヲ拒否シ且米國其他ノ日本以外ノ船舶ハ軍事上ノ必要ヲ理由トシテ揚子江下流地方ヨリ放逐セラレ居リ候、揚子江下流地域ノ一定地方ニ歸還方ノ爲米國市民ノ通行許可證ノ請求ハ多數ノ日本商人及其家族カ右地域ニ居ルコト周知ナルニモ拘ラス安寧秩序カ未タ充分ニ回復シ居ラサルコトヲ理由トシテ日本官憲ニヨリテ拒否セラレ來タリ候

米國市民及其權益ハ現下ノ日支衝突ニ直接基因シテ極東ニ於テ多大ノ損害ヲ蒙リ居リ最好條件下ニ於テスラ米國ノ對支貿易ノ早期回復ハ期待シ得サルモノニ候從ツテ米國政府ハ米國市民力在支日本官憲ノ手ニヨリテ爲サルル權利ニ對スル不法ナル干涉ノ繼續セララルコト及支那ニ於テ米國貿易及企業ヨリ機會均等ヲ剝奪スルカ如キ日本ノ行動竝ニ政策ヲ認容セサルヘカラサルカ如キ狀態ニ甘ンスルコトヲ尙一層困難視スルモノニ候、日本ニ於テモ亦日本政府力支那ニ於ケル其ノ軍事行動ニ關係シテ爲シタル產業貿易爲替其他ノ統制ノ結果米國ノ貿易及其他ノ權益カ頗ル困難ヲ蒙リ

# 1 外交原則尊重に關する米國の諸声明

ツツアルコトヲ申述フルコト緊急ナルヘク候

極東ニ於ケル米國ノ權益カ日本官憲ノ手ニ依リテ斯クノ如ク取扱ハレツツアルトキ米國政府ハ其領域或ハ第三國ノ領域内ニ於テ封鎖、輸入禁止、爲替管理、特惠的制限、獨占或ハ特殊會社等ヲ日本ノ貿易及企業ヲ排斥スル爲又ハ排斥スル結果トナルヘキ様企圖シテ設立セントシタルコト無之候日本國民及其ノ貿易竝ニ企業ノ取扱ニ付テハ米國政府ハ一九一一年ノ日米通商航海條約ノ規定及精神ニ基キテ處シ居ルノミナラス總テノ國民竝ニ其ノ權益ニ對スル米國政府ノ政策ノ根底ヲ成ス所ノ國際法及國際秩序ノ根本の原則ニ從ヒテ處シ居ルモノニシテ日本ノ商業及企業ハ合衆國ニ於テハ機會均等ヲ享受シ來リタルモノニ有之候支那及日本ニ於テ日本官憲ニ依リテ與ヘラレ居ル米國市民及其ノ貿易竝ニ企業ニ對スル待遇ト米國政府ノ統治範圍内ニ於テ日本市民及其ノ貿易竝ニ企業ニ對シテ與ヘラレ居レル待遇トノ間ニハ多大ニシテ而モ其ノ度合ノ増大シツツアル不均衡ノ存在スルコトヲ閣下ニ於テ御見逃シアルコト無カル可キモノト存シ候敍上ノ狀態ニ鑑ミ米國政府ハ日本政府力其ノ門戸開放及米國權益不干渉ニ付テ累次與ヘラレタル保障ヲ左記

事項實現ノ爲速時且有效ナル措置ヲ講セラルルコトニ依リテ履行セラレンコトヲ要請致候

一、支那ニ於ケル日本軍占領地域ニ於テ直接或ハ間接ニ米國ノ貿易及企業ニ對シ差別的待遇ヲ齎スカ如キ差別的爲替管理及其ノ他ノ措置ノ停止

二、支那ニ於テ米國市民カ正當ナル貿易又ハ產業ニ從事スルノ權利ヲ剝奪スルカ如キ獨占又ハ特惠ノ停止及支那ノ如何ナル地域ニ於テモ通商又ハ經濟上ノ開發ニ關シ日本ノ利益ノ爲ニ一般的優越權ノ樹立ヲ意味スルカ如キ取極メノ停止

三、米國ノ郵便及電信ノ檢閲竝ニ米國市民ノ居住、往來、貿易及海運ニ對シテ課セラレタル諸制限等ヲ含メル米國人ノ財産及其ノ他ノ權利ニ對スル在支日本官憲ノ干涉ノ停止

米國政府ハ本件ニ關スル速カナル御回答カ日米兩國ノ親善關係ノ爲メ有效ナルモノト確信致候

右申進旁本使ハ茲ニ重ネテ閣下ニ對シ敬意ヲ表シ候

敬 具



昭和13年11月5日  
在米國齋藤大使より  
有田外務大臣宛(電報)

九国条約を一方的に廃棄することは避け既成

事実の積上げにより自然消滅に導くことが得

策の旨意見具申

ワシントン 11月5日後発

本省 11月6日後着

第五一四號(至急、極秘)

目下日本内地ニ於テハ九國條約廢棄論行ハレ居リ右ハ過日  
帝國政府聲明等ト關聯シ當方面ニモ誇大ニ報道セラレ當國  
一般殊ニ上下兩議員等ヲモ鮮カラス刺戟シ居ル處右ハ左記  
理由ニ鑑ミ此ノ際表向ニ同條約ノ一方的廢棄乃至脫退ヲ爲  
スコトヲ避ケ寧ロ今後成ルヘク速ニ既成事實ヲ作上ケ同條  
約ヲ自然消滅ニ導クコトトシ要スレハ將來新ナル事態ヲ基  
礎トシテ關係各國ト協議シタル形式ニテ同條約ノ圓滿廢棄  
ヲ實現スルコト得策ナルヘシト存ス

一、同條約ニ付テハ蘇聯ノ對支進出、支那ノ不安狀態、極端  
ナル排日政策ノ實施等ニ基キ事情ニ重大ナル變化アリタ  
ルコトヲ充分説明シ得ヘキモ御承知ノ通り我ニ於テ事情

變更ニ依ル條約失效ノ理論ヲ援用スルコトハ將來我國ト  
諸外國トノ條約關係ニ面白カラサル影響アルコト(華府  
會議ニ於テ我方全權カ大正四年日支條約ノ效力ニ關聯シ  
條約ハ一方的ニ廢棄シ得サルコトヲ強調シタルコトハ御  
承知ノ通り)

(2)  
一、九國條約ハ滿洲事變以來廢止狀態ニ在リテ殆ト實際的効  
力ヲ示サス之ヲ廢棄セスシテ今日迄滿洲國ノ建設經營ヲ  
爲シ得タルコト(滿洲石油獨占問題ニ付テハ英米等ヨリ  
本條約ヲ根據トシテ再三抗議アリタルモ遂ニ泣寢入トナ  
リタルハ御承知ノ通り)等ニ鑑ミ之ヲ廢止狀態ノ儘放任  
シ置クモ我方トシテハ別段差支ナカルヘキコト

一、門戶開放主義ニ付テハ我全權ヨリ外國ノ資本、貿易、企  
業ニ對シ支那ノ門戶ヲ開放スヘキコトヲ主張シタルニ對  
シ支那全權ハ「支那國民ノ重大ナル利益及其ノ經濟生活  
ノ安固ト兩立スル限り」其ノ資源開發ニ對シ外國ノ資本  
及技術ノ協力ヲ求ムヘク即チ外國ニ於ケルト同一ノ條件  
ヲ以テ外國人ニ對シ協力ノ機會ヲ與フル意嚮ナル旨ヲ述  
ヘ外國側ニ於テハ我方ノ主張ヲ支持セス支那ノ主張ヲ默  
認シタル經緯モアリ旁今後開放主義ナルモノハ諸外國ニ

1 外交原則尊重に関する米国の諸声明

於ケルト同様ノ制限ヲ受クルモノニシテ主トシテ經濟的  
範圍ニ限ラルヘキモノナリト主張シ得ヘキコト

1336

昭和13年11月5日

在米國齋藤大使より  
有田外務大臣宛(電報)

米國國務長官は九國條約の維持にあまり拘泥  
していない旨の觀測報告

ワシントン 11月5日後発

本 省 11月6日後着

第五一五號(極秘)

五日國務省發表「ステートメント」ニ於テ米國側カ九國條  
約ノ維持ヲ主張シ居ルハ「ハル」カ「ホーンベック」一派  
ノ理想主義者ノ主張ニ一應同意ヲ與ヘ居ル程度ニ止マリ  
「ハル」トシテハ極東問題ニ關スル法律乃至事實問題ニ付  
テハ詳シク承知セス昭和九年春本使同長官ト太平洋ニ關ス  
ル日米政治協定ニ付懇談シタル際ニモ同長官ハ例ヘハ日本  
カ支那ヲ併吞スルコトアルヘキモ右ハ米國ノ重大ナル利益  
ノ侵害ト認メスト洩ラシ右ハ言ヒ過キカモ知レスト笑ニ紛  
ラシタルコトモアリ(當時往電御參照)「ハル」トシテ大體

今日ニ於テモ同様ノ氣持ニ在ルモノト認メラル  
英ニ轉電セリ

英ヨリ在歐各大使ヘ郵送アリタシ

1337

昭和13年11月6日

在米國齋藤大使より  
有田外務大臣宛(電報)

日本の九國條約廢棄說に関する米國紙報道振  
り報告

ワシントン 11月6日後発

本 省 11月7日後着

第五一七號

日本ノ九國條約廢棄說ニ關シ六日紐育「タイムス」ハ左記  
要旨ノ同紙外交記者「エドウィン、エル、デエイムス」ノ  
評論ヲ掲ケ居レリ(委細郵報)

「從來日本ハ今次事變ニ於ケル日本ノ行動ハ九國條約及不  
戰條約ニ違反セスト主張シ來レルカ今回日本カ九國條約  
ノ廢棄ヲ必要ト認ムルニ至リタルハ右主張ヲ變更シタル  
モノト認メラルコト

「華府海軍條約ハ一方的廢棄ノ規定ヲ含ミタルヲ以テ日本



ニ依ル同條約ノ廢棄ハ正當ノ權限内ノ行爲ナルカ九國條約ニハ一方的廢棄ノ規定ナク關係國間ノ協議ニ依ルノ外之ヲ廢棄スルコト不可能ナルコト

一、日本カ同條約ノ廢棄ヲ主張スル場合ニハ日米關係ハ緊張スルニ至ルヘキコト豫想セラルル處左リトテ單ナル文書ニ依ル抗議ノミニテ日本ノ支那制覇ノ野望ヲ停止セシメ得ヘシトハ信セラレサルノミナラス英米佛等關係國カ共同シテ實力措置ニ出スルカ如キコトモ殆トナカルヘク又英又ハ米カ支那ニ於ケル其ノ通商上ノ權益保護ノ爲ニ戰爭ニ訴フルカ如キコトモ考ヘラレサルコト

一、尤モ英米ハ日本ニ對抗スル手段ナキニアラス兩國ハ有ナル經濟財政上ノ武器ヲ有シ例ヘハ日本トノ通商條約ヲ廢棄シ或ハ日本ニ對スル石油供給ノ途ヲ絶ツコト可能ナルモ右ノ如キ措置ニ出スルコトハ犠牲多キノミナラス日本ハ之ヲ以テ戰爭行爲ニ類スルモノト認ムル危險アルコト

英ニ轉電シ紐育ニ郵送セリ

英ヨリ在歐各大使ニ郵送アリタシ

1338

昭和13年11月7日 在上海日高總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

日本が米国の対日通牒を無視して東亞新秩序

建設を企図していることを非難した英字紙論

調報告

上海 11月7日後発

本省 11月7日夜着

第三三三〇號

第七日<sup>(1)</sup>「デーリー、ニユース」ハ左記要旨ノ社説ヲ掲ケタリ  
日本ハ日支紛爭ニ關スル武府會議ニ出席スルヲ拒否シタルハ明白ナル九箇國條約違反ナルカ最近日本側ノ種々ナル聲明ヨリ觀取セラルル如ク日本ハ今次戰爭ニ依ル事態變更ヲ理由トシテ近ク右條約ヲ破棄スヘク從テ所謂亞細亞主義ニ基キ極東ニ於ケル日本ノ「ヘゲモニー」ヲ樹立セントスル用意アル旨專ラ噂サレ居ル處十月六日ノ米國ノ對日通牒ニ對スル日本側回答ハ廣東、漢口攻略後ニ至ルモ依然通告セラレサル一方其ノ間日本側ヨリ出テタル種々ナル聲明發表ハ若シ實行セラレハ列國ノ在支權益ヲ根絶セシムヘキ性質ノモノニシテ右ハ假令所謂「バロン、デッセイ」ナリト

# 1 外交原則尊重に関する米国の諸声明

スルモ日本ハ東亞ノ政治的、經濟的或ハ軍事的「プロツク」ヲ形成シ自ラ其ノ盟主タラントスル意思ヲ有スルコト明白ナルヘシ之ニ對スル列國ノ反應ハ未タ不明ナルモ

日本ハ列國ノ斷乎タル共同行爲ニ對シテハ抵抗スルノ實力ナキヲ以テ列國ノ在支權益擁護ノ效果ハ一二列國ノ協調カ如何ナル程度ニ迄實現スルヤニ係ル所大ナル處右通牒ニ依リ米國政府ノ執レル「リード」ニ從フモノナク延引スルトセハ滿洲事變當時米國ノ主唱ニ應セスシテ失敗セル經驗ヲ繰返スニ至ルヘシ各國ノ對日行動力時機ヲ失セス且有力ナル支持ヲ與ヘラルレハ共同行爲ナルト否トハ論外ニシテ今日ノ在支列國權益ニ對スル脅威竝ニ侵害ハ最早忍耐ノ限度ヲ超エ居リ日本力嚙ノ如ク又其ノ屢次ノ聲明ヨリ推測サルル如キ計畫ヲ實行スルモノトセハ速ニ之ヲ停止セシムルヲ可トス支那ニ於ケル現狀ハ日本ノ企圖ヲ正當化ストノ議論ハ無價值ニシテ所謂現狀ハ日本ノ條約違反及日本力現在自稱シ居ル正義感ヲ無視シテ爲サレタル不法行爲ニ依リテ齎サレタルモノナリ

北京、天津へ轉電シ香港へ暗送セリ

1339

昭和13年11月18日

有田外務大臣より  
在本邦グルー米國大使宛

米國政府の十月六日付対日通牒に対するわが

方回答

付記一 右英訳文

二 通商局第五課作成、作成日不明

「十月六日申入ニ對スル對米回答ノ反應ニ關スル件」

昭和十三年十一月十八日ノ十月六日附米國側申入

ニ對スル舊來ノ觀念乃至原則ヲ以テ新事態ヲ律シ

得ストノ回答

以書翰啓上致候陳者支那ニ於ケル貴國權益ニ關シ十月六日附貴翰第一〇七六號ヲ以テ近衛前外務大臣宛御申越ノ次第有之閱悉致候

右貴翰ニ於テ閣下ハ貴國政府ノ有スル情報ニ基キ幾多事例ヲ舉ケ支那ニ於テ帝國官憲力貴國人民ニ對シ差別待遇ヲ與ヘ貴國權益ヲ侵害シ居ル旨申述ハラレ候處是等事例ニ付帝國政府ノ見解ヲ開陳スレハ左ノ通有之候

一、青島ニ於テ現ニ輸出爲替ニ關シ實施シ居ルカ如キ措置ヲ

講スルニ至レル經緯竝ニ現状ハ帝國政府ノ承知スル所ニ依レハ左記ノ如クニテ貴國人民ニ對シ何等差別待遇トナルモノニ非スト了解ス

即チ曩ニ北支ニ於テ中國聯合準備銀行ノ設立ヲ見其ノ銀行券ハ一圓ニ付一志二片ノ對外價值ヲ有スルコトトシ其ノ發行高ハ既ニ一億數千萬圓ニ達シ一般ニ普及シ居ル次第ナリ且同銀行券ハ臨時政府ノ強制通貨ニシテ同券ノ價值維持竝ニ圓滑ナル流通ハ北支ニ於ケル經濟活動ノ運行進展ノ基礎トシテ不可缺ナルモノト認メラレタル結果帝國政府ハ之ニ協力スルノ態度ヲ執リ來レルヲ以テ帝國臣民ハ總テ同券ヲ使用シ居リ從ツテ對外輸出ニ當リテモ一志二片ノ相場ニテ外貨ニ換算シ居ル次第ナリ然ルニ他面尙同地方ニ流通シ居ル舊法幣ハ其ノ實際上ノ對外價值ハ片内外ニ下落シ居ルヲ以テ右ヲ利用セル輸出取引ハ一志二片ノ聯銀券ヲ利用シ法定ノ對外價值ニ依リ正當ナル取引ヲ行フ者ニ比シ不當ノ利益ヲ得ツアリテ聯銀券ヲ使用シ居ル帝國臣民其ノ他ハ北支新政府ノ管轄地域内ニ居住營業シツツ而モ舊法幣ノミヲ使用スルモノニ比シ不當ナル不利益ヲ蒙リ居リタル次第ナリ他面聯銀當局ニ於テ

略々等價ニテ換算シ居ル舊法幣ト聯銀券ノ對外價值ニ於テ敍上ノ開キヲ有スルコトハ延イテ聯銀券ノ對外價值更ニハ日本圓貨ノ價值ニモ惡影響ヲ及ホスヲ以テ帝國政府トシテハ右ヲ放置傍觀スルヲ得サル次第ニテ青島ニ於ケル本件輸出爲替ニ關スル措置ハ不當ニ利益ヲ得ツアリタル舊法幣使用者ノ地位ヲ聯銀券使用者ノ地位ト同等ナラシムルト共ニ聯銀券ノ對外價值維持ヲ擁護セントスル一ノ企圖ナリシモノナリ而モ本措置ハ國籍ニ依リ適用ヲ異ニスルモノニ非サルヲ以テ何等ノ差別待遇ニ非ス寧口從來一種ノ差別的待遇ヲ受ケ居リタル聯銀券使用者ノ地位ハ本措置ニ依リ初メテ同等トナリ完全ニ平等ナル基礎ノ下ニ競爭スルヲ得ルニ至レル次第ナリ

三、北支及中支ニ於ケル支那新政權力過般關稅率改正ヲ實施シタルハ曩ニ國民政府ノ施行セル稅率力不當ニ高率ニシテ經濟復興民生ノ福祉ヲ圖ルニ適セサリシニ鑑ミ合理的改正ヲ爲サントシタルモノナルモ兎ニ角取敢ヘス各國カ既ニ承認シタル一九三一年ノ稅率ヲ採用セルモノニシテ或特定國ノ利益ヲ企圖シタルモノニ非ス從ツテ右改正ニ對シ如何ナル國ノ在支居留民ヨリモ不滿ノ聲ヲ聞カサリ

シ次第ナリ帝國政府モ固ヨリ其ノ改正ノ趣旨ニ賛成ニシテ本改正ニ依リ各國ノ對支貿易ハ愈々促進セラルルモノト思考シ居レリ

三、次ニ支那ニ於ケル或種ノ企業會社ノ設立ニ付テハ今次事變後ニ於ケル支那ノ經濟財政及產業等ノ復興開發力支那民生ノ爲焦眉ノ急務ナルノミナラス帝國政府トシテハ東亞ニ於ケル新秩序建設ノ爲是等復興開發事業ノ急速ナル着手及其ノ進行ニ重大ナル關心ヲ有シ凡有積極的努力ヲ傾注シ居ルモノニシテ北支那開發及ヒ中支那振興ノ兩投資會社ノ設立ヲ見タルハ支那側ニ對シ右復興ニ必要ナル援助ヲ供與スルト共ニ支那ノ資源開發ニ寄與セントスルモノニ外ナラス何等貴國人民ノ支那ニ於ケル權益ヲ害シ其事業ニ差別待遇ヲ與フルモノニ非ス從ツテ帝國政府トシテハ新事態ニ立脚シテ我方ニ協力セントスル第三國ノ參加ニ對シ反對スル意嚮無キハ勿論寧ろ大ニ之ヲ歡迎スルモノナリ

北支及中支ニ於ケル電氣通信會社、上海ニ於ケル内河汽船會社及ヒ青島埠頭會社ノ設立モ亦事變ニヨリ破壊セラレタル通信運輸及港灣經營機關ヲ至急整備スルノ緊急必

要ニ出テタルモノナル電氣通信事業カ公共の性質ヲ有スルノミナラス治安國防等ノ關係ヨリ特殊會社ノ事業タルハ當然ナルカ其ノ他ハ普通ノ支那又ハ日本人ニシテ何レモ貴國又ハ第三國ニ對シ差別的待遇ヲ與ヘ利益ヲ獨占スルコトヲ目的トナシ居ルモノニ非ス尙羊毛取引ニ付テハ蒙疆地方ニ於テ買付機關ヲ統制シタルコトアルモ現在右ハ撤去セラレ居リ又煙草ニ付テハ現在何等專賣計畫ノ事實存セス

四、我軍占領地域ヘノ貴國人民ノ復歸ニ付テハ北支ニ於テハ右復歸力却テ復歸者ノ安全ニ害アルカ如キ特殊ノ場合ノ外之ヲ制限シ居ラス揚子江流域地方ニ於テ既ニ多數貴國人ノ復歸ヲ見タルハ御承知ノ通ナル處未タ尙一般的ニ復歸ヲ許容シ得サルハ屢次申進ノ通り或ハ治安ノ未タ恢復セラレサル爲ノ危険ヲ慮リ或ハ機密保持等我軍作戰ノ必要上第三國人ノ立入ヲ許シ得サル事由アルニ基クモノナリ其他一般ニ右占領地域内ニ於ケル貴國人民ノ居住往來營業及ヒ通商ニ課セラレ居ル諸制限モ亦占領地域内ノ治安ノ現狀及軍事上ノ必要ニ基ク最少限ノモノニシテ帝國政府ニ於テハ事情ノ許ス限り速ニ常態ニ復セシメンコト

ヲ期シ居ル次第ナリ

五、貴國領域内ニ於テ帝國臣民カ受ケ居ル待遇ト帝國内ニ於テ貴國人民ノ受ケ居ル待遇トノ間ニ何等カ根本的ナル差異アリト爲スカ如キハ帝國政府ノ意外トスル所ニシテ帝國内ニ於ケル貴國人民カ刻下ノ非常事態ニ際シ種々ナル經濟上ノ拘束ヲ課セラレ居ルハ事實ナルモ斯ノ如キ拘束ハ帝國臣民及貴國人民以外ノ外國人モ均シク之ヲ受ケ居ル所ニシテ特ニ貴國人民ニノミ課セラレタルモノニ非サルコトハ申ス迄モナシ尙貴國領域内ニ於ケル帝國臣民ノ待遇ニ關シテ貴國中ニ陳ヘラレタル貴見ニ付テハ別ニ帝國政府ノ見解ヲ申述フヘキコトヲ留保スルモノナリ

以上屢述ノ通り帝國政府ハ支那ニ於ケル貴國權益ハ之ヲ充分ニ尊重スルノ意圖ヲ以テ出來得ル限りノ努力ヲ爲シ來レルモノナル處目下東亞ニ於テハ有史以來曾テ見サル大規模ノ軍事行動行ハレツツアルヲ以テ貴國權益尊重ノ意圖ヲ實行スル上ニ時トシテ支障ヲ生スルコトアルハ貴國政府ニ於テモ御諒承相成ルヘキコトト存候

目下帝國ハ東亞ニ於テ眞ノ國際正義ニ基ク新秩序ノ建設ニ全力ヲ擧ケテ邁進シツツアル次第ナルカ之力達成ハ帝國ノ

存立ニ缺クヘカラサルモノタルノミナラス東亞永遠ノ安定ノ礎石タルヘキモノニ有之候今ヤ東亞ノ天地ニ於テ新ナル情勢ノ展開シツツアルノ秋ニ當リ事變前ノ事態ニ適用アリタル觀念乃至原則ヲ以テ其ノ儘現在及今後ノ事態ヲ律セントスルコトハ何等當面ノ問題ノ解決ヲ齎ス所以ニ非サルノミナラス又東亞恆久平和ノ確立ニ資スルモノニ非サルコトヲ信スル次第ニ有之候

然レ共貴國其他ノ列國ニ於テ敘上ノ趣旨ヲ諒解セラレ以テ企業貿易ノ諸分野ニ亘リテ東亞再建ノ大業ニ參加セラルルコトニ對シテハ帝國トシテ何等之ニ反對スルノ意嚮ナキノミナラス目下支那ニ於テ成長中ナル政權トシテモ之ヲ歡迎スルノ用意アルモノト存セラレ候

右回答申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

昭和十三年十一月十八日

外務大臣 有田 八郎

亞米利加合衆國特命全權大使

「ジヨセフ、クラーク、グルー」 閣下

(在留 | )

Excellency,

I have the honour to acknowledge the receipt of Your Excellency's Note, No. 1076, dated October 6th, addressed to the then Minister for Foreign Affairs Prince Konoye, concerning the rights and interests of the United States in China.

In the Note are cited various instances based on information in the possession of the Government of the United States that the Japanese authorities are subjecting American citizens in China to discriminatory treatment and violating the rights and interests of the United States.

I have now the honour to state hereunder the opinions of the Japanese Government with regard to these instances.

1. The circumstances which led to the adoption of the present measures concerning export exchange in Tsingtao and the present situation being, so far as the Japanese Government are aware, as set forth below, they consider

that those measures can not be construed as constituting any discrimination against American citizens.

A short time ago the Federal Reserve Bank of China was established in North China whose notes with an exchange value fixed at one shilling and two pence against one yuan, have been issued thus far to the amount of more than one hundred million yuan, and are widely circulated. These bank notes being the compulsory currency of the Provisional Government, the maintenance of their value and their smooth circulation is regarded as an indispensable basis for the conduct and the development of economic activities in North China. Consequently the Japanese Government have taken a co-operative attitude; and all Japanese subjects are using the said notes, and in their export trade are exchanging them at the rate of one shilling and two pence. On the other hand, the old fa-pi still circulating in these areas has depreciated in exchange value to about eight pence per yuan. Consequently those who are engaged in export trade and are using this

currency are enjoying illegitimate profits, as compared with those who use the Federal Reserve notes and carry on legitimate transactions at the legitimate rate of exchange: that is to say, Japanese subjects who use the Federal Reserve notes have been suffering unreasonable disadvantages as compared with persons who while residing and carrying on their business in the areas under the jurisdiction of the Provisional Government of North China, use nevertheless, the old fa-pi exclusively.

Furthermore, the existence of the before mentioned disparity in exchange value between the new notes and the old fa-pi, which the Federal Reserve Bank has been exchanging at a rate not very much below par, is bound to exert an unfavourable effect upon the exchange value of the new notes, and eventually upon the exchange value of the Japanese yen.

The Japanese Government feel that it is incumbent upon them not to remain indifferent to such a situation.

The exchange measures adopted in Tsingtao are

calculated to place the users of old Chinese currency who have been obtaining unfair profits, on equal footing with those who are using the Federal Reserve notes. These measures are also intended to protect the exchange value of the Federal Reserve Bank notes. Inasmuch as the application of the measures makes no differentiation according to nationality they cannot be considered as discriminatory measures. As a matter of fact, it is through these measures that those users of the Federal Reserve notes who had in a sense been discriminated against, have been placed on an equal footing with the others, and thus enabled to compete on a fair basis.

2. In North and Central China the new Chinese régimes some time ago effected revisions of the Customs tariff in an attempt to secure a rational modification of the former tariff enforced by the Kuo-mintang Government, which was unduly high and il-calculated to promote the economic recovery and general welfare of the Chinese people. However, the schedule actually adopted for the



time being is the one that was approved by the Powers in 1931, so that no complaint has been heard from foreign residents of any nationality on the spot. The Japanese Government are of course in favour of the purpose of the said revision, believing that it will serve to promote effectively the trade of all countries with China.

3. As for the organization of certain promotion companies in China, the restoration and development of China's economic, financial and industrial life after the present Affair is a matter of urgent necessity for the welfare of the Chinese. Moreover, the Japanese Government are deeply solicitous for the early inauguration and progress of work having for its object this restoration and development, for the sake of the realization of a new order in East Asia, and are doing all in their power in that direction. The North China Development Company and the Central China Development Company were established with a view to giving China the necessary assistance toward the said restoration and also with the

aim of contributing toward the development of China's natural resources. It is far from the thoughts of the Japanese Government to impair the rights and interests of American citizens in China or to discriminate against their enterprises. The Japanese Government therefore do not oppose, but welcome heartily, the participation of third Powers on the basis of the new situation that has arisen.

The telecommunication companies in North and Central China and of the inland navigation steamship company at Shanghai and the wharfage company at Tsingtao have also been established to meet the imperative need of an early restoration of communications, transportation, and harbor facilities. With the exception of the telecommunications enterprise, which, because of its obvious relation to the maintenance of peace and order and to the national defense, as well as because of its public character, has been placed in the hands of special companies, all these enterprises are turned over to concerns that are ordinary Chinese or Japanese juridical



persons, without any intention of allowing them to reap monopolistic profits by discriminating against America or any other Power. As regards the wool trade, while the control of purchasing agencies was enforced for a time in the Mongolian region, it has since been discontinued. There is no plan at present of any sort for establishing a monopoly in tobacco.

4. Concerning the return of American citizens to the occupied areas, Your Excellency is aware that in North China there is no restriction, excepting in very special cases where the personal safety of those who return would be endangered, while in the Yangtse Valley large numbers of Americans have already returned. The reason why permission to return has not yet been made general is, as has been repeatedly communicated to Your Excellency, due to the danger that persists because of the imperfect restoration of order and also to the impossibility of admitting nationals of third Powers on account of strategic necessities such as the preservation of military secrets.

Again, the various restrictions enforced in the occupied areas concerning the residence, travel, enterprise and trade of American citizens, constitute the minimum regulations possible consistently with military necessities and the local conditions of peace and order. It is the intention of the Japanese Government to restore the situation to normal as soon as circumstances permit.

5. The Japanese Government are surprised at the allegation that there exists a fundamental difference between the treatment accorded to Japanese in America and the treatment accorded to Americans in Japan. While it is true that in these days of emergency American residing in this country are subject to various economic restrictions, yet these are, needless to say, restrictions imposed not upon Americans alone but also on all foreigners of all nationalities as well as upon the subjects of Japan. I beg to reserve for another occasion a statement of the views of the Japanese Government concerning the treatment of Japanese subjects in American territory,

referred to in Your Excellency's note.

As has been explained above, the Japanese Government, with every intention of fully respecting American rights and interests in China, have been doing all that could possibly be done in that behalf. However, since there are in progress at present in China military operations on a scale unprecedented in our history, it may well be recognized by the Government of the United States that it is unavoidable that these military operations should occasionally present obstacles to giving full effect to our intention of respecting the rights and interests of American citizens.

Japan at present is devoting her energy to the establishment of a new order based on genuine international justice throughout East Asia, the attainment of which end is not only an indispensable condition of the very existence of Japan, but also constitutes the very foundation of the enduring peace and stability of East Asia.

It is the firm conviction of the Japanese Government

that in the face of the new situation, fast developing in East Asia, any attempt to apply to the conditions of to-day and to-morrow inapplicable ideas and principles of the past neither would contribute toward the establishment of a real peace in East Asia nor solve the immediate issues.

However, as long as these points are understood, Japan has not the slightest inclination to oppose the participation of the United States and other Powers in the great work of reconstructing East Asia along all lines of industry and trade; and I believe that the new régimes now being formed in China are prepared to welcome such foreign participation.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency the assurances of my highest consideration.

(付記1)

十月六日申入ニ對スル對米回答ノ反應ニ關スル件

去ル十月六日附米國ノ支那方面門戶開放ニ關スル申入ニ對シ我方ガ門戶開放機會均等ヲ否定スルガ如キ意味ノ回答ヲ

爲シタラン場合、米國ガ執ル可ク豫想セラルル經濟通商上ノ報復及ビ其ノ結果ガ如何ナル影響ヲ我方ニ及スベキヤニ付テ一應ノ考究ヲ爲スコト以下ノ如シ。

一、米國ノ執ル報復手段トシテ豫想セラルルトコロハ大体(イ)日米通商條約ノ廢棄(ロ)中立法ノ改正ソノ他之ヲ中心トスル武器及ビ重要資源ノ供給阻止(ハ)大統領布告ヲ以テスル互惠協定稅率均霑ノ拒否(ニ)米國市場ニ於ケル日本商人ノ商取引ノ制限其他經濟活動ニ對スル制肘及ビ(ホ)ソノ他ヲ報復的措施等ト思考セラル。

二、然ルニ右ノ中、日米通商條約ノ廢棄ハ夫レ自身米國側ノ蒙ル相當ノ損害モ避ケ難カルベク、殊ニ目下ノ環境ニ於テ肯テ之ヲ爲スハ國交上重大影響アルベキニモ鑑ミ、米國ト雖モ現在コノ危險ト犧牲トヲ肯ヘテ爲スコトハ先ヅ無キモノト見透シテ可ナルベシ。(元來前記ノ諸報復手段モ「執リ得ベキ」モノトシテ思考セラルル處之ヲ如何ナル程度現實ニ「執ル」ベキヤニ就テハ、案外微溫のナラザルベカラザルヤニ思考セラルル理由モ思考セラル。他面、相當程度迄ノコトハ、肯テコノ通商條約廢棄ノ犧牲ヲ爲サズトモ、他ノ方策ニヨリテ之ヲ行フコトヲ得ベ

ク、從テ姑ラク(イ)ノ措置ハ發生セザルモノト假想シテ可キナル可キヤニ思考ス。

三、中立法ノ發動及ビソノ改正其他ニヨリテ第一ニ蒙ル可キ影響ハ米國ヨリ輸入セラルル武器ノ杜絕ナレドモ、昨年七月以降本年八月迄ノ本邦輸入米國軍需品ノ總價額ハ約二千六百二十萬圓ニシテ、平均月額百八十萬圓見當ニシテ、コレガ杜絕ハ相當ノ苦痛ト稱シ得ベキモ、又觀方ヲ變フレバ最近ノ狀態ハ月額百萬圓乃至百二十萬圓前後ニシテ且ツソノ品目ノ大部分ハ飛行器<sup>(機)</sup>及ビソノ關係品ニシテ、我國ノ生産能力擴充ニヨルソノ代替補求<sup>(需)</sup>必シモ甚シク困難ナルモノニ非ズト思考セラル(武器ノ對日輸出許可ニ關シテハ聯邦軍需品委員會ハ事變發生以來「デイスカレツヂ」スル立場ヲトリ居ルヲ以テ中立法上ノ「純武器」ニ關シテハ我方ノ對米回答如何ニ係ラズ漸時制限ヲ受クルヲ覺悟セザルベカラズ)。但ダ、中立法ノ發動ハ啻ニ直接軍需品ニ就テノミナラズ、同法或ハソノ精神ヲ中心トスル措置ヲ以テ我國ガ大陸經營ニ、必要トスヘキ重要資材(主トシテ石油、屑鐵)ノ對日輸出制限又ハ禁止ノコトアルヘキハ少クトモ一應豫期セザル可カラズ。今

本邦ノ石油輸入額ハ金額ニシテ年額二億七八千萬圓乃至三億圓程度(昭和十二年度二億七千八百萬圓餘、内原油及重油四、七九七、六六七、二億二十萬圓。昭和十三年一月―六月迄九千四百四十萬圓餘、内原油及重油一、三〇六、六一七、六千五百七十萬圓餘)ナル處、其内米國石油ハ大體ソノ三分ノ一以上(昭和十二年全年價額凡ソ一億二千萬圓數量凡ソ七十萬、昭和十三年一月―二月分凡ソ二千四百四十萬圓、四十七萬)ヲ占ムル次第ナレバ、之ガ輸入杜絶等ノ想定ハ極メテ重大ナル性質ニ在ルコト否定シ難シ。果シテソノ大體ノ法途<sup>(代替)</sup>アリヤ否ヤ。少クトモ之ガ充分ナル考察檢討ヲ要スヘシ。然レドモ他方米國側ニトリテモ苟モ上記ノ如キ相當額ノ石油販賣先ヲ失フコトハ、コレガ振向先容易ナラサル限りソノ石油業ノ蒙ル苦痛決シテ少シト做サザルヘク、果シテ能クソノ政治的意圖ガコノ經濟的失費ヲ強制シ得ヘキヤ否ヤノ樂觀的吟味條件モ亦存スベシ。

(註) 參考、本年六月末米國石油滯貨狀態

# 原油

―カリフォルニアⅡ重油及燃料油 三、八三三、千、バーレン

(前年七月三、七六六、千、バーレル)  
輕原油 三、五二、千、〃

( 〃 三、四三、千、バーレル)

東部カリフォルニア合計  
Ⅱ精油所在荷 四、三四、千、〃

( 〃 四、〇四、千、〃)

貯油及配給課程在荷 二〇、八九、千、〃

( 〃 二〇、一八、千、〃)

# 精油

東部カリフォルニア  
Ⅱ殘留燃料油 三、六二、千、バーレル

瓦斯及溜出燃料油 二四、六九、千、〃

精製ガソリン(精油所在荷) 四、二五、千、バーレン

(前年七月 三、四一、千、バーレン)

自然ガソリン 六、五二、千、〃

( 〃 六、九八、千、〃)

一方我國ノ製鋼技術組織及熔鑄爐能力ヨリ言フトキハ屑鐵ニ對スル需要ハ極メテ重且ツ大ナルモノアリ。(製鋼作業上最近ノ一般傾向トシテ製鋼原料トシテノ屑鐵ニ對

スル需要ハ原鐵及ヒ銑鐵ヲハルカニ凌駕スルモノアリ、殊ニ我國製銅界ノ屑鐵需要ハ極メテ大ニシテ、一九三二年以來世界第一ノ屑鐵輸入國―例ヘバ一九三六年全年ノ總輸入額一、四七三千噸ニシテ、之レハ同年ニ於ケル世界屑鐵輸入額ノ約四割ニ當ル―トナリ居レリ。而シテ我ガ米國屑鐵ノ輸入量ハ之ヲ昭和十二年全前<sup>(年)</sup>ノ數字ニ就テ觀レバ、一、八八一千噸ニシテ、ソノ輸入屑鐵ノ半以上、ヤヤ之ヲ強ク言ヘバ、其ノ大部分ヲ占ムルモノト稱シ得ベク、之ガ輸入減少或ハ杜絕ハ極メテ重大事タルコトヲ認メザルベカラズ。然モ屑鐵世界輸出額ノ凡ソ六割ハ米國ノ占ムル處ニシテ、之ニ續イテ佛蘭西ガ其一割七八分ヲ、白耳義〔ルクセンブルグ〕ヲ含ム〕ガ一割二分前後ヲ(一九三五年度ニ就テ言ヘバ、世界總額三、四五千噸中米國二、〇四五千噸、佛國六二千噸、白國四一八噸)出スニ過ギズ、米國二代ヘテ他ニ之ヲ求ムルコト殆ンド全ク不可能ナリ。尤モ屑鐵二代ヘテ何等カノ方法ニヨル原鐵及銑鐵ノ取得ノ途存ス可ク、之レハ素ヨリ萬全ヲ盡シテ劃策セザルベカラザル可キモ、從來我國ハ原鐵ニ就テハ滿支ヲ姑ラク別ニスレバ主トシテ濠洲及比律

賓ヨリ(一九三五年ニ就テ言ヘバ總輸入額三、三五一千噸中三五一千噸ヲ濠洲ヨリ、二八六千噸ヲ比島ヨリ)輸入シ、銑鐵ニ就テ言ヘバ滿洲國ヲ除キ主トシテ英領印度ヨリノ輸入(一九三五年度ニ就テ觀レバ總輸入額九四六、七二二噸―世界總額ノ五〇%―中滿洲國ヨリノ三七六千噸ヲ除イテ英領印度ハ三三二千噸)ニ俟テルモノニシテ之等ノ輸入ニ就テモ、若シ米國ガ屑鐵禁輸等ノ舉ニ出ヅルガ如キ場合ニハ、又相當ノ悲觀的變化ヲ豫想シ得ベカラザルニ非ラズ。畢竟本項ニ就テハ慎重ノ考慮ヲ要スベシ。但ダ之ニ就テモ、前項石油ニ就テト同様米國側ニ於テモ、純粹ニ經濟の見地ヨリスル限り禁輸斷行ニ就テハ實際上相當程度ノ難點無之キニ非ラザルベシ。但シ屑鐵輸出ニ關シテハ、昨夏秋以來米國ニ於テ屢々ソノ禁止氣運發生シ(例ヘバ九月九日下院外交委員會委員「マク・レイノルド」ノ議會ニ對スル右法案ノ提出方歡迎<sup>(前)</sup>及支持聲明)、同十一月臨時議會ニ於テハ右ニ關スル二、三ノ法案提出ヲ見タル次第ニテ形勢最モ樂觀シ難シ。尙ホ屑鐵以外ノ重要米國商品ノ五、六ニ就テノ對日輸出狀況ニ就テハ、附屬統計表<sup>(省略)</sup>ニ就テ知ルトコロアリ度、之レ等ニ

及ブ可キ影響ニ就テモ一應考慮ニ入レ置クノ要アル可シ。尙ホ茲一兩年ノ特異的、且ツ躍進的事實トシテ米國ヨリ上記硬油、鐵類ヲ始メソノ他ノ金物類(機械類ヲ含ム)ノ大量輸入續キ居レドモ、姑ラク、之ヲ除ケバソノ對日輸入ノ中心ハ、素ヨリ之ガ絶對量ノ減少ハ著シケレドモ、尙依然トシテ棉花(昭和十三年一月—九月累計二三六萬「ピクル」、一二三百萬圓—前年同期ノ數量三九六萬「ピクル」、前々年同期四〇五萬「ピクル」)ノ占ムル處ニシテ他ニ燐礦(石四二七萬圓(十三年一月—九月)アルヲ見ルノ外大ナルモノナシ。

三、<sup>三ツ</sup>米國ハ原則的ニ互惠稅率ノ第三國無條件均霑ヲ許シ居レドモ時ニ通商上ノ報復手段トシテ之ヲ拒否スルコトアルベキハ周知ノ如シ。本件ニ關シテモ最モ多ク或ハ容易ニ實行セラルベク豫想セラルルハコノ措置ナル處、從來十八個ノ互惠通商協定ニ於テ讓許セラレタル品目ハ或ハ自然ニ或ハ技術的ニ本邦品ノ均霑ヲ許シタルモノ多カラズ。從テ本件ノ如キ場合ニアリテハ反ツテコノ措置ヨリ受クル折撃<sup>(衝)</sup>ハ差シテ多カラザルモノト思考セラル。詳シクハ次表ニ就テ了解セラルルトコロアルベシ。(現在右二均

需スル商品ノ輸出總額凡ソ一千萬圓程度。昨今ノ對米輸出ノ一分七厘見當ニシテ、差シテ大ナラザレドモ必シモ少ナカラザルノミナラズ、ソノ大部分ハ協定率適用拒否ニヨリテ之カ輸出全額ヲ失フ可キ事情ニアルモノナル事注意ヲ要ス)。

四、米國市場ニ於ケル日本商人ノ商取引ノ制限其ノ他經濟活動ニ對スル制肘ハ相當程度各種ノ形ニ於テ各方面ニ現ハレ可キコトハ豫想ニ難カラズ。今ニシテ具體的「ケース」ヲ一々豫測スルハ不可能ナレ共ソノ影響ハ相當廣汎ナルモノト思考セザル可カラズ。但シ經濟上ノ算當ハ畢竟スルニ「算盤」ヲ以テ終始セラルルモノニシテ經濟的打算アル限り政治的感情ノ支配ニ必シモ服スルモノニ非ズ。從テソノ制肘ノ「程度」ニ就テハ案外深カラザルモノニアラザルヤニ見透シ得ル理由アリ。少クモコレヲ回避<sup>回避</sup>ハ緩和スルノ途狹カラザル可シ。但シコノ機會ハ傾向ヲ利用シテ商業上ノ競争手段トスルコト多キ惧ハ充分ナル可シ。殊ニ在米本邦人ノ社會的經濟的活動ガ何等カノ意味ニ於テ阻害セラルルコト多カル可キニ就テハ充分ノ考慮ヲ要スベケレドモ、他面ヨリ言ヘバ、現在凡ユル

(A) 點 (B) 金額

犠牲ニ於テ未曾有ノ國家の大事ヲ遂行中ノ次第ナレバコノ方面ニ於ケル苦痛モ可能ノ範圍迄ハ忍バレザル可カラザルモノト看做サザル可カラザルベシ。

五、其他一般ニ對日感情ノ惡化ハ脱レザル可ク假ニ他ノ積極的制肘方途執ラレザルモノトシテモ日貨「boycott」運動ニ一時的ニモセヨ活力ヲ與フルハ想像シ得ベク、從ツテ通商上ノ損害ニ就テモ、或ル程度ノ覺悟ヲ必要トナス可シ。但シ右ニ對スル商量ヲ行フ場合、理解シ置カザル可カラザルコトハ、昨年末ヨリ本年ニカケテノ對米輸出ノ大減少ノ原因ニ就テ動モスレバ云々セラレ來リタル排日貨ノ影響ハ、ソノ聲實際ヲ超エタル傾アリ、素ヨリソノ影響ノ相當存スルコトハ勿論ナレドモ、眞ニ多ク之ニ影響シタルモノハ昨年夏秋來ノ米國不景氣ナルコトハ動シ難キ事實ナリ。本項ニ對スル考察ニ就テモコノ事實ヲ念頭ニ存スルコトヲ要スベシ。

六、一般對日感情惡化ヲ利用シ米國生産業者ガ關稅法上ノ諸條項、其他通商上ノ保護的法規ヲ技術的利用、或ハ運用シテ、之レニ依リテ本邦品ノ輸入防遏ヲ試ミ來ルヘキモ之ヲ覺悟セザルベカラズ。懸案中ノモノハ、コノ機會ニ

於テ其惡化アル可キコトハ固ヨリ、既ニ一應解決濟ノモノモ、之ガ再燃決シテ保シ難カルベク、コノ點ノ警戒ハ極メテ必要ニシテ、事前ノ心組亦肝要ナルベシ。

七、而シテ茲ニ注意セラルベキコトハ、貿易上ノ直接壓迫措置モナルコトナガラ、實際效果上ヨリ言ヘバ、爲替上ノ壓迫措置ガ及ス實效ハ寧ロ前者ニ超ユルモノアルベキコトナリ。固ヨリ米國ノ爲替ハ自由ナレドモ、必シモ立法的方法ニ依ラズトモ、個々ノ技術の方途ヲ以テ爲替上ノ壓迫ヲ加ヘ來ルコト不可能ナラズ。コノ方面ヨリスル壓迫亦豫想ノ要アル可ク、且ツソノ影響ニ就テハ、之ヲ輕視製造スルコト無キモ要スベシ。

八、最後ニ我國ノ所謂「大陸經營」<sup>(二六)</sup>就テ、米資ノ建設的協力ハ望マシキトコロハ勿論ニシテ、本件ノ結果如何ニヨリテハ、然ラザル場合誘致シ得タルベキモノヲ失フ結果ニ就テモ一應ノ考慮ヲ要スベシ。

然レ共對米回答ノ如何ニ關ラズ現情勢下ニアリテハ米ガ實際的ニ誘致ニ應ジ得ザルハ、滿洲事變以來ノ經驗ニ徴スルモ明カナルベク、要ハ東亞建設ニ協力的態度ヲ以テ望ムベキ資本ハ決シテ之ヲ壓迫セザルベキヲ具體的ニ示



サザレバ米ヲ誘致ハ不可能ナルベキヲ以テ本件否定的回答ガ米資誘致工作ニ及ボスベキ影響ハ差シテ大ナラズト認メラル。

1340

昭和13年12月2日

在上海日高総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

重慶政権が米國議會に対し中立法の条文再検討を要請しつつあるとのロイター電報告

上海 12月2日後発

本省 12月2日夜着

第三六〇一號

一日重慶發路透電ニ依レハ支那側ハ米國議會ニ對シ極東ノ現狀ニ照ラシ中立法ノ條文ニ付再考慮ヲ要請シツツアル模様ナル處同日中央日報ハ其ノ社論ニ於テ中立法ハ元來歐洲時局ニ對處スル爲起草セラレタルモノナルカ英佛兩國ハ強大ナル艦船ヲ有シ現金ヲ以テ米國ノ物資ヲ購入シ得ルヲ以テ民主國家ノミヲ利スルモノナリト稱シ侵略國ト被侵略國ニ對シ區別ナキ點ヲ指摘スルト共ニ極東ノ事態ハ之ト全然異リ海運業ノ利便ト金融資源ヲ要スルモノハ侵略國タル日

本ニシテ被侵略國タル支那ニアサルコトヲ力説シ過去十六箇月ノ日支戰爭ハ既ニ米國朝野ヲシテ現行中立法ハ極東ノ情勢ニ不當ナルコトヲ確信セシメタリト信スルヲ以テ支那ハ來ル一月ノ米國議會ニ於ケル中立法案再考ニ當リ

(一)侵略國ト被侵略國ノ區別

(二)國際聯盟國ノ規約第十六條實施ノ可能性ニ對スル考慮

(三)米國ノ對支歷史上及道德上ノ義務特ニ九箇國條約規定ノ

考察

等ノ諸點ニ付注意方希望スト結ヒ居ル趣ナリ

北京、天津、南京、漢口へ轉電セリ

1341

昭和13年12月7日

在上海日高総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

日本政府の十一月十八日付対米回答を受けて  
米國政府が經濟制裁を念頭に置いた中立法修正を検討中とのロイター電報告

上海 12月7日後発

本省 12月7日夜着

第三六三三號

## 1 外交原則尊重に関する米国の諸声明

六日倫敦發路透電ハ華府ヨリノ報道ニ依レハ米國政府高官ハ大統領カ聯邦議會ニ諮議スルコトナクシテ日本及獨逸等ニ對シ經濟的制裁ヲ課シ得ヘキ辦法ニ關シ考究中ナリト語リタル趣ナルカ大統領ハ「ホーレー・スムート」關稅法及聯邦條例ニ基キ合衆國ニ差別待遇ヲ與フル諸國ニ制裁ヲ適用スヘキ權限ヲ有スル處獨逸ノ「バーター」制及日本ノ支那ニ於ケル門戶開放拒否ハ右差別待遇中ニ包含セラルヘキヤ否ヤ問題ナルヘシト報シタルカ七日「チャイナ・プレス」ハ社説ニ於テ曩ノ米國政府ノ對日抗議ニ對スル日本側ノ傲慢ナル回答以來支那ニ於ケル日本ノ高壓的手段ヲ喰止ムル爲米國政府カスカル措置ニ出ツヘキ可能性ハ一般ニ豫測セラレタル所ニシテ之カ爲中立法ノ改正力問題トナリ居ルモ議會開會前ニ日本及其ノ他ノ侵略國ニ有效的制裁手段ヲ執ルヘキ權限ヲ大統領ニ賦與セラルヘシト信セラルル節アリ過去數箇月ノ情勢ハ民主國カ日本ニ對シ所謂 quarantine 的政策ヲ採リ在支外國權益ノ差別待遇ヲ速ニ停止セシムルコト緊要ナルヲ認識セシメタルカ強力的措置コソ日本ノ對支經濟的侵略ヲ防止セシムヘキ方法ナリト強調シ居レリ

北京、天津、南京へ轉電セリ

1342

昭和13年12月12日

在米國齋藤大使より  
有田外務大臣宛(電報)

日本の九国条約廢棄論に對して米國政府が經濟制裁を考慮中との米國紙報道振り報告

ワシントン 12月12日前發

本省 12月13日後着

第五六七號

十一日華府「ポスト」及紐育「トリビュン」兩紙上ニ於テ紐育「ヘラルド、トリビュン」華府支局長「ワーナー」ハ日本ノ九國條約廢棄說ニ關聯シ米國政府部内ニ於テハ少クトモ米國ノ經濟的報復ヲ「シーリヤス」ニ考慮シ居ルモノノ如ク唯右報復ヲ爲スコト得策ナリヤ否ヤ又如何ナル方法ニ依ルヘキヤノ問題カ残り居ル譯ニテ信賴スヘキ報道ニ依レハ現行法上實行可能ナル報復手段二個ヲ掲ケタル報告書政府部内ニ於テ既ニ作成セラレ其ノ一ハ一九三〇年「ホーレイ、スムート」關稅法第三三八條ニシテ同條ニ依レハ大統領ハ公共ノ利益ノ爲必要ト認ムル場合ニハ米國產

品ノ取引及一般ニ米國貿易ニ對シ不當ナル差別待遇ヲ爲ス國家ノ產品ノ輸入ニ對シ新規課税又ハ増税ヲ爲シ更ニ必要ノ場合ハ其ノ輸入ヲ禁止シ得ルコトナリ居リ其ノ二ハ一九三四年修正ノ聯邦法律第一八一條ニシテ同條ニ依レハ大統領ハ米國ハ米國產品ノ輸入販賣ニ對シ不當ナル差別待遇ヲ爲ス國家ノ產物ニ對シ輸入禁止ヲ爲シ得ルコトナリ居ル旨報シ居レリ而シテ右ハ日本ノ門戶開放主義廢棄等ニ關聯シ最近國務省方面ノ空氣惡化シタル旨ノ當方聞込トモ符合スル點アルニ付電報ス紐育ヘ暗送セリ

1343

昭和13年12月30日

日本政府の十一月十八日付対米回答に対する

米國政府復答

昭和十三年十二月三十日附十一月十八日附ノ我方

ノ回答ニ對スル復答

十二月三十日附在京米國大使來翰第一一五三號假譯(米二)

本國政府ノ命令ニ基キ本使ハ茲ニ閣下ニ對シ左ノ申入ヲ爲

スノ光榮ヲ有シ候

米國政府ハ在支米國權益ノ件ニ關スル十月十日附米國政府公文ニ對スル十一月十八日附帝國政府回答ヲ接受シ右ニ對シ充分ノ檢討ヲ相加ヘ申候諸事實及經驗ニ鑑ミ米國政府ハ依然トシテ其ノ曩ニ表明スル見解、即チ支那ニ於テ博愛的、教育的及商業的活動ニ從事シ居ル米國市民ノ往來及活動ニ對スル制限ノ賦課ハ從來、又右ガ今後トモ繼續セラルルニ於テハ尙更ニ、日本ノ利益ヲ特惠的地位ニ置ケルモノニシテ右ハ結果ニ於テ適法ナル米國權益ニ對シ明白ニ差別的ナリトノ見解ヲ再確言セザルヲ得ザルモノニ有之候更ニ又支那ノ一定地域ニ於ケル爲替管理、強制通貨ノ發行、關稅改正及獨占ノ助長等ニ關シテハ日本官憲ノ計畫及實行ハ右官憲ニ於テ日本政府又ハ日本軍ニ依テ支那ニ樹立維持セラレ居ル政權ガ主權力ヨリ生ズルガ如キ資格ヲ以テ行動シ更ニ又斯ク行動スルコトニ依ツテ米國ヲ含ム列國ノ確定權益ヲ無視スルカ或ハ更ニ右ヲ消滅乃至撤廢セラレタルモノト宣言サヘスル權利アリト僭稱スルコトヲ意味スルモノニ有之候

米國政府ハ前記制限及措置ハ只ニ不正及不當ナルノミナラ

# 1 外交原則尊重に関する米国の諸声明

ズ日米兩國竝ニ或ル場合ニ於テハ他ノ諸國ヲモ締約國トシテ自發的ニ協定セラレタル數種ノ義務の國際協定ノ規定ニ反スルモノナリトノ米國政府ノ確信ヲ表明致シ候

前記回答文ノ終結部分ニ於テ日本政府ハ「今や東亞ノ天地ニ於テ新ナル情勢ノ展開シツツアルノ時ニ當リ事變前ノ事態ニ適用アリタル觀念乃至原則ヲ以テ其儘現在及今後ノ事態ヲ律セントスルハ何等當面ノ問題ノ解決ヲ齎ス所以ニ非ルノミナラス又東亞恆久平和ノ確立ニ資スルモノニ非ルコトヲ確信スル」旨竝ニ「米國其他ノ列國ニ於テ敘上ノ趣旨ヲ了解セラレ以テ企業貿易ノ諸分野ニ亘リテ東亞再建ノ大業ニ參加セラルルコトニ對シテハ帝國トシテ何等之ニ反對スル意向ナキ」旨ヲ申述べラレ候

米國政府ハ其ノ十月六日附公文ニ於テ日本政府ガ支那トノ關係ニ於テ機會均等ノ原則ヲ遵守スル意思アルコトヲ繰返シ保障シタルニ鑑ミ且斯クスベキ條約上ノ義務存スルニモ鑑ミ日本政府ニ於テ之等ノ義務ヲ遵守シ之等ノ保障ヲ事實ニ於テ行ハレンコトヲ要求致シ候日本政府ハ其回答ニ於テ日本官憲ニヨリテ現出乃至養成セラレタル極東ニ於ケル「新事態」及「新秩序」ヲ米國其他ノ政府ニ於テ諒解スル

コトヲ條件トシテ右機會均等ノ原則ヲ遵守スルノ意向ナルコトヲ確信セラレタル趣ト被存候

極東ノ事態ニ關聯ヲ有スル諸條約ハ其中ニ種々ノ問題ニ關スル規定ヲ有スルモノニ候此等ノ條約締結ニ當リテハ條約諸國間ニ「ギイヴ・アンド・テイク」ノ交渉經緯有之候此等諸規定ノ或種ノモノノ實施ヲ可能ナラシメンガ爲ニ諸規定中ノ其ノ他ノ部分ガ考案セラレ且同意セラレ、又或種ノ件ニ關シテ自國ノ爲ニ安全ノ利益ヲ確保センガ爲ニ各締結國ハ其他ノ或種ノ件ニ關シテ自制スルコトヲ承認致シタル次第ニ之有候一致ヲ見タル諸規定ハ自己防衛竝ニ全體利益ヲ目的トセル取極メ、即チ一方ニ於テハ主權ノ保全、他方ニ於テハ經濟上ノ機會均等ノ相關の原則ニ依リ綜合的ニ構成セラレタルモノト稱シ得べく候從來ノ經驗ニ徴スレバ右原則中前者ノ毀損ハ殆ド例外ナク後者ノ無視ヲ伴ヘルモノニ有之候如何ナル政府ト雖モ其管轄權ノ範圍ヲ逸脱セル地域ニ於テ政治的權力ヲ行使シ始ムル時ハ何時モ必然的ニ右政府ノ國民ハ特惠の待遇ヲ要求シ且右ガ其政府ノ手ニ依テ與ヘラレルガ如キ事態ノ展開ヲ見ルモノニシテ斯クシテ機會均等ハ終ニ字キシ摩擦ヲ生ジ易キ差別待遇ガ普及スルモノニ

有之候

米國市民ノ支那ニ於ケル無差別の待遇ノ享有ハ一般のニシテ且充分確立セラレタル權利ナル處今後ハ右享受ガ米國政府側ニ於テ東亞ニ於ケル「新情勢」及「新秩序」ニ關スル日本當局ノ觀念ノ正當性ヲ承認スルヤ否ヤニ依テ決定セラレ可シトナスガ如キハ米國政府トシテハ全ク背理のナルモノト思料スル次第ニ有之候

米國政府ガ機會均等ノ原則ヲ固執シ且右ヲ擁護セントスル所以ノモノハ右原則ニ關スル諸規定ヨリ自然のニ發生スル商業上ノ利益獲得ノ希望ノミヨリ發出スルモノニテハ無之候右原則ヲ遵守スルニ於テハ經濟的、政治的安定ヲ齎シ以テ國內の福祉竝ニ國際間ノ互助的平和關係ノ兩方面ニ貢獻シ得ルトナス堅キ信念及右原則ヲ遵守セザルニ於テハ國際的摩擦竝ニ非友誼的感情ヲ生ジ其結果ハ特ニ右原則ヲ遵守セザリシ國ニ對シテハ勿論ノコト其ノ他ノ總テノ國ニ對シテモ有害ナリトナス堅キ信念、竝ニ右原則ノ遵守ハ貿易路ノ開發ニ資シ其結果國家團體ノ市場、原料及製造品ヲシテ互惠の基礎ノ土ニ其ノ利用ヲ可能ナラシムルモノナリト爲スト同様ニ堅キ信念ニ基クモノニ有之候

更ニ經濟上ノ機會均等ノ原則ハ多年ニ亘リ且幾多ノ機會ニ於テ日本政府ノ明確ニ贊同シ來リタル所ノモノニテ候右ハ日本政府ガ其遵守ヲ各種ノ國際取極及諒解ニ於テ誓約シ來レル所ノモノニテ候右ハ列國側ニ於ケル其ノ尊重ヲ日本政府ヨリラ卒先シテ屢々主張シ來リタル所ノモノニ候且亦右ハ日本政府ニ於テ其ノ遵守方ノ保障ヲ近來屢々繰返シ聲明シ來レル所ノモノニ有之候

多年ニ亘リテ確立セラレタル機會均等及衡平待遇ノ權利ハ米國市民及政府ノ正當ナル法律上ノ權利ニシテ又同時ニ他國民ノ權利ナル處右ヲ專擅のニ米國市民及政府ヨリ剝奪スルガ如キ政權ガ第三國ノ意ニヨリ其ノ特別ノ目的ノ爲ニ樹立セラルルコトハ米國市民及政府ノ容認シ得ザルモノニ有之候

從來長ク本質のニ賢明且正當ナリト思考セラレ來リ且廣ク採用セラレ又遵守セラレ來リ更ニ又其適用ニ於テモ一般的ナル機會均等ノ原則ノ如キ基本的原則ハ一方の主張ニヨリテ否認セラルルカ如キモノニテハ無之候

日本政府ノ回答文ニ於ケル「極東ニ於ケル現在及今後ノ事態」ハ舊來ノ觀念及原則ノ改訂ヲ要ストノ示唆ニ付テハ米

國政府ハ日本政府ニ對シ米國政府ノ協定改訂問題ニ關シテ堅持スル所ヲ回想セラレン事ヲ要望致候

米國政府ハ嘗テ一九三四年四月二十九日附ノ對日申入中ニ「條約ハ法律手續ヲ以テ修正乃至終止セシメ得ベキモ右ハ唯其ノ締約國ニ依リテ規定セラレタルカ承認セラレタルカ又ハ合意セラレタルカノ手續ヲ經テ爲サル可キモノナリ」トナス米國政府ノ見解ヲ表明スル所有之候

右申入ニ於テ米國政府ハ又「米國市民及米國政府ノ見解ニ於テハ他ノ關係諸國ノ同意無キ限り如何ナル國家モ他ノ主權國ノ權利及義務竝ニ正當利益ノ關係セル事態ニ付テ自國ノ意志ノミヲ以テ決定的ナルモノト爲サントスル事ハ適法ナラザル」旨ヲ申述候一九三七年七月十六日ニ爲サレタル公式且公開の聲明ニ於テ「ハル」國務長官ハ米國政府ハ「平和的討議及合意ノ手續ニヨル國際關係ニ關スル諸問題ノ調整」ヲ提唱スル旨ヲ宣言セル所有之候

最近ノ二三十年間ニハ種々ノ機會ニ於テ日本及米國ヲ含メル諸列國ハ極東ニ於ケル事態竝ニ諸問題ニ關シテ互ニ連絡シ且ツ相協議シタルコト有之候之等ノ事項ニ關シテ連絡及協議ヲ行フニ當リテ當該關係諸國ハ例外ナク過去及現在ノ

諸事實ヲ考慮スルト共ニ事態變更ノ可能ナルベキカ又望マシキカニ付注意セザリシコト無之カリシ次第ニ候、條約締結ニ當リテ關係諸國ハ有利ナル事態ノ進展ヲ容易ナラシメルコトヲ企圖スルト同時ニ問題ノ一地域又ハ諸地域ニ利害關係アルニ依ツテ該問題ニ關心ヲ有シ又ハ有スルコトアルベキ諸國間ノ摩擦ノ發生ヲ消滅又ハ防止センコトヲ企圖セル諸規定ヲ起案シ且ツ之ヲ議決シタルモノニ有之候

敘上ノ諸事實ニ鑑ミ又特ニ極メテ明確ナル目的ヲ以テ隨時嚴肅ニ合意セラレタル條約ノ諸規定ノ目的竝ニ性質ニ關聯シ、米國政府ハ之等諸條約ノ締約國中ノ一國ガ其ノ出先官憲ニ依ル行動竝ニ政府當局ノ公式聲明ニ依リ表示セラルル通り一條約上ノ誓約竝ニ他ノ關係諸國ノ有スル嚴然タル權利ヲ無視シテ當該國自身ノ選擇セル手段ニ依リ極東ニ於ケル所謂「新秩序」ノ專擅的ナル創造ヲ企圖スルガ如キ方向ニ乘出シタル事實ヲ非トスルモノニ有之候極東ノ事態ニ付テ發生シタル變化ガ如何ナルモノナルニセヨ又現存事態ガ如何ナルモノニセヨ之等ノ事項ハ過去ニ於テ極東ニ汎ク存在シタル事態ト同様米國政府ノ利害關係ヲ有スル關心事ニシテ、向後同地方ニ發生スルコトアルガ如キ諸變化、即

チ所謂「新事態」及「新秩序」ノ建設ニ至ランガ如キ諸變化モ米國政府ニトリ同様ノ關心事ニシテ右ハ又將來共然アルベキモノニ有之候米國政府ハ極東ノ事態ニ變化アリタルコトハ充分承知致居候同政府ハ亦右諸變化ノ多クノモノハ日本ノ行動ニ依リ招來セラレタルモノナルコトヲモ充分承知致居候然レ共米國政府ハ如何ナル一國ニ對シテモ其レガ自ラ其ノ主權ニ屬セザル諸地域ニ於ケル「新秩序」ノ條件ノ何タルカヲ指示シ又該國自體ヲ權力ノ享有者トナシ且右ニ關シテ自ラヲ運命ノ代行者ナリトスルガ如キコトノ必要性又ハ正常性ヲ容認セザルモノニ有之候

極東ニ於ケル國交ヲ調節シ且極東ニ於テ又ハ極東ヨリ生ズベキ摩擦ヲ回避スルノ目的ヲ以テ締結セラレタル諸條約ノ諸當事國ハ一右諸條約ハ之等目的ノ爲ニ各種ノ制限の規定ヲ包含セリ―隨時ニ而モ討議及合意ノ手續ニ依リテ變更セル事態ニ鑑ミ諸制限ヲ撤廢スル上ニ於テ又事態ノ一層ノ變化ニ鑑ミ諸制限ヲ尙一層撤廢スルコトヲ理由付ケルガ如キ事態ノ發展ヲ招來スル上ニ於テ貢獻シ來リタルモノナルコトハ全世界ヲ通シ周知ノコトハ有之候斯種手段竝ニ手續ニ依リテ極東ニ於ケル一切ノ諸國ノ關稅自主ニ關シ嘗テ存シ

タル諸制限ハ撤廢セラレタルモノニ有之候、斯種手段竝ニ手續ニ依リテ極東ニ於ケル諸國トノ關係ニ於テ嘗テ西歐諸國ガ享有シ居タル治外法權ハ支那ヲ除ク一切ノ極東諸國トノ關係ニ於テ拋棄セラレタルモノニ有之一九三一年及其レ以前數ケ年間支那ニ於テ之等ノ權利ヲ猶ホ保有シ居レル米國ヲ含ム諸國ハ右權利ノ拋棄ヲ目指シテ―既ニ其ノ時分ニ―積極的ニ交渉ヲナシ居タルモノニ有之候一切ノ分別アリ且ツ公平ナル觀察者ハ米國竝ニ「條約當事國」タル他ノ列強ガ最近數十年間ヲ通シ極東ノ諸國ニ於ケル列國ノ所謂「特殊」權利竝ニ特惠ニ頑強ニ固執セズ却テ之等諸國ニ於テ斯種權利竝ニ特惠ガ安全且ツ速ニ拋棄セラレ得ルガ如キ制度竝ニ慣行ノ發展ヲ極力助長シ居タルモノナルコトヲ知悉シ得ルモノニ有之且又一切ノ觀察者ハ之等ノ權利竝ニ特惠ガ之ヲ保有スル列國ニ依リ協定ヲ以テ自發的ニ漸次拋棄セラレツツアルコトヲ知悉シ居ル次第第二有之候他ノ諸政府ト共ニ米國政府ノ主張シ來リタルモノハ次ノ一點ニノミ有之候即チ新事態ナルモノハ列強ノ自己擁護ヲ目的トスル「特殊」制限ノ撤廢ヲ理由ツクルニ充分ナル程度ニ迄進展ヲ遂ゲ居ラザルベカラザルコト及ビ右撤廢ハ秩序アル手續



# 1 外交原則尊重に関する米国の諸声明

ニ依リ實現セラレザルベカラザルコトニ有之候

米國政府ハ常ニ協定ヲ以ツテ變更セラレ得ベキモノトナシ  
來リタルモ同時ニ又一切ノ變更ハ當該協定締約當事國間ニ  
於ケル討議竝ニ合意ニヨル秩序的ナル手續ニ依リテノミ正  
當ニ爲サレ得可キコトヲ主張シ來リタル次第ニ有之候

日本政府ハ實ニ多クノ機會ニ於テ同様ノ見解ヲ保持スル旨  
表明セラレ候

米國ハ其ノ國際關係ニ於テ國際法ニ基ク權利及ビ義務竝ニ  
條約ノ諸規定ニ淵源スル權利及ビ義務ヲ有シ候條約ノ試規<sup>(附)</sup>  
定ニ淵源スル米國ノ權利及ビ義務ノ内支那ニ於ケル又支那  
ニ關スル權利及ビ義務ハ一部分ハ米支間ノ諸條約中ノ規定  
ニ淵源シ又一部分ハ米國ト支那及ビ日本ヲ含ム他ノ數國間  
ノ條約中ノ規定ニ淵源スルモノニ有之候之等ノ諸條約ハ一  
締約國ノミナラス一切ノ締約國ノ利益ヲ保全増進スルノ目  
的ノ爲ニ誠意ヲ以テ締結セラレタルモノニ有之候米國市民  
及ビ米國政府ハ何等他國ノ出先官憲又ハ政府當局者ノ專擅  
的ナル行動ニ依ツテ米國ノ權利竝ニ義務ガ撤廢セラルルコ  
トヲ容認シ得ザル次第ニ有之候

然レ共米國政府ハ一切ノ直接關係當事國ノ權利竝ニ義務ニ

付テ妥當ニ考慮ヲ拂フガ如キ方法ヲ以テ且ツ當該關係當事  
國間ノ自由討議竝ニ新規約定ニ依リテ諸問題ノ解決ヲ計ラ  
ントスルガ如キ正義及ビ條理ニ基ケル何等ノ提案ニ對シテ  
ハ妥當且充分ナル考慮ヲ拂フノ用意ヲ絶エズ有シ來リ且今  
尙右用意アル次第ニ有之候

日本政府ニ於テ斯ル提案ヲ爲シ得ル機會ハ從來モ存在シ居  
リ又今後トモ依然トシテ存在スベキ次第ニ有之候斯ル提案  
ニシテ若シ爲サルニ於テハ米國政府ハ各國ノ同意スル如  
何ナル時期及場所ニ於テモ其ノ權益竝ニ利益ノ關聯セル日  
支兩國ヲ含ム關係諸國ノ代表者ト共ニ右提案ヲ論議スルノ  
意嚮ヲ有シ居リ將來モ亦之ヲ有スルモノニ有之候

而シテ米國政府ハ米國ノ有スル一切ノ權利ヲ其ノ儘留保シ  
之等權利ノ如何ナルモノニ對スル妨害ヲモ容認セザルモノ  
ニ有之候

右申進旁本使ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

編 注 本文書は昭和十三年十二月三十一日、在本邦グルー米

國大使を通じて日本政府に手交された。なお、本文書

の原文は見当らない。